

平成 30 年度 修士論文

地区イベントが人的関係と空間に与える影響に関する研究

ー北京市白塔寺地区を対象地区としてー

首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 都市システム科学域

17887410 劉夢晗

指導教員 饒庭伸

目次

第1章 序論

- 1-1 研究背景
- 1-2 研究目的と研究仮説
- 1-3 用語定義
- 1-4 研究構成と研究方法
- 1-5 先行研究
 - 1-5-1 北京四合院エリアに関する研究
 - 1-5-2 イベントに関する研究

第2章 研究対象地区について

- 2-1 本章の目的と調査概要
- 2-2 白塔寺地区の概要
- 2-3 北京市歴史文化保護区の計画について
- 2-4 白塔寺地区における「白塔寺再生計画（BAITASI REMADE PROJECT）」

第3章 白塔寺地区における建築・院落更新事例

- 3-1 本章の目的と調査概要
- 3-2 建築・院落更新事例
 - 3-2-1 更新された事例
 - 3-2-2 更新中事例
 - 3-2-3 全体事例
- 3-3 建築・院落更新事例の分類
- 3-4 人的関係と空間への影響
- 3-5 小括

第4章 地区全体イベントとデザインコンペ

4-1 本章の目的と調査概要

4-2 地区イベントの構成

4-3 地区全体イベント「白塔寺分会場北京国際設計週」（白塔寺 DW）

4-3-1 「北京国際設計週」イベントの概要

4-3-2 白塔寺 DW の実態

4-3-2-1 2015 年白塔寺 DW

4-3-2-2 2016 年白塔寺 DW

4-3-2-3 2017 年白塔寺 DW

4-3-2-4 2018 年白塔寺 DW

4-3-2-5 2015 年白塔寺 DW から 2018 年白塔寺 DW

4-3-3 白塔寺 DW に関わる人的関係

4-3-3-1 実施団体に対するヒアリング調査

4-3-3-2 協力開催団体に対するアンケート調査

4-3-3-3 来場者に対するアンケート調査

4-3-4 白塔寺 DW に関わる空間

4-4 デザインコンペ

4-4-1 2016 白塔寺院落更新国際方案徴集「北京小院児的重生」コンペ

4-4-2 2017 白塔寺国際方案徴集「設計市集」コンペ

4-4-3 デザインコンペに関わる人的関係

4-4-4 デザインコンペに関わる空間

4-5 人的関係と空間への影響

4-6 小括

第5章 社区文化活動空間における地区住民イベント

5-1 本章の目的と調査概要

5-2 社区文化活動空間

5-2-1 青塔胡同「青塔胡同41号書香社区文化活動空間」

5-2-2 東岔胡同「白塔寺会客厅」

5-2-3 趙登禹路「活力社区マラソン計劃」

5-3 社区文化活動空間における地区住民イベント

5-3-1 社区文化活動空間の運営主体について

5-3-2 社区文化活動空間における日常的なイベント

5-3-3 社区文化活動空間における一時的なイベント

5-4 地区住民イベントに関わる人的関係

5-5 地区住民イベントに関わる空間

5-6 人的関係と空間への影響

5-7 小括

第6章 建築・院落更新事例と地区イベントの関係

6-1 本章の目的と調査概要

6-2 建築・院落更新事例と地区イベントの関係

第7章 まとめ

7-1 各章のまとめ

7-2 明らかにしたこと

7-3 今後の課題

第 1 章 序論

1-1 研究背景

1-2 研究目的と研究仮説

1-3 用語定義

1-4 研究構成と研究方法

1-5 先行研究

1-5-1 北京四合院エリアに関する研究

1-5-2 イベントに関する研究

第1章 序論

1-1 研究背景

1970年代後半以降、中国では改革開放政策によって、高度経済成長が続いた。そして、現在、工業化・都市化・国際化が急速に進展し、伝統的な街並みが失われ、地域の歴史的な姿が消えてしまうことになりかねないという危機的な状況にある。1982年には全国における「歴史文化名城」の制度が創設され、2018年6月までに135都市が指定されている（資料1）。北京は歴史的遺産が豊富で、1982年2月に第1次指定として国家歴史文化名城に指定されている。また、1990年代から、北京市の老城（用語1）における大規模な建て替えが進み、伝統的な四合院（用語2）と胡同（用語3）が除却され、大量の高層ビルが建てられた。四合院住宅エリアの大規模更新による弊害に対して、北京清華大学の呉良鏞教授は「有機更新」（用語4）という理論を提唱し、その内容は1994年「菊児（ju-er）胡同」改造の際に具体的なプロセスの中で応用された。その後、中国では、歴史文化への関心が高まり、持続性のある発展手法が注目されるようになった。

中国の一部の地域では台湾や海外の先進事例を参考にしながら、多様な主体が地域における持続性のある発展手法を模索し、実践している。地域の中で、環境、景観、インフラストラクチャーなどを時代に合わせて改善する他、地域内の住民活動も行っている。また、地域内の在勤者と地域外の人々を巻き込み、それらの人々と地域とを繋ぐため、芸術・文化活動、様々なイベント（用語5）を開催している。2000年代から、地域住民の日常的な生活空間において、地域文化・魅力を展示するイベントが行われてきた。例えば、2005年から2年に1回深圳で「深圳城市・建築双城双年展」、2011年から年に1回北京で「北京国際設計週」、2012年から年に1回上海で「上海設計之都活動週（上海設計の都市活動週）」、2014年から年に1回成都で「成都創意設計週」が開催されている。イベントという形式が一般化されてきたが、異なる主体が芸術・文化活動やイベントを展開するため、目的も多様化しており、このようなイベントがどのように地域に変化をもたらすのかを明らかにする必要がある。

研究対象となる北京の白塔寺(bai-ta-si)歴史文化保護区（以降白塔寺地区）では地区の環境を改善するために、持続性のある「有機更新」理論に基づき、地区内の幾つかの建築、院落（用語6）の更新が実施されており、胡同の環境改善とインフラストラクチャー向上が実施されている。また、同時に、地区の発展を促進するため、その一環として、企業や大学、社会団体などの多様な主体によって地区イベント（用語7）が展開されている。白塔寺地区におけるハード面の建築・院落の更新とソフト面の地区イベントの展開、両面で実施されていることが地区にどのような変化をもたらすのかを検討することは今後の事業と他地域が同様の事業を行う際に参考になると考える。

1-2 研究目的と研究仮説

本研究は以下の3点を明らかにすることを目的とする。

目的1：白塔寺地区の建築・院落更新事例が人的関係と空間に与える影響

白塔寺地区におけるハード面の建築・院落更新事例の実態を把握して分類し、建築・院落更新事例が人的関係と空間に与える影響を明らかにする。

これについての仮説は企業や社会団体などの多様な団体は地区住民の転出変わりに白塔寺地区に転入し、白塔寺地区における地区住民の生活空間や居住空間を変化させる。例えば、スーパー、レストラン、住宅などの施設は文化創出団体やNGO団体の拠点、建築設計事務所など、企業や社会団体などの多様な団体の施設へ転換される。その結果、白塔寺地区が居住エリアから多様な用途が混ざり合ったエリアへ変化していくと考えられる。

目的2：地区イベントが地区の人的関係に与える影響

地区イベント開催により、①地区住民の間、②地区住民と地区以外の人々、③地区住民と新事業者、④地区以外の人々の間、の4つの繋がりが生まれる可能性があるため、地区イベントが白塔寺地区の人的関係に与える影響を明らかにする。

これについての仮説は白塔寺地区では、公共活動空間が少ないため、地区住民の間に交流の機会が少なく、日常会話のみに限られているが、近年、多様なイベントが計画、実施され、人々は地区イベントに参加しつつ、①地区住民の間、②地区住民と地区以外の人、③地区住民と新事業者、④地区以外の人々の間、の4つの繋がりが形成される。そして、地区イベントをきっかけに、人々は新しいことに触れ、新しい興味が生まれ、同じ興味を持つ人々同士が友達になる、というものである。

目的3：地区イベントが地区の空間に与える影響

地区イベントにより、①建築・院落が活用される、②公共活動空間が建設される、③空間環境が改善される、という3つの空間の変化が起きる可能性が高いため、地区イベントが白塔寺地区の空間に与える影響を明らかにする。

これについての仮説は地区イベント開催により、①建築・院落が利用される、②公共活動空間が建設される、③空間環境が改善される、という3つの空間変化が起きる。その結果、地区イベントは地区の空間に影響を与え、白塔寺地区の建築・院落の更新を促進する、と考えられる。

1-3 用語定義

1. 老城（旧城）：「北京における元の大都城を基礎にして明城が築かれ、これが清代に引き継がれた旧市街地で、かつては城壁に囲まれていた。故宮の周囲を皇城、元代に築かれた区域を内城、その後明代に増築された区域を外城と呼ぶ。」（※出典：参考文献 1）
2. 四合院：中国の伝統的な住宅様式で、院子（yuan-zi、中庭）を囲むように四方に平屋建ての建物が配置された住居形式である。
3. 胡同（hu-tong、細街路）：北京市の老城（旧城）の中に点在する細い路地である。
4. 「有機更新」（図1-1）：大規模な取り壊しと開発に歯止めをかけ、まちの「新陳代謝」を通じて、順を追って有機的な更新をする。まちの建築文化を守り、伝統的で良好な建築を保存させ、現代のライフスタイルに合うように、専用トイレとキッチンなどを加える。手法については、一部の違法な部分を取り壊し、老朽化した建築の場合は、伝統的な建築の要素を継承しながら、建て替えをする。良好な建築の場合は、建築を保存・再生する。地域全体にできるだけ多くの歴史的遺産を残すことを図る。

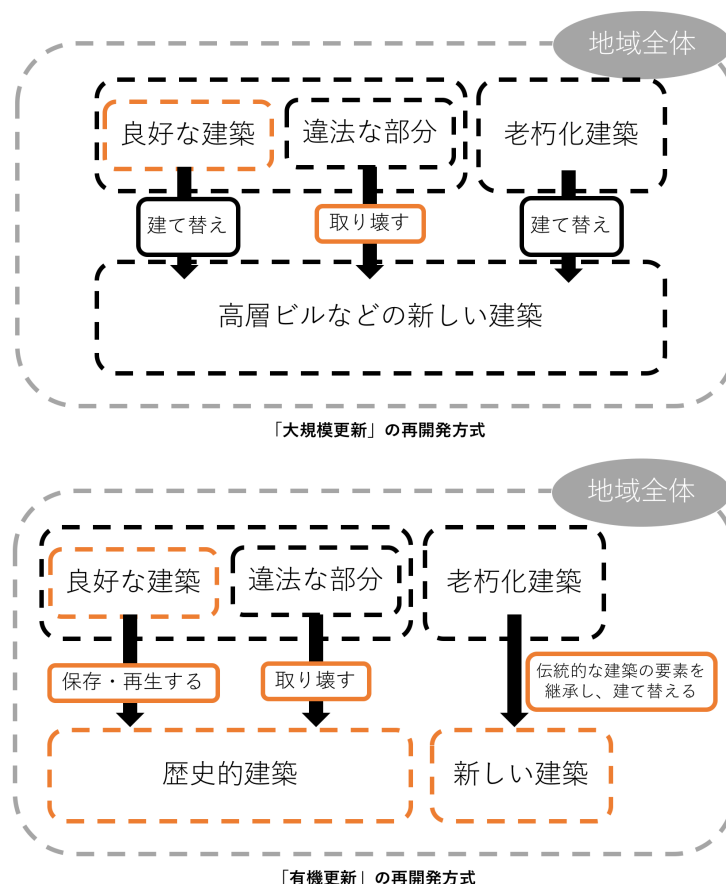


図1-1 「有機更新」

5. イベント：地域の日常生活空間におけるアート作品展覧会、建築活用型展示会・展覧会、空間利用展示会、都市更新などのゼミナー等を開催することである。
6. 院落：1箇所の四合院における世帯が1から複数になり、四合院内の空間が変わりつつ、四合院が「大雑院」になった。「院落」は「大雑院」と「四合院」の総称と単位である。
7. 地区イベント：白塔寺地区における多様な主体が開催したイベントの総称である。イベントは地区住民向けのイベントがある一方、地区住民に限らず、地区外の人々も参加できるイベントもある。一時的で短期的なイベントと長期的なイベントを含む。
8. 社区：1980年代の後半から共産党・国家が公的管理を実施するために画定した行政的地域である。その画定基準は地縁、コミュニティ内の資源配置、適切な管轄人口、所属感を抱くような住民群体である。白塔寺地区においては4つの社区がある。
9. 社区文化活動空間：社区文化活動空間は地区住民、特に社区住民に対する公共空間であり、住民の娯楽活動や勉強会、子供向けのイベントに限らず、地区住民のネットワークが育成され、地区内外の人々がその地区の文化や歴史などについて、話し合うことや、展示を行うことによって交流を図るイベントも開催される空間である。
10. 「騰退 (teng-tui)」事業 (図1-2)：地域内の人口密度を下げ、地域の生活環境を向上するために、地域環境・空間改善事業を実施する。元々の「拆迁 (chai-qian, 住宅除却移転事業)」の代わりに、住民の移転意向を聞き取り、ほかの地域への移住を促進させる。

「騰退 (teng-tui)」事業

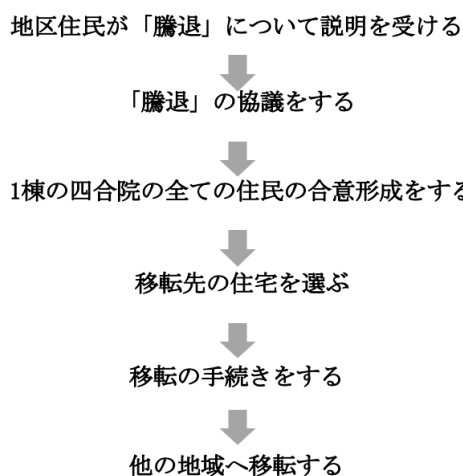


図1-2 「騰退」事業の実施経緯

1-4 研究構成と研究方法

研究の目的に応じた研究の構成を、図 1-3 に示す。

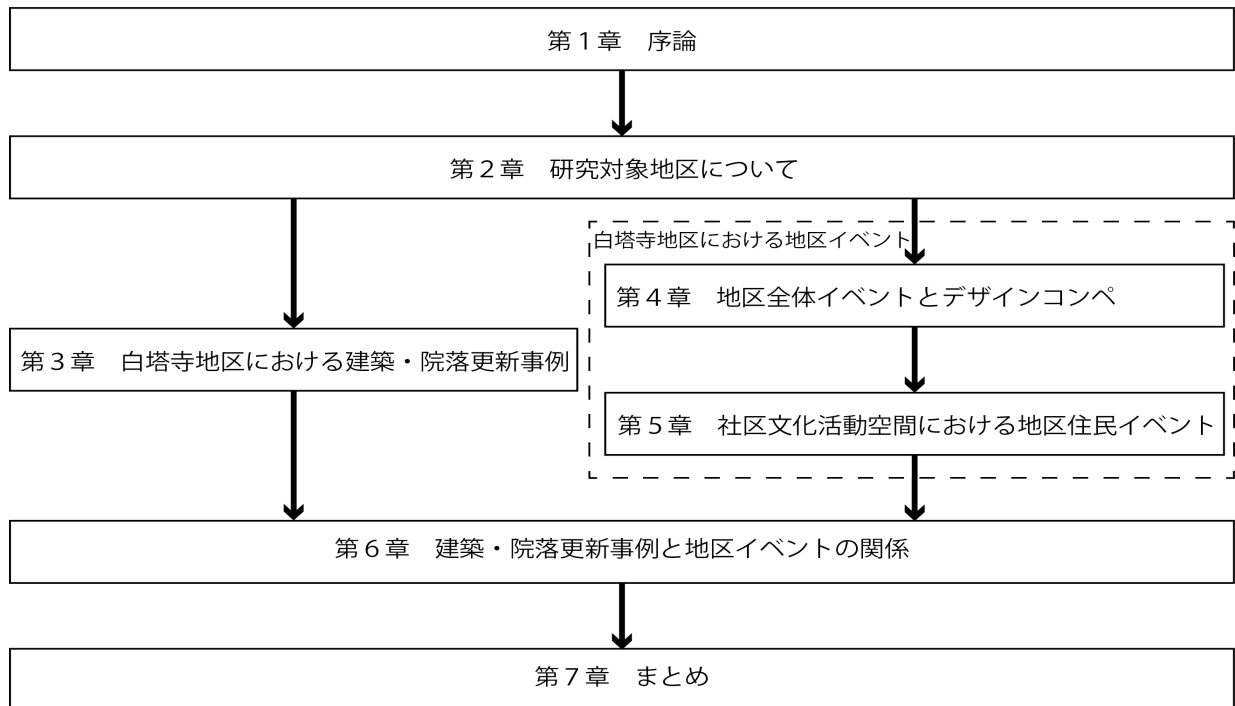


図 1-3 研究構成

第1章では、本研究の背景、目的などの概要を示す。

第2章では、文献調査により対象地区の概要と北京市における歴史文化保護区の計画内容を把握する。研究対象となる北京の白塔寺地区は地区の環境を改善するために、持続性のある「有機更新」理論に基づき、地区内のいくつかの建築、院落の更新が実施され、胡同の環境改善とインフラストラクチャー向上が実施されている。また、同時に、地区の発展を促進するため、その一環として、企業や大学、社会団体などの多様な主体による地区活動が展開されている。白塔寺地区における「白塔寺再生計画」というプロジェクトは、そのソフト面とハード面の両面で事業が実施されている。「白塔寺再生計画」プロジェクトの概要の把握を試みる。

第3章では、株式会社Hから提供を受けた資料と筆者が現地調査から収集した資料を用いて、白塔寺地区における建築・院落更新事例の実態を把握するため、建築・院落更新事例を分類した上で、建築・院落更新事例が人的関係と空間に与える影響を考察する。

第4章では、白塔寺地区における地区イベントを調べるうえで、地区イベントの中で規模が一番大きな「白塔寺分会場北京国際設計週（以降白塔寺DW）」という地区全体イベントを対象に、白塔寺DWの実態を把握する。2017年と2018年の実施団体に対するヒアリング調査と2018年の協力開催団体と来場者に対するアンケート調査、イベント開催場所の分析を行い、白塔寺DWに関わる人的関係と空間を明確する。次に、白塔寺DWに関わるデザインコンペを対象に、デザインコンペの実態を把握し、デザインコンペに関わる人的関係と空間を明確する。地区イベントの地区全体イベント（白塔寺DW）とデザインコンペが人的関係と空間に与える影響を明らかにする

第5章では、白塔寺地区の総計8箇所の社区活動空間の中の3箇所の白塔寺DWに関わる社区文化活動空間を対象に、社区文化活動空間の実態を調べる。その中で2箇所の公開されている社区文化活動空間の運営主体に対する空間の運営実態について、ヒアリング調査を行う。ヒアリング調査により、地区イベントのうち、地区住民イベントが人的関係と空間に与える影響を考察する。

第6章では、第3章の建築・院落更新事例の情報、また、第4章と第5章の地区イベント情報を整理したうえで、建築・院落更新事例と地区イベントの関係を明らかにする。

第7章では、2章から6章まで調査内容と明らかになったことを総括する。また、今後の課題を示す。

1-5 先行研究

1-5-1 北京四合院エリアに関する研究

李東動ら（2012）は、北京の南鑼鼓巷地区を事例に、雑院化・商業化による四合院変容の特性と四合院変容と街路空間との関係を調査した。①南鑼鼓巷地区における商業街の形成、②四合院変容の特性、③四合院変容と街路空間との関係、④四合院変容による街路空間の変化、の4つのことが明らかとなった。

久保妙子ら（2013）は、中国北京・菊兒胡同新四合院集合住宅を調査対象として、①庭や共同利用空間における生活、②近隣コミュニケーション意識、③サークル活動への参加、の三つの視点から住民に対してアンケート調査を実施した。研究の結果は一般集合住宅との比較によって、新四合院集合住宅の優位性が検証された。

路方芳ら（2007）は、「北京市阜成門大通り歴史的町並み保存地区の保存計画」を事例に取り上げ、現地調査と関連計画や条例の資料調査を行い、中国の歴史的町並み保存計画制度の仕組みを整理して、保存事業の実施に日本の補助金制度を導入する可能性を考察している。

北京四合院エリアに関する先行研究の中では、伝統的な建築と住環境、保護政策と制度などに関する研究は多数あった。しかし、イベントや住民活動についての研究はまだされていない。

1-5-2 イベントに関する研究

金善美（2012）は、東京・墨田区向島地区の事例を対象に、アートプロジェクトをめぐる多様なアクターの動機や相互作用を把握するため、フィールドワーク、インタビュー、参与観察調査を行った。調査によりそれらの関係性を分析した上で、①アートがもたらすもの、②ズレながら再生産される地域文化、の二つの方向性からアートプロジェクトの役割を考察している。

上段貴浩ら（2010）は、大阪市中心区空堀地区のからほりまちアートを対象に、①展示場所として場所の設定、②展示空間の空間構成、③来場者の行為、の三つの内容に着目し、59 作品に対して現地調査を実施した。アートイベントが開催されている時に、来場者は作品を見に来て、作品の背景として建物などの歴史市街地の地域資源にも注目できることを明らかにした。

春日和俊ら（2012）は、あいちトリエンナーレ 2010 長者町会場を事例とした。その中で、基準に基づき 17 箇所・29 作品を調査対象として選定し、鑑賞者と作品、設置環境の三つ視点から調査

を行った。調査は調査被験者を選び、調査被験者がイベントに参加し、調査被験者の行為と評価を分析している。

日本のアートイベントやアートプロジェクトに関する先行研究の中では、イベントにより地域文化や人的関係の変化や、空間などの活用についての調査・分析を行う研究が多かった。

本研究では、日本のイベントに関する先行研究の調査方法と分析方法を参考にしながら、北京四合院エリアの白塔寺地区を事例対象地として、地区イベントに着目し、地区イベントが人的関係と空間に与える影響を考察する。

参考文献：

1. 新井理恵、久保妙子、大西国太郎、2008 年 10 月「中国・北京旧城文化保護区における現状と保存再生課題に関する研究」日本都市計画学会，都市計画論文集 No. 43-3
2. 李東動、古谷誠章、2012「四合院の変容が歴史環境に与える影響に関する研究 中国，北京市の南鑼鼓巷地区を事例として」日本建築学会計画系論文集、第 77 巻、第 680 号、2293-2301
3. 久保妙子、新井理恵、2013「中国北京・菊児胡同新四合院集合住宅における近隣コミュニティからみた住戸外空間のあり方に関する調査研究 ―一般集合住宅と比較して―」京都聖母学院短期大学研究紀要、第 42 巻、P37-52
4. 路方芳、沈振江、川上光彦、小林史彦、2017「中国北京市の歴史的町並み保存事業について 日本的補助金制度を導入する可能性 ―北京市阜成門大通り保存地区を事例として―」日本都市計画学会都市計画報告集、No. 6
5. 金善美、2012「現代アートプロジェクトと東京「下町」のコミュニティ ―ジェントリフィケーションか、地域文化の多元化か―」日本都市社会学会年報 30、P43-58
6. 上段貴浩、脇田祥尚、2010「アートイベントによって顕在化する歴史的市街地の地域資源 ―「からほりまちアート」を事例として―」日本建築学会計画系論文集、第 75 巻、第 658 号、2873-2880
7. 春日和俊、伊藤孝紀、堀越哲美、2012「アートイベントにおける都市部の地区演出の可能性 あいちトリエンナーレ 2010 長者町会場を事例とする」日本建築学会計画系論文集、第 77 巻、第 681 号、2577-2584
8. 呉良鏞、1994「北京旧城与菊児胡同」中国建築工業出版社

第2章 研究対象地区について

2-1 本章の目的と調査概要

2-2 白塔寺地区の概要

2-3 北京市歴史文化保護区の計画について

2-4 白塔寺地区における「白塔寺再生計画（BAITASI REMADE PROJECT）」

第2章 研究対象地区について

2-1 本章の目的と調査概要

本章では、文献調査により対象地区の概要と北京市における歴史文化保護区の計画内容を把握する。研究対象となる北京の白塔寺地区は地区の環境を改善するために、持続性のある「有機更新」理論に基づき、地区内のいくつかの建築、院落の更新が実施され、胡同の環境改善とインフラストラクチャー向上が実施されている。また、同時に、地区の発展を促進するため、その一環として、企業や大学、社会团体などの多様な主体による地区イベントが展開されている。白塔寺地区における「白塔寺再生計画」というプロジェクトは、そのソフト面とハード面の両面で事業が実施されている。「白塔寺再生計画」プロジェクトの概要の把握を試みる。

2-2 白塔寺地区の概要

本研究の対象地区は北京市にある白塔寺地区である。北京（図2-1）は中国の首都で、現代中国の政治、文化と国際交流、及び科技创新の中心である。北京の都市空間の構成を、図2-2に示す。北京市の中心城区¹と核心区²、老城の範囲を図2-3、図2-4、図2-5に示す。白塔寺地区は北京市の西城区の西直門南大街の東側と阜成門内大街の北側の間である（図2-5、図2-6）。



図2-1 北京の立地

¹ 中心城区：中心城区は東城区、西城区、朝陽区、海淀区、豊台区、石景山区6つ城区があり、総計面積は約1378km²である。「北京城市総体計画（2016年-2035年）」から示されている。

² 核心区：首都功能核心区（核心区）は歴史文化名城保護の重点地区であり、総計面積は約92.5km²である。「北京城市総体計画（2016年-2035年）」から示されている。

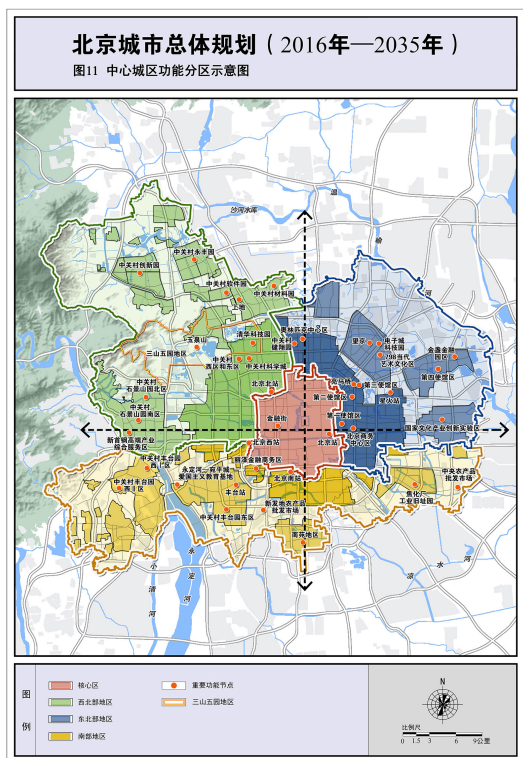


图 2-3 中心城区

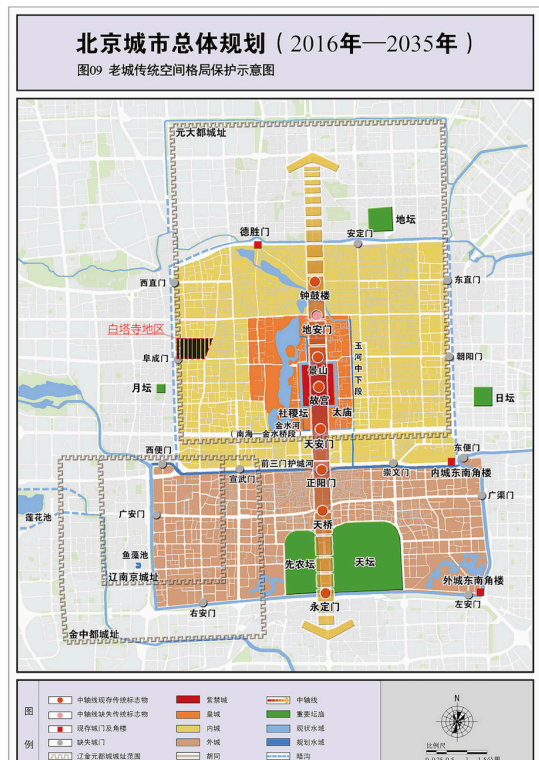


図 2-5 老城の伝統的な空間構成と白塔寺地区の立地

(※図2-5の原図出典：「北京城市総体規劃（2016年－2035年）」（北京都市計画マスタープラン））

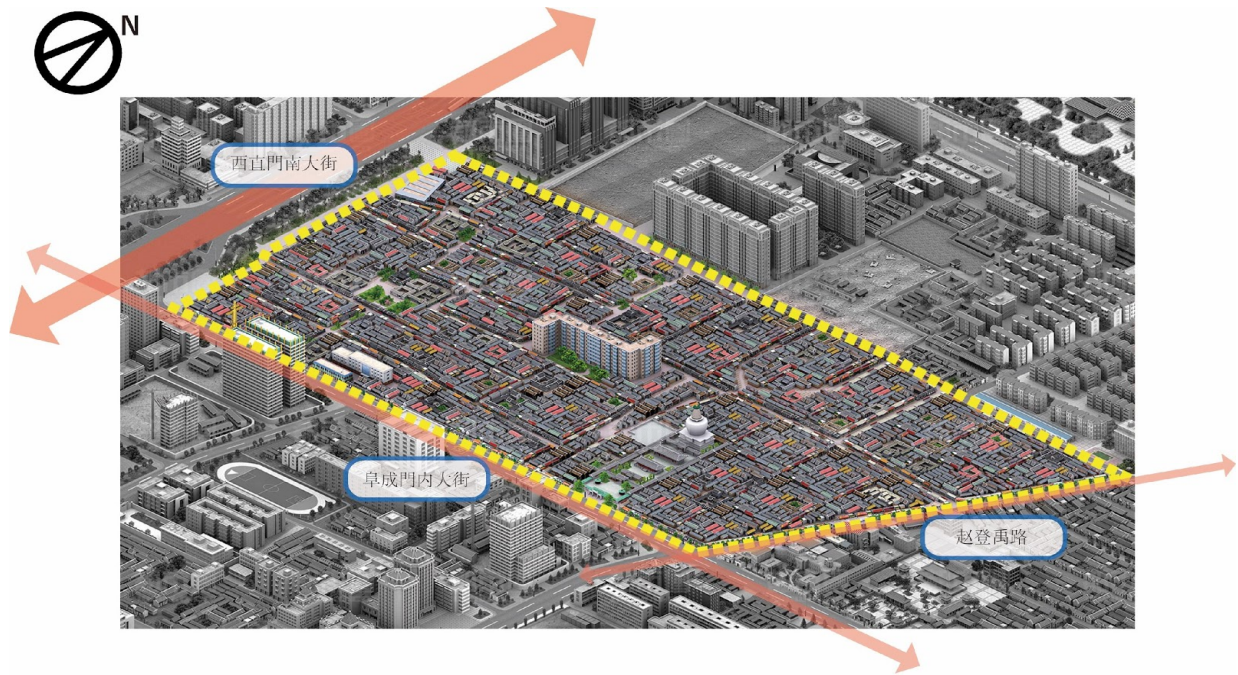


図2-6 白塔寺地区（原図出典：設計院BのA氏の提供）

1990年に北京市人民政府は第一次指定で25箇所の歴史文化保護区を指定し、名簿を公開した。1999年に北京市人民政府は「北京旧城歴史文化保護区保護和控制範圍規劃」（北京の旧城（老城）における歴史文化保護区の保護範圍と制限範圍についての計画）を公開し、25箇所の歴史文化保護区を修正し、歴史文化保護区の保護範圍と制限範圍を制定した。2002年に北京市人民政府は北京市規劃委員会が作成した「北京旧城25片歴史文化保護区保護規劃」（北京の旧城（老城）における25箇所の歴史文化保護区の保護についての計画）を許可した。25箇所の歴史文化保護区の総面積は957ヘクタールあり、老城の範囲内にある文物保護単位を含んで、敷地面積は2300ヘクタールに至り、老城の総面積の37%がある。2002年に、北京市が第二次指定で15箇所の歴史文化保護区を追加した。2004年に、北京市は「北京第二批15片歴史文化保護区保護規劃」（北京市における第二次指定として15箇所の歴史文化保護区の保護についての計画）を作成した。2005年北京市の都市計画マスタープランを修正する時に、第三次指定として3箇所の歴史文化保護区の名簿を提出した。（資料2）

白塔寺地区は第一次指定で指定された25箇所の歴史文化保護区の1箇所であり、当時は「阜成門内大街」という名称で公開された。白塔寺地区は伝統的な歴史風貌と密集的な古い文化遺産が構成され、主に居住用途エリアで、阜成門内大街大通りで多数の店舗が立地し、古い文化遺産が密集し、交通機能を持つ歴史文化保護区である。

白塔寺地区の総面積は37ヘクタールである。白塔寺地区における白塔寺は元朝期に北京が首都に定められた時から保存されてきた観光資源であり、元朝の時代のシンボルであった。この寺はいまだに地区文化のシンボルであり、白塔寺地区は自然発生的な細街路（路地）と北京の伝統的な四

合院住宅で構成されている。都市化が急速に進展するに従って、白塔寺地区の文化が失われた。地域の人口密度が高くなったため、住民の生活空間が不足し、違法な建物などが増えてきた。

2016 白塔寺院落更新国際方案徴集「北京小院兒的重生」コンペの公開資料により、2016 年の白塔寺地区の人口については、戸籍人口が約 1.6 万人、常住人口が約 1.3 万人である。白塔寺地区における高齢者の人数は白塔寺地区の総人口の約 19%にのぼり、外来流動人口は約 50%を超える。土地利用については、2016 年に合計 807 個の院落門標があり、居住用地は 60%、商業用地は 6%、各種類の公共サービス施設は 12%を占め、白塔寺地区の院落の平均容積率は 79%、平房容積率は約 68%を占める。白塔寺地区における建築については、建築は合計約 4000 件があり、建築総面積は 24.2 ヘクタールである。その中で、私有の建築は約 39%、公有の建築は約 44%である。増建した建築は 3%、面積は 37%を占める。現状の建築の老朽化に着目すると、質が悪い建築は約 70%である。白塔寺地区の交通状況については、交通システムの整備不足がみられ、自動車と非自動車が混合して走る。胡同空間で駐車するが多い。白塔寺地区の院落状況については、院落内の基礎施設が弱く、90%以上の院落でトイレが配置されてない。

このため、白塔寺地区は多様な主体が協力して、地区再開発事業を実施しており、地区文化を復興していくことを目指している。

2-3 北京市歴史文化保護区の計画について

図2-7に、北京市の老城に関する保存計画の変化を示す。「歴史文化保護区」という保存モデルは1990年代から確立した。1993年に「北京城市総体規劃（1991年-2010年）」（北京都市マスタープラン）が公開され、①文化財、②歴史文化保護区、③歴史文化名城、という三層保護体系と保護方針が示された。1999年に、「北京旧城（老城）歴史文化保護区保護と制限範囲計画」と「北京市区中心地区制限詳細計画」が公開され、老城の空間構成、建築高さ、文化財の周辺関係に対して制限と歴史文化保護区の保護範囲と制限範囲が示された。「旧城（老城）全体の保存強化」という原則が明確化され、2005年に「北京城市総体規劃（2004年-2020年）」（北京都市マスタープラン）（略称：「北京規劃（2004）」）が公開された。

北京市では中心城区の人口密度を低下させるための指針が、「北京規劃（2004）」によって示されている。「北京規劃（2004）」によると、2020年までに北京市内の中心城区の人口を650万人から540万人にまで減らし、中心城区の中の旧城の人口を180万人から110万人にまで減らすと示されている。こうして、白塔寺地域は地域内の人口密度が低下し、地域の環境が向上している。白塔寺地域では、「騰退」事業が実施されており、住人が移住した後、良好な住宅を残し、違法な部分の取り壊しや老朽化した住宅の除却によって、新たな建築が建てられている。

また、北京市の老城³では伝統的なまちと四合院を保護するために、「北京城市総体規劃（2016年-2035年）」（北京都市マスタープラン）（略称：「北京規劃（2016）」）の中で計画案が記述されている。「北京規劃（2016）」に示されている内容について以下に示す。

①現存する胡同と胡同の名称を保護し、胡同空間を改善する。②核心区⁴内における歴史的な価値がある地区を歴史文化街区リストの中に収めて歴史文化街区の範囲を広め、核心区における歴史文化街区の比率を22%から26%に高める。③歴史文化街区の生活様式を残す。

白塔寺地区は13ヶ所ある文化精華区⁵の1ヶ所であるので、文化を展示・伝承するため、白塔寺地区の生活を保存することが必要になる。

³ 老城：「北京城市総体規劃（2016年-2035年）」（北京都市マスタープラン）計画書の中で、初めて「老城」という言葉を提出した。「旧城」と同じ範囲である。老城は北京市の中心部分で、総体面積は62.5km²である。老城の中で、様々な歴史的な文物や、文化施設や、重要な歴史的な場所がある。

⁴ 核心区：核心区は全国の政治中心、文化中心と国際交際中心の機能を持ち、歴史文化名城保護で、国家の首都の形象を展示するという重要な地区である。

⁵ 文化精華区：歴史文化街区リストの中で、優勝な13ヶ所地区である。「北京城市総体計劃（2016年-2035年）」から示されている。

背景	重要な計画
建国初期、経済復興 60年代後半文化大革命運動	→1950年代の「全城壁・垣壁撤去」政策 ●北京旧城（老城）を中心とする首都建設の方針を確立 1954年 「北京市の改造と拡張計画案の要点」 ●旧城（老城）の伝統建築と城壁を解体する構想が具体化 1958年 「北京都市建設マスタープラン（案）」 1958年 「北京市マスタープランの説明書（案）」
経済改革、高度成長の始まり	→1980年代に提出の「保存・継承・創出」の方針 1983年 「北京都市建設マスタープラン（草案）」 老城の歴史的な風貌を継承し、文物の周辺環境を保全することを提出
土地制度改革、不動産業の発展 や都市環境整備の強い要望	→1990年代の「歴史文化保護区」保存モデルの確立 1990年 第1次指定で25箇所の歴史文化保護区を指定 1993年 「北京都市建設マスタープラン（1991年－2010年）」 文化財、歴史文化保護区、歴史文化名城という三層保護体系や保護方針の提出
歴史保護意識の増強 人文オリンピックの提出	1999年 「北京旧城歴史文化保護区保護と制限範囲計画」 25箇所の歴史文化保護区を修正、 歴史文化保護区の保護範囲と制限範囲を決定 1999年 「北京市区中心地区制限詳細計画」 旧城の空間構成、建築高さ、文化財の周辺環境に対して制限を作成 2002年 「北京旧城25歴史文化保護区保護計画」 ●「微循環式」という改造手法の提出 2002年 「北京歴史文化名城保護計画」 2003年 「北京旧城歴史文化保護区家屋保護と修繕工作の若干規定（試行）」 2004年 「北京第2次指定15歴史文化保護区保護計画」 →新計画での「旧城全体の保存強化」という原則の明確化 ●大規模再開発の停止、保存方式で改造 2005年 「北京都市建設マスタープラン（2004年－2020年）」 北京第3次指定3歴史文化保護区の名簿の提出 2005年 「北京歴史文化名城保護条例」 2006年 「北京中心地区制限詳細計画」
	2017年 「北京都市建設マスタープラン（2016年－2035年）」

図2-7 北京市の老城に関する保存計画の流れ
 （参考文献3、4により作成）

2-4 白塔寺地区における「白塔寺再生計画（BAITASI REMADE PROJECT）」

2013年に株式会社Hが成立し、株式会社Hは主導的に白塔寺地区の再開発事業を実施してきた。「白塔寺再生計画」というプロジェクトは地区再開発のため、2015年8月に株式会社Hが提出した。このプロジェクトを通じて①政府、②企業、③社会団体、④地区住民、の4つの主体が協力し、地区の更新と持続的な発展を実現することを目指している。4つの主体の役割については、①政府は白塔寺地区全体の計画案を作成する。②企業は地区の建築・院落を更新し、更新モデルケースを作る。③社会団体は地区の再生に協力し、地区の活力を起こす。④地区住民は自治意識を形成し、地区を管理する。現在の段階は、社会団体は地区に入り、地区内でイベントなどを実施しており、地区住民の中でいくつかの住民グループが作られたが、住民の自治意識はまだ形成してなく、地区を管理することができない。

「白塔寺再生計画」の計画的な実施経緯を、図2-8に示す。①人口を持続的に減少させる（地区住民の移住を促す）ことは白塔寺地区の「騰退」事業であり、事業が実施され、実施当初から約1032世帯が株式会社Hと契約した。2018年1月20日までに合計93箇所の院落の住民はほかの地区に移住した。②地区の空間を更新することで、地区における点としての幾つかの建築・院落が更新され、更新された建築・院落の数がますます増加していく。2018年10月1日までに20箇所の建築・院落が更新された。③インフラストラクチャの向上は、白塔寺地区内の上水道や下水道などが改善されることである。④地区の環境を改善することは、白塔寺地区の胡同において公共空間が整理され、公共環境が整えられる。③と④については株式会社Hから資料提供が得られなかった。⑤文化についての触媒を育成することは、地区文化活動空間で運営団体がいつかの住民団体を作り、地区の歴史文化などを再現する。また、地区外部のよい企業が誘致される。株式会社Hの内部資料から、13件の新たな企業が誘致された事例があり、3件の地区文化活動空間が作られた事例がある。あるいは、株式会社Hが主導的に「白塔寺分会场北京国際設計週」のデザインコンペなどの地区イベントを開催している。⑥地区の全体を復興することは、「白塔寺再生計画」プロジェクトの最終目標である。

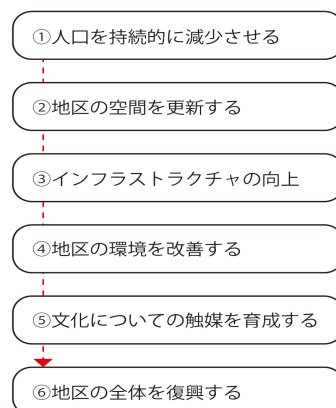


図2-8 「白塔寺再生計画」の計画的な実施経緯

参考文献：

1. 2005「北京城市総体計画（2004年-2020年）」（最終閲覧日 2017年11月17日）
2. 北京市规划和国土资源管理委员会（城乡规划）ホームページ
<http://www.bjghw.gov.cn/web/ztgh/ztgh000.html>、2017「北京城市総体計画（2016年-2035年）」（最終閲覧日 2018年11月28日）
3. 「北京の四合院」北京四合院研究会（編）、中央公論美術出版、平成20年2月20日発行
4. 路方芳、沈振江、川上光彦、小林史彦、2017「中国北京市の歴史的町並み保存事業について日本の補助金制度を導入する可能性 ―北京市阜成門大通り保存地区を事例として―」日本都市計画学会都市計画報告集、No. 6
5. <http://btsremade.com/zh> 「白塔寺再生計画」のホームページ（最終閲覧日 2018年12月19日）

第3章 白塔寺地区における建築・院落更新事例

3-1 本章の目的と調査概要

3-2 建築・院落更新事例

3-2-1 更新された事例

3-2-2 更新中事例

3-2-3 全体事例

3-3 建築・院落更新事例の分類

3-4 人的関係と空間への影響

3-5 小括

第3章 白塔寺地区における建築・院落更新事例

3-1 本章の目的と調査概要

本章では、株式会社Hから提供を受けた資料と筆者が現地調査から収集した資料を用いて、白塔寺地区における建築・院落更新事例の実態を把握するため、建築・院落更新事例を分類した上で、建築・院落更新事例が人的関係と空間に与える影響を考察する。

3-2 建築・院落更新事例

2017年8月～10月と2018年8月～10月に白塔寺地区に対する現地調査を行った。株式会社Hが成立した2013年2月から2018年10月まで、白塔寺地区において34件の建築・院落更新事例が報告されている。34件の建築・院落更新事例の内訳は、27箇所の建築・院落が更新済であり、7箇所の建築・院落が更新中である。図3-1に、34件の建築・院落更新事例の分布と用途分類を示す(別紙A3)。34件のうち、20件について、更新以前の情報が得られた。更新以前の施設用途については、20件中、住宅は70%、商業施設は25%、事務施設は5%を占める。居住エリアの白塔寺地区において建築・院落が更新される以前に、住宅が多数あることが把握された。

建築・院落更新事例の分布と用途分類

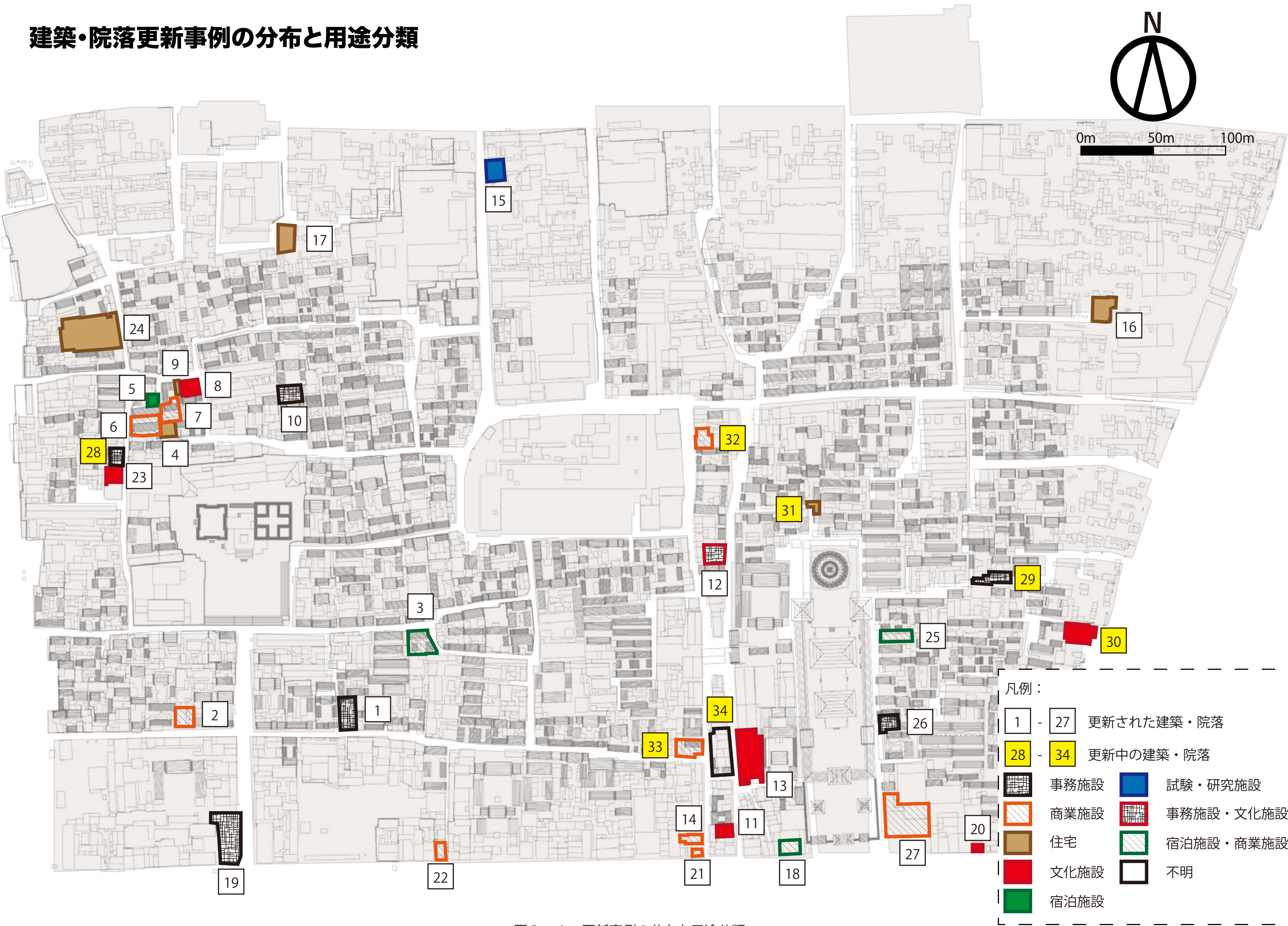


図3-1 更新事例の分布と用途分類

3-2-1 更新された事例

表3-1に、更新された27件の建築・院落事例の概要を示す。使用権については、27件中22件は株式会社Hが建築・院落の使用権を持ち、株式会社Hは「騰退」事業により、昔の地区住民をほかの地域に移住させ、住民が持っていた建築・院落の使用権を得ている。また、その他の5件は、株式会社H以外が使用権を持っている。

表3-1 更新された事例一覧

番号	所在地	使用権	更新主体	運営主体分類	更新背景	背景分類	施設用途	施設用途分類	地区イベントによる利用
1	宮門口头条 (宮門口头条)	○	企業・自営業者	企業・自営業者	外部企業が誘致された	誘致	経営団体の事務所	事務施設	△
2	宮門口头条 (宮門口头条)	○	企業・自営業者	企業・自営業者	外部企業が誘致された	誘致	レストラン	商業施設	▲
3	宮門口二条 (宮門口二条)	○	企業・自営業者	企業・自営業者	外部企業が誘致された	誘致	四合院民宿、カフェ屋	宿泊施設・商業施設	△
4	宮門口四条 (宮門口四条)	○	株式会社H	企業・自営業者	建築・院落の更新モデルケースを作る	事業	シェアハウス	住宅	△
5	宮門口四条 (宮門口四条)	○	企業・自営業者	企業・自営業者	外部企業が誘致された	誘致	インクルージョン生活館 (民宿)	宿泊施設	△
6	宮門口四条 (宮門口四条)	○	株式会社H	企業・自営業者	建築・院落の更新モデルケースを作る	事業	児童芸術センター (子供の場)	商業施設	△
7	宮門口四条 (宮門口四条)	○	株式会社H	企業・自営業者	建築・院落の更新モデルケースを作る	事業	公益図書館 (子供の場)	商業施設	△
8	宮門口四条 (宮門口四条)	○	株式会社H	株式会社H	建築・院落の更新モデルケースを作る	事業	美術館 (展示用)	文化施設	△
9	宮門口四条 (宮門口四条)	○	株式会社H	株式会社H	「単間」 (一つ狭い部屋) の更新モデルケースを作る	事業	居住用	住宅	△
10	宮門口四条 (宮門口四条)	×	企業・自営業者	企業・自営業者	外部企業が地区に入った	参入	経営団体の事務所	事務施設	△
11	宮門口东岔 (宮門口東岔)	○	企業・自営業者	企業・自営業者	外部企業が誘致され、社区文化活動空間を作る	誘致	社区文化活動空間	文化施設	△
12	宮門口东岔 (宮門口東岔)	○	社会团体 (芸術団体)	社会团体 (芸術団体)	海外の芸術団体が誘致された	誘致	展覽会場、芸術団体の事務所	事務施設・文化施設	△
13	宮門口东岔 (宮門口東岔)	○	株式会社H	株式会社H	白塔寺地区の主会場を作る	事業	地区イベントによる活用	文化施設	△
14	宮門口西岔 (宮門口西岔)	○	企業・自営業者	企業・自営業者	外部企業が地区に入った	参入	本屋	商業施設	△
15	福绥境胡同 (福绥境胡同)	○	株式会社H、大学	大学	大学と連携し、建築・院落の更新モデルケースを作る	参入	四合院更新モデルケース体験	試験・研究施設	△
16	小茶叶胡同 (小茶葉胡同)	○	企業・自営業者	企業・自営業者	外部企業が誘致された	誘致	居住用	住宅	△
17	小茶叶胡同 (小茶葉胡同)	○	企業・自営業者	企業・自営業者	外部企業が誘致された	誘致	居住用	住宅	△
18	阜成门内大街 (阜成門内大街)	×	企業・自営業者	企業・自営業者	外部企業が地区に入った	参入	ゲストハウス、カフェ屋	宿泊施設・商業施設	△
19	阜成门内大街 (阜成門内大街)	○	株式会社H	株式会社H	株式会社Hの事務室になった	事業	株式会社Hの事務所	事務施設	△
20	阜成门内大街 (阜成門内大街)	○	株式会社H	株式会社H	白塔寺地区の更新事業の展示室	事業	展示用	文化施設	△
21	阜成门内大街 (阜成門内大街)	○	企業・自営業者	企業・自営業者	外部企業が地区に入った	参入	洋服屋	商業施設	△
22	阜成门内大街 (阜成門内大街)	○	企業・自営業者	企業・自営業者	外部企業が地区に入った	参入	茶屋	商業施設	△
23	青塔胡同	○	株式会社H	社会团体 (NGO)	建築・院落の更新モデルケースを作る	事業	社区文化活動空間	文化施設	△
24	青塔胡同	×	地区住民	地区住民	住民が自発的に更新する	住民	居住用	住宅	△
25	东夹道胡同 (東夾道胡同)	○	企業・自営業者	企業・自営業者	外部企業が誘致された	誘致	四合院民宿、カフェ屋	宿泊施設・商業施設	△
26	东夹道胡同 (東夾道胡同)	×	企業・自営業者	企業・自営業者	外部企業が地区に入った	参入	経営団体の事務所	事務施設	△
27	阜成门内大街 (阜成門内大街)	×	街道 (行政)	企業・自営業者	四合院エリアにおいて建築の高さ制限	計画	養殖	商業施設	▲

凡例：①「使用権」○：株式会社Hが建築・院落の使用権を持っている。×：株式会社H以外の方が使用権を持っている。②「地区イベントによる利用」△：利用されたことがある。▲：利用されたことがない。

更新主体については、①株式会社H、②企業・自営業者、③社会团体、④地区住民、⑤株式会社Hと大学、⑥街道（行政）、の6つの種類があり、その更新主体の割合を、図3-2に示す。企業・自営業者と株式会社Hは更新主体として多数の事例を行ったことがわかった。企業・自営業者は15件、株式会社Hは8件行った。また、株式会社Hは大学と連携して、1件実施した。社会团体、地区住民及び街道（行政）は同様に1件行った。

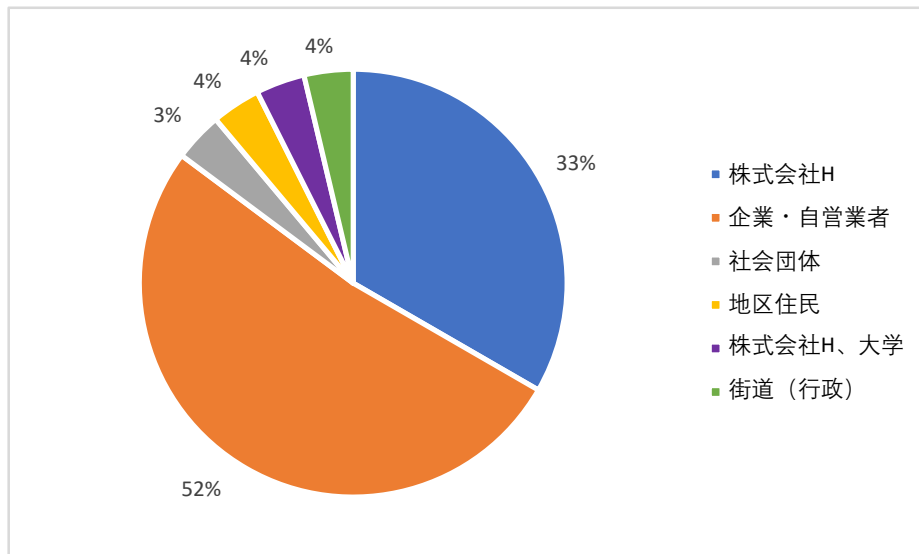


図3-2 更新主体の割合

更新の背景については、①誘致、②事業、③参入、④住民、⑤計画、の5つの種類に分類される。

①誘致は、地区の人や団体などが企業・自営業者や社会団体など地区以外の団体を白塔寺地区に誘引して、地区以外の団体が建築・院落の更新を実施する。②事業は、株式会社Hが会社の空間更新事業で空間更新モデルケースやイベント会場などを建設するため、建築・院落の更新を実施する。

③参入は、白塔寺地区外部の企業・自営業者や社会団体などが積極的に地区に転入し、建築・院落の更新を行う。④住民は、住民が自発的に更新を行う。⑤計画は、市や区などの計画を守るため、更新を行う。更新の背景の割合を、図3-3に示す。誘致と事業の事例は多数あり、共に33%であった。参入の事例は26%であり、計画の事例と住民の事例は少数であることが把握された。

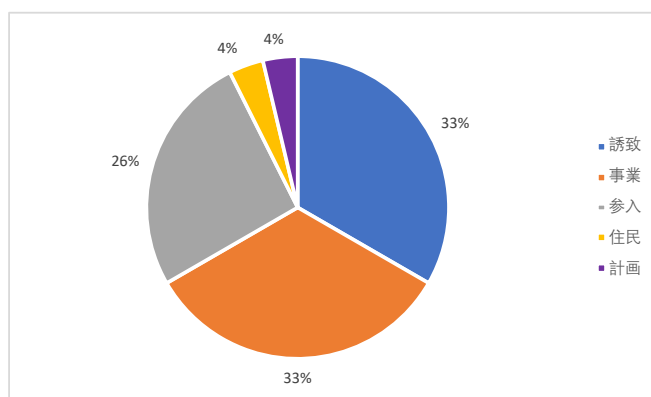


図3-3 更新背景の割合

運営団体は全て、持続的に運営を行っており、①株式会社H、②企業・自営業者、③社会団体、④大学、⑤地区住民、の5つの団体がある。運営団体の割合を図3-4に示す。企業・自営業者は18箇所を運営し、全体の多くを占めていることが分かった。株式会社Hは5箇所、社会団体は2箇所を運営し、大学は白塔寺地区において唯一、試験・研究施設を運営している。地区住民は1箇所の管理を行っている。

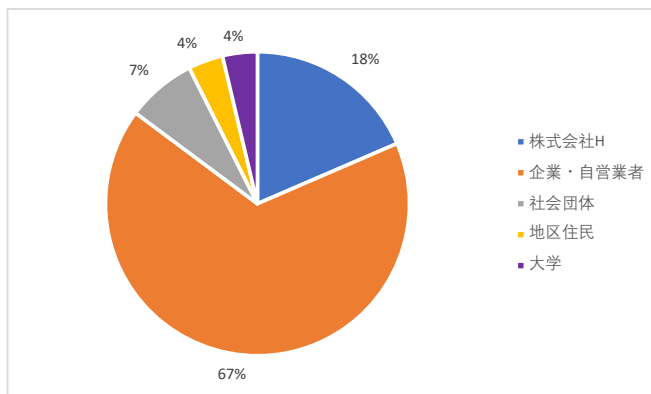


図3-4 運営団体の割合

施設用途については、①事務施設、②商業施設、③宿泊施設・商業施設、④住宅、⑤宿泊施設、⑥文化施設、⑦事務施設・文化施設、⑧試験・研究施設、の8種類がある。施設用途別の割合を、図3-5に示す。商業施設が最も多く、7件あり、26%であった。文化施設と住宅は同様に5件、18%であった。事務施設は4件、宿泊施設・商業施設は3件、宿泊施設と事務施設・文化施設及び試験・研究施設は共に1件であった。

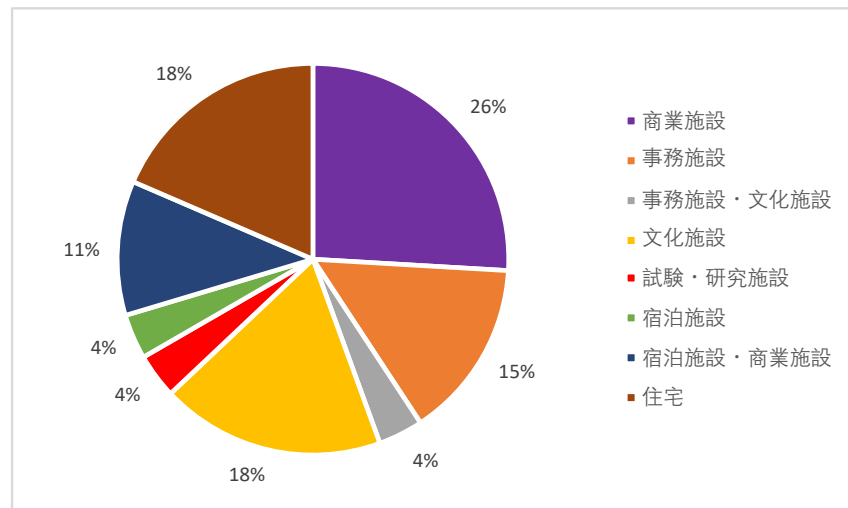


図3-5 施設用途別割合

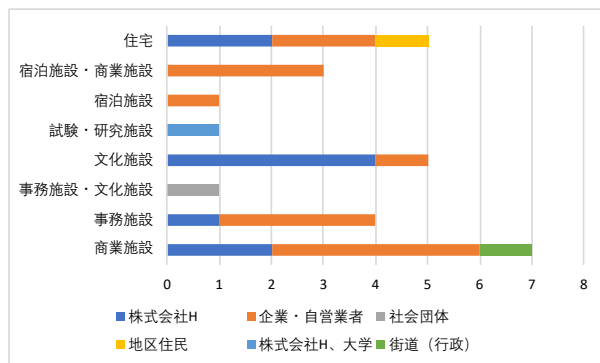


図3-6 施設用途別の更新主体数

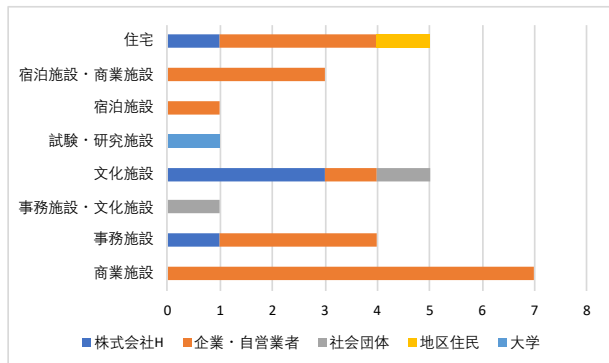


図3-7 施設用途別の運営団体数

図3-6に、施設用途別の更新主体数を示し、図3-7に、施設用途別の運営団体数を示す。図3-6と図3-7を比較すると、以下のことがわかった。

1. 事務施設、事務施設・文化施設、試験・研究施設、宿泊施設、宿泊施設・商業施設、の5種類については更新主体と運営団体に変化がない。
2. 商業施設の場合、2件は株式会社Hと街道（行政）が更新主体、運営団体が企業・自営業者である。
3. 文化施設の場合、1件は株式会社Hが更新主体として更新を実施し、社会団体が運営団体として場所を管理している。

4. 住宅の場合、1件は株式会社Hが更新主体で更新を行い、企業・自営業者が運営団体となり、場所を運営している。

1～4により、更新主体は株式会社Hの場合、株式会社Hが別の団体を白塔寺地区に誘致し、別の団体が運営団体になる可能性が高いことが把握された。

更新背景別の施設用途の割合を図3-8に示す。①誘致の場合、宿泊施設・商業施設と住宅が多い。②事業の場合、文化施設が多い。③参入の場合、商業施設が多い。④住民の場合、住宅の建設が1件実施された、⑤計画では、商業施設が1件更新された、の5つの内容が把握された。

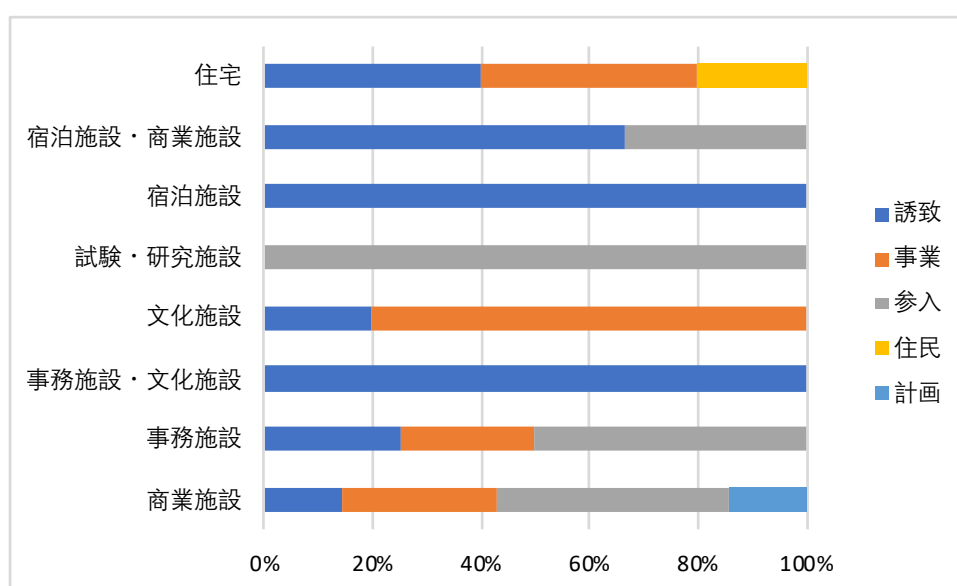


図3-8 更新背景別の施設用途の割合

図3-8より、誘致と参入を行うため、複数の企業・自営業者は白塔寺地区に入り、商業施設を建設し、地区の商業環境をさらに変化させる。白塔寺地区において新たな商業施設の種類の導入され、例えば、カフェ屋やゲストハウス、子供の塾などが挙げられる。また、誘致と事業、及び参入のため、複数の主体が要望する施設を建設することで、白塔寺地区における施設種類も増加することがわかった。

地区イベントによる利用状況については、27件の事例の中で、25箇所は地区イベントにより利用されたことがある。事例2と事例27の2箇所の商業施設については、地区イベントによる利用は、なされなかった。また、25件は建築・院落空間で開催され、多様なイベントを実施するための環境が整備されている。

3-2-2 更新中事例

表3-2に、更新中の7件の事例の概要を示す。全ての事例は地区イベントにより利用されたことがある。7件の内訳は、6件は2018年8月～10月の現地調査までに工事がされており、事例33と事例34の2件は一旦更新が終了し、院落内の建築は壁やドアなどが未設置である。7件の建築・院落使用権については、全て株式会社Hが使用権を持ち、更新を行っている。

表3-2 更新中事例一覧

番号	所在地	使用権	更新主体	更新の背景	背景分類	施設用途（計画）	施設用途分類（計画用途）	地区イベントによる利用
28	青塔胡同	○	株式会社H	外部企業や団体を誘致する。2016白塔寺院落更新国際方案徴集「北京小院児的重生」コンペ優勝提案	誘致	事務用	事務施設	△
29	前抄手胡同	○	株式会社H	外部企業や団体を誘致する。2016白塔寺院落更新国際方案徴集「北京小院児的重生」コンペ優勝提案	誘致	事務用	事務施設	△
30	趙登禹路（趙登禹路）	○	株式会社H、大使館F	大使館Fと連携し、住民意見を受け、社区文化活動空間という公共活動空間を作る	誘致	社区文化活動空間	文化施設	△
31	西夾道胡同（西夾道胡同）	○	株式会社H	宮門口東81号「白塔寺会客厅」の住民から居住空間の提案を提出した。建築・院落の更新モデルケースを作る	事業	居住用	住宅	△
32	宮門口西岔（宮門口西岔）	○	株式会社H	外部企業や団体を誘致する。2016白塔寺院落更新国際方案徴集「北京小院児的重生」コンペ入賞提案	誘致	商業用	商業施設	△
33	宮門口头条（宮門口头条）	○	株式会社H	外部企業や団体を誘致する	誘致	商業用	商業施設	△
34	宮門口东西岔（宮門口東西岔）	○	株式会社H	外部企業や団体を誘致する	誘致	不明	不明	△

凡例：①「使用権」○：株式会社Hが建築・院落の使用権を持っている。×：株式会社H以外の方が使用権を持っている。②「地区イベントによる利用」△：利用されたことがある。▲：利用されたことがない。

7件は現在更新中のため、建築・院落の運営団体は未定である。7件の更新主体については、ほとんどが株式会社Hであり、そのうち、1件は株式会社Hと大使館Fが連携して建築・院落の更新を行った。

更新の背景については、①誘致、②事業、の二つの種類がある。6件は誘致、1件は事業である。

計画用途については、①事務施設、②文化施設、③住宅、④商業施設、の4種類がある。事務施設と商業施設は同様に2件あり、文化施設と住宅は共に1件、残りの1件は不明である。

地区イベントによる利用状況については、7件中、全てが地区イベントにより利用されたことがあり、事例28はデザインコンペのみにより利用され、ほかの6件は2018年「白塔寺分会场北京国際設計週」により利用された。事例28と事例29、事例32はほかの更新事例と異なり、これらの更新アイディア案は2016白塔寺院落更新国際方案徴集「北京小院児的重生」コンペの提案から決定された。

3-2-3 全体事例

表3-3に、34件全ての建築・院落更新事例の概要をまとめる。34事例の更新主体については、株式会社H、企業・自営者の場合が多い（図3-9）。更新の背景については、誘致、事業、参入のため、建築・院落の更新が行われた場合が多い（図3-10）。施設用途については、商業施設が多く、文化施設と住宅、事務施設も複数ある（図3-11）。地区イベントによる利用状況については、地区イベントにより利用されたことがある事例が多い（図3-12）。

表3-3 全体事例情報まとめ

更新された事例									
番号	所在地	使用権	更新主体	運営主体分類	更新の背景	施設用途	施設用途分類	地区イベントによる利用	
1	宮門口头条（宮門口头条）	○	企業・自営業者	企業・自営業者	誘致	経営団体の事務所	事務施設		△
2	宮門口头条（宮門口头条）	○	企業・自営業者	企業・自営業者	誘致	レストラン	商業施設		▲
3	宮門口二条（宮門口二条）	○	企業・自営業者	企業・自営業者	誘致	四合院民宿、カフェ屋	宿泊施設・商業施設		△
4	宮門口四条（宮門口四条）	○	株式会社H	企業・自営業者	事業	シェアハウス	住宅		△
5	宮門口四条（宮門口四条）	○	企業・自営業者	企業・自営業者	誘致	インテリジェント生活館（民宿）	宿泊施設		△
6	宮門口四条（宮門口四条）	○	株式会社H	企業・自営業者	事業	児童芸術センター（子供の塾）	商業施設		△
7	宮門口四条（宮門口四条）	○	株式会社H	企業・自営業者	事業	公益図書館（子供の塾）	商業施設		△
8	宮門口四条（宮門口四条）	○	株式会社H	株式会社H	事業	美術館（展示用）	文化施設		△
9	宮門口四条（宮門口四条）	○	株式会社H	株式会社H	事業	居住用	住宅		△
10	宮門口四条（宮門口四条）	×	企業・自営業者	企業・自営業者	参入	経営団体の事務所	事務施設		△
11	宮門口东条（宮門口东条）	○	企業・自営業者	企業・自営業者	誘致	社区文化活動空間	文化施設		△
12	宮門口东条（宮門口东条）	○	社会団体	社会団体	誘致	展覧会場、芸術団体の事務室	事務施設・文化施設		△
13	宮門口东条（宮門口东条）	○	株式会社H	株式会社H	事業	地区イベントによる活用	文化施設		△
14	宮門口西条（宮門口西条）	○	企業・自営業者	企業・自営業者	参入	本屋	商業施設		△
15	福祿寿胡同（福祿寿胡同）	○	株式会社H+団体	大学	参入	四合院更新モデルケース体験	試験・研究施設		△
16	小茶叶胡同（小茶葉胡同）	○	企業・自営業者	企業・自営業者	誘致	居住用	住宅		△
17	小茶叶胡同	○	企業・自営業者	企業・自営業者	誘致	居住用	住宅		△
18	阜成門内大街（阜成門内大街）	×	企業・自営業者	企業・自営業者	参入	ゲストハウス、カフェ屋	宿泊施設・商業施設		△
19	阜成門内大街（阜成門内大街）	○	株式会社H	株式会社H	事業	株式会社Hの事務所	事務施設		△
20	阜成門内大街（阜成門内大街）	○	株式会社H	株式会社H	事業	展示用	文化施設		△
21	阜成門内大街（阜成門内大街）	○	企業・自営業者	企業・自営業者	参入	洋服屋	商業施設		△
22	阜成門内大街（阜成門内大街）	○	企業・自営業者	企業・自営業者	参入	家具屋	商業施設		△
23	青塔胡同	○	株式会社H	社会団体	事業	社区文化活動空間	文化施設		△
24	青塔胡同	×	地区住民	地区住民	住民	居住用	住宅		△
25	东安道胡同（東安道胡同）	○	企業・自営業者	企業・自営業者	誘致	四合院民宿、カフェ屋	宿泊施設・商業施設		△
26	东安道胡同（東安道胡同）	×	企業・自営業者	企業・自営業者	参入	経営団体の事務所	事務施設		△
27	阜成門内大街（阜成門内大街）	×	街道（行政）	企業・自営業者	計画	薬局	商業施設		▲
更新中事例									
番号	所在地	使用権	更新主体	運営主体	更新の背景	施設用途（計画）	施設用途分類（計画用途）	地区イベントによる利用	
28	青塔胡同	○	株式会社H	未定	誘致	事務用	事務施設		△
29	前抄子胡同	○	株式会社H	未定	誘致	事務用	事務施設		△
30	越登再路（越登再路）	○	株式会社H+団体	未定	誘致	社区文化活動空間	文化施設		△
31	西夾道胡同（西夾道胡同）	○	株式会社H	未定	事業	居住用	住宅		△
32	宮門口西条（宮門口西条）	○	株式会社H	未定	誘致	商業用	商業施設		△
33	宮門口头条（宮門口头条）	○	株式会社H	未定	誘致	商業用	商業施設		△
34	宮門口西条（宮門口西条）	○	株式会社H	未定	誘致	不明	不明		△

凡例：①「使用権」○：株式会社Hが建業・院落の使用権を持っている。×：株式会社H以外の方が使用権を持っている。②「地区イベントによる利用」△：利用されたことがある。▲：利用されたことがない。

凡例：①「使用権」○：株式会社Hが建築・院落の使用権を持っている。×：株式会社H以外の方が使用権を持っている。②「地区イベントによる利用」△：利用されたことがある。▲：利用されたことがない。

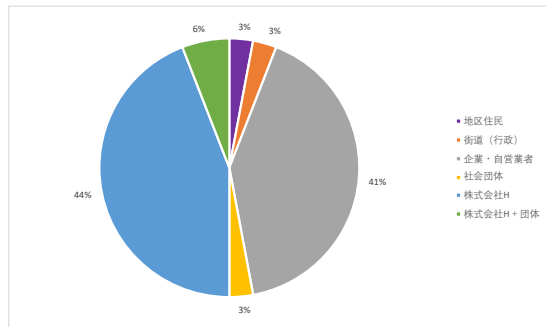


図3-9 更新主体の割合

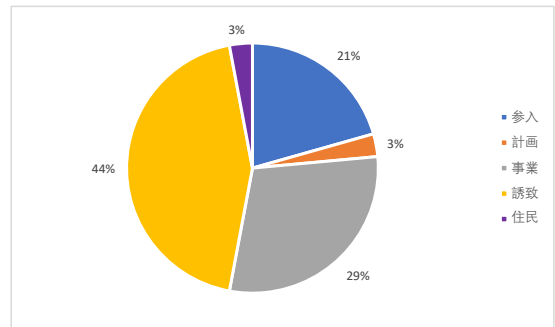


図3-10 更新背景の割合

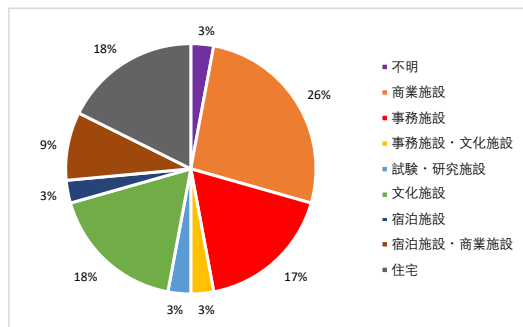


図3-11 施設用途別割合

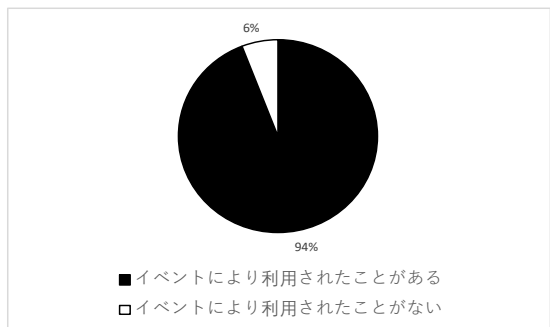


図3-12 イベントによる利用状況の割合

3-3 建築・院落更新事例の分類

建築・院落の使用権と更新主体により図3-13のように34件更新事例を7種類に分類する。表3-4に、白塔寺地区において34件更新事例の7種類の概要を示す。

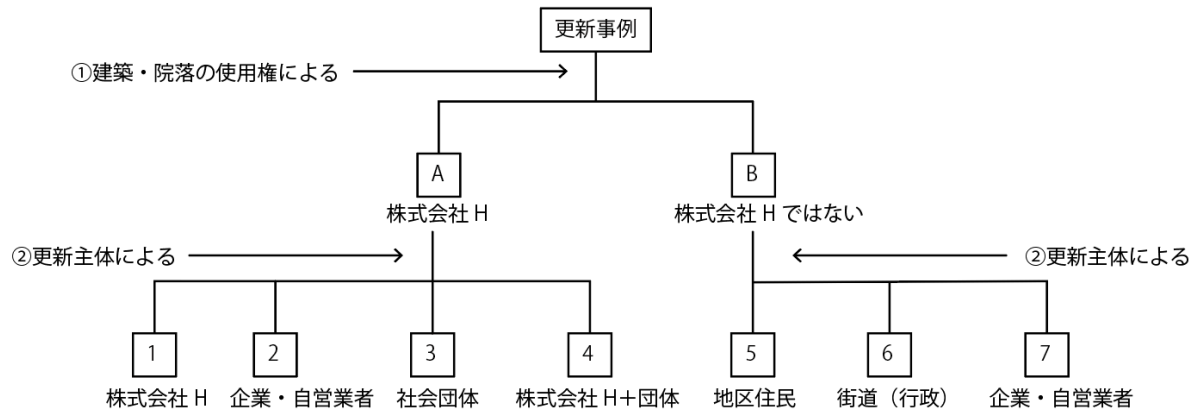


図3-13 更新事例分類

表3-4 更新事例の種類

フループ	使用権	パターン	更新主体	更新背景 分類	商業施設	事務施設	事務施設・ 文化施設	文化施設	試験・研究 施設	宿泊施設	宿泊施設・ 商業施設	住宅	不明
A	株式会社H	1	株式会社H	事業	2	1		4				3	
				誘致	2	2						1	
		2	企業・自営業者	参入	3								
				誘致	1	1		1		1	2	2	
		3	社会団体	誘致			1						
		4	株式会社H＋団体	参入				1	1				
				誘致				1					
		B	株式会社H ではない	5	地区住民	住民							1
6	街道（行政）			計画	1								
7	企業・自営業者			参入		2				1			
凡例：			1件事例										

Aグループは、建築・院落の使用権を株式会社Hが持っており、パターン1からパターン4がある。株式会社Hは「騰退」事業で、昔の地区住民をほかの地域に移住させ、住民が持っていた建築・院落の使用権を得ている。

パターン1は、株式会社Hは更新主体として、建築・院落の更新を実施する。株式会社Hは白塔寺地区の再開発主体として多数の更新事例を行い、34件の更新事例のうち15件を建設した。7パ

ターンの中に事例件数が最も多く、事業のために10件の更新を行い、誘致のために5件の更新を行った。更新後の施設用途に着目すると、パターン1は7パターンの中に、文化施設と住宅が最も多く、事業で4箇所の文化施設と3箇所の住宅を建設した。また、商業施設はパターン2の商業施設の件数と同じく、4件ある。パターン1において商業施設の件数と文化施設の件数が同様であり、それは株式会社Hの役割と関係があり、株式会社Hが白塔寺地区を発展させるため、事業の利益だけに限らず、地区全体施設のバランスについても考える必要がある。つまり、株式会社Hは主導的に地区の再開発事業を実施するため、商業施設など経済効果が高い施設に限らず、文化施設など地区文化や生活により影響を及ぼす施設も建設する必要がある。

パターン2は、企業・自営業者は更新主体として建築・院落を更新する。その中の一部企業・自営業者は株式会社Hから白塔寺地区に誘致される。ほかの企業・自営業者は積極的に白塔寺地区の事業に参入する。参入に関する事例は3件あり、誘致に関する事件は8件ある。更新後の施設用途に着目すると、パターン2は7種類の中に、宿泊施設・商業施設が最も多く、商業施設がパターン1と同様に4件あり、参入で3箇所の商業施設、誘致で1箇所の商業施設と2箇所の宿泊施設・商業施設を建設した。企業・自営業者は団体や個人の利益を得ることが重要であり、商業施設や宿泊施設など経済効果が高い施設を建設する事例が多数である。文化施設など地区文化や住民の生活により影響を及ぼす施設に関しては考えられていない。

パターン3は、社会団体は更新主体となり建築・院落の更新を行う。社会団体は株式会社Hから白塔寺地区に誘致され、1箇所の事務施設・文化施設を建設した。株式会社Hは無償で社会団体に場所を提供し、社会団体が場所を団体の事務所と地区のイベント空間として整備した。社会団体は公益事業を中心として実施するため、文化施設など地区文化や生活により影響を及ぼす施設を建設するが、一方で、経済利益に着目していないため、商業施設など経済効果が高い施設を建設する可能性が低い。

パターン4は、株式会社Hはほかの団体と連携して、建築・院落を更新する。パターン4は2件があり、1件は大学が地区の事業に参入し、株式会社Hと連携し、唯一な試験・研究施設を建設した。もう1件は株式会社Hが大使館Fを地区に誘致し、連携して、文化施設を建設した。大学や大使館Fのような団体は文化施設など地区文化や生活により影響を及ぼす施設に関心があり、社会団体と同様に経済利益に着目していないため、商業施設など経済効果が高い施設を建設する必要がない。

Bグループは建築・院落の使用権を株式会社H以外の主体が持っており、パターン5からパターン7に該当する。

パターン5は、地区住民は更新主体として建築・院落を更新する。パターン5は1件事例に限る。地区住民は施設用途を変えず、自発的に建築・院落の更新を行い、居住環境を改善した。地区住民は経済や地区への影響などに関する事を考えず、各自の生活環境を改善することを重要視し、住宅を更新する。

パターン6は、街道（行政）は更新主体として建築・院落の更新を行う。パターン6についても1件のみである。建築の高さ制限があるため、施設用途を変えず、施設を改修した。それは街道（行政）の役割と関係あり、施設用途に関係なく、市や区の計画に沿って、建築の更新を行う。

パターン7は、企業・自営業者は更新主体となり、建築・院落を更新する。パターン7は2箇所の事務施設と1箇所の宿泊施設・商業施設がある。企業・自営業者は団体の利益と要望を優先的に検討し、事務施設と宿泊施設・商業施設を建設する。文化施設など地区文化や住民の生活により影響を及ぼす施設に関しては考えられていない。

各パターンの施設用途の分布は更新主体の性質と関係がある。

1. 株式会社Hは主導的に白塔寺地区の再開発事業を実施しており、地区全体のバランスをとるため、商業施設など経済効果が高い施設に限らず、文化施設など地区文化や住民の生活により影響を及ぼす施設も建設する。
2. 企業・自営業者は団体の利益と要望を優先的に検討し、事務施設や商業施設、宿泊施設などを建設する。文化施設など地区文化や住民の生活により影響を及ぼす施設に関心がない。
3. 社会団体は公益事業を中心として実施するため、文化施設など地区文化や住民の生活により影響を及ぼす施設を建設する。商業施設など経済効果が高い施設に関心がない。
4. 株式会社Hと団体の連携は文化施設など地区文化や住民の生活により影響を及ぼす施設を建設する。商業施設など経済効果が高い施設に関心がない。
5. 地区住民は経済や地区への影響などに関する事を考えず、各自の生活環境を改善するため、住宅を更新する。
6. 街道（行政）は施設用途に関係なく、市や区の計画に沿って、建築の更新を行う。

3-4 人的関係と空間への影響

建築・院落更新事例の実態調査と分類の結果に基づき、建築・院落更新事例が人的関係と空間に与える影響を考察する。

影響1：建築・院落更新により白塔寺地区の地区住民が減少し、人々の構成が徐々に変化する。

Aグループ（パターン1からパターン4）は株式会社Hは「騰退」事業で、地区の地区住民をほかの地域に移住させて、建築・院落の使用権を得る。その結果、Aグループは地区住民の人数が減少し、地区外から来る建築・院落更新主体や運営団体が昔の住民に変わり、地区内の人々の構成が変化することがわかった。34件の建築・院落更新事例の中、Aグループは29件あり、85%を占める。

Bグループ（パターン5からパターン7）は株式会社H以外の団体や個人が建築・院落の使用権を持つ。パターン5とパターン6の事例は、更新前後の運営団体が変わらず、更新主体が更新を行った。パターン7は地区外の企業・自営業者が昔の地区住民に変わり地区に常在する人となった。パターン7は3件あり、9%を占める。

パターン1からパターン4とパターン7は建築・院落の更新により白塔寺地区の地区住民が減少し、地区の人々の構成が変化する。それらの5パターンについては32件の事例があり、94%を占める。以上のことから、建築・院落更新により白塔寺地区の地区住民が減少し、人々の構成が徐々に変化すると言える。

影響2：建築・院落更新により企業・自営業者や社会团体などの多様な主体が白塔寺地区に転入する。

パターン2からパターン4とパターン7の更新主体は地区外の団体で、パターン2は企業・自営業者、パターン3は社会团体、パターン4は株式会社Hと大学などの団体、パターン7は企業・自営業者である。パターン2からパターン4とパターン7の更新主体が建築・院落を更新した後、建築・院落の運営団体として地区に常在する人となる。図3-14に、更新事例の実施経緯を示す。パターン2からパターン4とパターン7の事例は17件あり、50%を占める。以上のことから、建築・院落更新により企業・自営業者や社会团体などの多様な主体が白塔寺地区に転入すると言える。

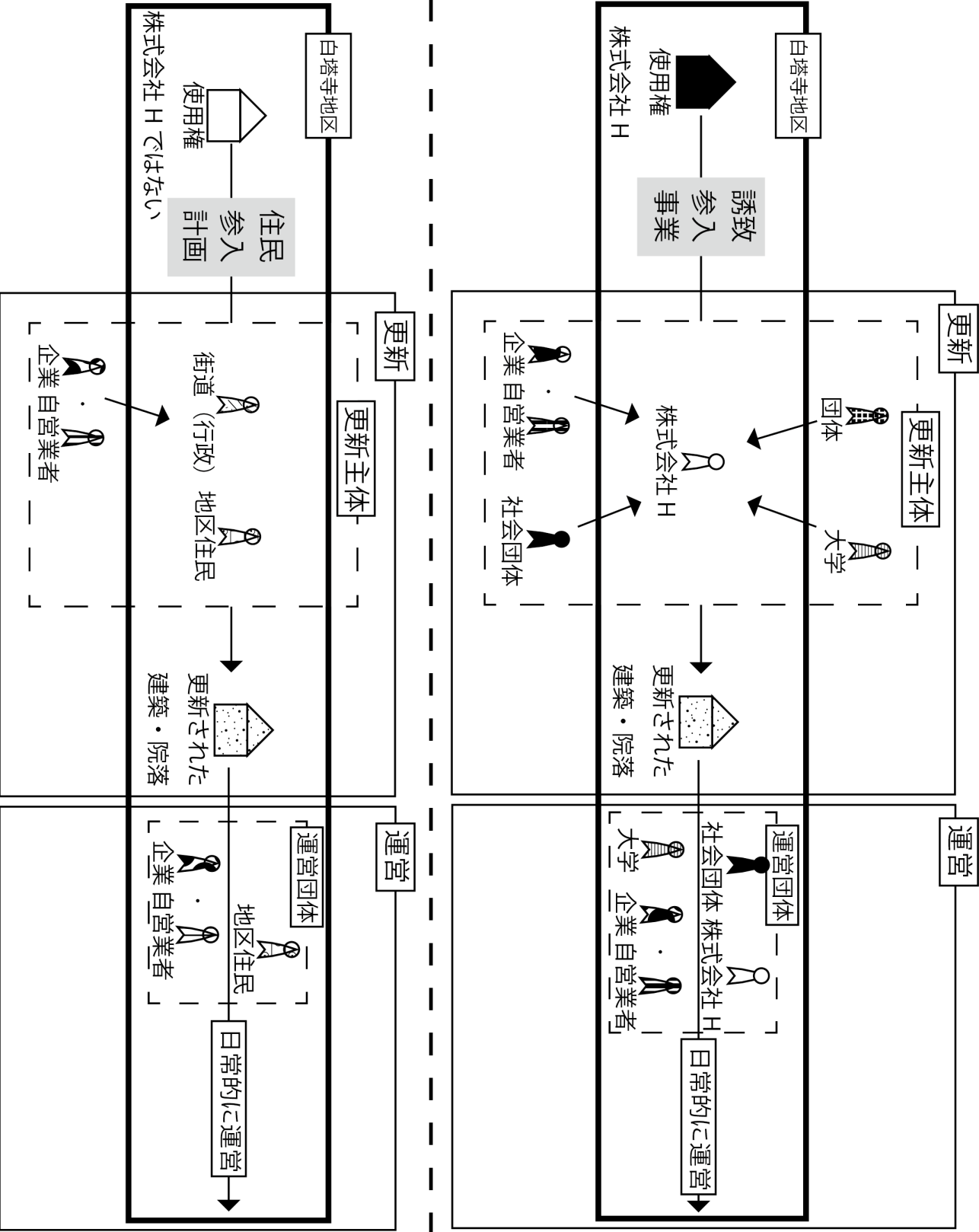


図 3-14 更新事例の実施経緯

影響3：建築・院落更新により地区の施設の用途が増加し、白塔寺地区が居住エリアから多様な用途が混ざり合ったエリアへ変化する。

昔の白塔寺地区において商業施設、事務施設、住宅、の3用途がある。更新前後の施設用途に着目すると、パターン1は文化施設、パターン2は文化施設と宿泊施設と宿泊施設・商業施設、パターン3は事務施設・文化施設、パターン4は文化施設と試験・研究施設、パターン7は宿泊施設・商業施設、の新しい用途施設を建設した。パターン1からパターン4とパターン7により企業・自営業者や社会団体などの多様な主体が地区に入り、地区の施設の用途が増加した。それらの5パターンにおいて新たな用途の施設については12件の事例があり、35%を占める。

34件建築・院落更新事例の分布と用途分類（図3-1）により、商業施設や宿泊施設、文化施設、及び事務施設などが居住エリアの白塔寺地区において点在している。34件事例の中で、6件が住宅であり、18%を占める。更新事例の更新前後において施設用途別を比べると、白塔寺地区における地区住民の居住空間を新たな文化施設、宿泊施設などに転換した。図3-1 5に示す範囲は多様な用途が混ざり合ったエリアになった。

以上のことから、建築・院落更新により地区の施設の用途が増加し、白塔寺地区が居住エリアから多様な用途が混ざり合ったエリアへ変化すると言える。

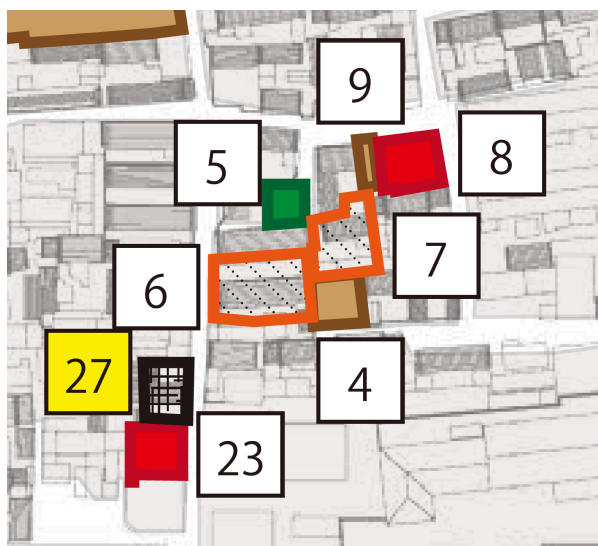


図3-1 5 用途が混ざり合ったエリア

影響4：建築・院落更新により、地区文化や生活により影響を及ぼす施設が増え、地区文化空間や生活空間などの範囲が広がる。

①商業施設、②事務施設、③宿泊施設、④宿泊施設・商業施設、の4つは団体や個人の利益を得るため、経済効果が高い施設である。パターン1は商業施設と事務施設、パターン2は商業施設と事務施設、パターン6は商業施設、パターン7は事務施設と宿泊施設・商業施設を建設した。それらの4パターンにおいて経済効果が高い施設については、19件の事例があり、56%を占める。

①文化施設、②事務施設・文化施設、③試験・研究施設、の三つは地区文化や住民の生活による影響を及ぼす施設である。パターン1とパターン2は文化施設、パターン3は事務施設・文化施設、パターン4は文化施設と試験・研究施設を建設した。それらの4パターンにおいて地区文化や住民の生活に良い影響を及ぼす施設については、8件の事例があり、24%を占める。

以上のことから、更新事例の中に、団体や個人の利益を得るための経済効果が高い施設に限らず、地区文化や住民の生活による影響を及ぼす施設も建設するものがあり、昔の地区の施設の用途に比べ、建築・院落更新により、地区文化や住民の生活による影響を及ぼす施設が増え、地区文化空間や生活空間の範囲が広がると言える。

3-5 小括

本章では、ハード面事業の建築・院落更新事例が人的関係と空間に与える影響を明らかにするため、2013年2月から2018年10月までの白塔寺地区において34件の建築・院落更新事例を整理した。34件更新事例を、①建築・院落の使用権による、②更新主体による、の2段階で7種類に分類した(図3-13)。グループA、パターン1からパターン4は株式会社Hは「騰退」事業で、地区の地区住民をほかの地域に移住させて、建築・院落の使用権を得ている。グループB、パターン5からパターン7は株式会社H以外の団体や人々が建築・院落の使用権を持つ。表3-5に、各パターン情報を示す。

表3-5 パターン情報一覧

パターン		住民の移住	更新主体		更新の背景					施設用途								事例数	
										経済				良い影響			ほか		
										新規		昔から		新規			昔から		
使用権	更新主体		地区内	地区外	事業	誘致	参入	住民	計画	宿泊	宿泊・商業	商業	事務	事務・文化	文化	研究	住宅	不明	
A	1	○	○		○	○						○	○		○		○	○	15
	2	○		○		○	○			○	○	○	○		○		○		11
	3	○		○		○								○					1
	4	○	○	○		○	○								○	○			2
B	5							○									○		1
	6								○			○							1
	7	○		○			○				○		○						3

パターン1からパターン4とパターン7において32件の事例(94%)は使用権を持つ主体と更新主体と運営団体が変化するのので、建築・院落更新により白塔寺地区の地区住民が減少し、人々の構成が徐々に変化するという影響が言える。

パターン2からパターン4とパターン7において17件の事例(50%)の更新主体は地区外の団体である。更新主体の種類から、建築・院落更新により企業・自営業者や社会団体などの多様な主体が白塔寺地区に入るという影響が言える。

パターン1からパターン4とパターン7において新たな用途の施設は12件（35%）であり、また、更新事例の分布と用途分類図（図3-1）により、建築・院落更新により地区の施設の用途が増加し、白塔寺地区が居住エリアから多様な用途が混ざり合ったエリアへ変化するという影響が言える。

パターン1からパターン4の施設用途は昔の地区の施設用途と比べ、それらの4パターンにおいて文化施設、事務施設・文化施設、試験・研究施設の3つ新たな用途の施設は8件（24%）であり、建築・院落更新により、地区文化や住民の生活によい影響を及ぼす施設が増え、地区文化空間や生活空間などの範囲が広がるという影響が言える。

第4章 地区全体イベントとデザインコンペ

4-1 本章の目的と調査概要

4-2 地区イベントの構成

4-3 地区全体イベント「白塔寺分会場北京国際設計週」（白塔寺 DW）

4-3-1 「北京国際設計週」イベントの概要

4-3-2 白塔寺 DW の実態

4-3-2-1 2015 年白塔寺 DW

4-3-2-2 2016 年白塔寺 DW

4-3-2-3 2017 年白塔寺 DW

4-3-2-4 2018 年白塔寺 DW

4-3-2-5 2015 年白塔寺 DW から 2018 年白塔寺 DW

4-3-3 白塔寺 DW に関わる人的関係

4-3-3-1 実施団体に対するヒアリング調査

4-3-3-2 協力開催団体に対するアンケート調査

4-3-3-3 来場者に対するアンケート調査

4-3-4 白塔寺 DW に関わる空間

4-4 デザインコンペ

4-4-1 2016 白塔寺院落更新国際方案徴集「北京小院児的重生」 コンペ

4-4-2 2017 白塔寺国際方案徴集「設計市集」コンペ

4-4-3 デザインコンペに関わる人的関係

4-4-4 デザインコンペに関わる空間

4-5 人的関係と空間への影響

4-6 小括

第4章 地区全体イベントとデザインコンペ

4-1 本章の目的と調査概要

本章では、白塔寺地区における地区イベントを調べるうえで、地区イベントの地区全体イベントとデザインコンペが人的関係と空間に与える影響を明らかにすることを目的とする。まず、地区イベントの中で規模が一番大きな「白塔寺分会场北京国際設計週（以降白塔寺 DW）」という地区全体イベントを対象に、白塔寺 DW の実態を把握する。2017 年と 2018 年の実施団体に対するヒアリング調査と 2018 年の協力開催団体と来場者に対するアンケート調査、イベント開催場所の分析を行い、白塔寺 DW に関わる人的関係と空間を明確し、白塔寺 DW の人的関係と空間への影響を考察する。次に、白塔寺 DW に関わるデザインコンペを対象に、デザインコンペの実態を把握し、デザインコンペに関わる人的関係と空間を明確する。デザインコンペの人的関係と空間への影響を考察する。

4-2 地区イベントの構成

地区イベントは白塔寺地区の全体範囲内において開催されたイベントと定義する。イベントは地区住民向けのイベントがある一方、地区住民に限らず、地区外の人々も参加できるイベントもある。白塔寺地区の地区イベントは6種類あり、表4-1に示す。①地区全体イベントは、複数のイベント開催団体が白塔寺地区全体範囲においていくつかの建築・院落や道路空間、公開空間を利用して、短期間に複数のイベントを開催する。地区全体イベントは地区住民に限らず、地区外や海外の人々も参加できるイベントである。②デザインコンペは、白塔寺地区において対象四合院や胡同空間の設計を専門家や一般市民から広く求める公募コンペである。③大学実験プロジェクトは、大学教員が研究室学生とほかの団体と一緒に白塔寺地区における1箇所の四合院を更新し、更新した四合院は更新建築・院落モデルケースとして公開され、一般市民に対しての宿泊体験イベントを実施している。④地区住民イベントは、地区住民が集まり、書道、唱歌、読書などの娯楽活動や防災知識、応急手当知識などの勉強会、環境改善やお年寄りの慰問などの公益活動、および地区以外人との交流活動を開催する。また、自習室が提供され、地区子供が集まり、子供向けの活動を開催する。⑤芸術文化イベントは偶に一般市民に対して一日中や短期的に芸術に関する展示会や伝統的な物についての展示会などを開催する。⑥セミナーは専門家が集まり、たまに胡同文化や旧城更新などに関する講習会などを開催する。

第4章 地区全体イベントとデザインコンペ

表4-1 地区イベント一覧（2018年10月まで）

番号	種類	名称	開催時間	イベント内容	開催場所数	主催団体	ターゲット	ターゲット分類	イベント目的
1	地区全体イベント	白塔寺分會場北京国際設計週	2015年9月24日～10月7日	イベント実施団体と協力開催団体は①“展示展覧”イベント、②“講座、ワークショップ”イベント、③“活動”イベント、の3つの形式で地区全体における幾つかの建築や院落を利用し、イベントを開催する	22箇所	株式会社H	白塔寺地区内外における「白塔寺分會場北京国際設計週」イベントに興味がある人々	一般市民	① 地区の魅力と文化・歴史を体験し、発見する ② 活がある人々を呼び込み、地区の活力を高める ③ 「白塔寺再生計画」プロジェクトをアピールする ④ 白塔寺の魅力をきっかけに住民の生活の質を改善する ⑤ 白塔寺の魅力を呼び込み、良い企業を誘致する ⑥ 地区再生の機能をもつ新しい種類の商業を導入する ⑦ 周辺住民がイベントに基づき、地区に愛着を持つ ⑧ 白塔寺の魅力をきっかけに住民の生活の質を改善する ⑨ 白塔寺の魅力を呼び込み、良い企業を誘致する ⑩ 専門家などを呼び込み、地区の保護・更新に参加させる
			2016年9月23日～10月7日		28箇所				
			2017年9月22日～10月7日		35箇所				
			2018年9月26日～10月7日		39箇所				
2	デザインコンペ	2016白塔寺院落更新国際設計案徵集「北京小院落の再生」コンペ 2017白塔寺国際設計案徵集「設計市集」コンペ	2016年6月～10月	対象四合院の設計を専門家や一般市民から広く求める公募コンペ 対象胡同空間の設計を専門家や一般市民から広く求める公募コンペ	12箇所	株式会社H	専門家、学生及び一般市民	一般市民	① 地区の建築物が老朽化しているため、四合院を更新する手法が模索される。 ② 株式会社Hは優勝した設計案に基づき、建築・院落更新のモデルケースとして建築・院落を更新する。 ③ 創造性・実現性のある設計で古い町の課題を解決する ④ 地区住民の生活環境を改善する ⑤ 白塔寺地区における良い景観を作り、地域の活力を高め、地区全体の公共空間の環境を向上させる ⑥ 四合院をめぐり買収することのできない場合、住民の意向に沿って住環境を向上させる ⑦ 地区の状況を把握した上で、生活しやすい建築についての更新モデルケースを作る ⑧ 建築更新モデルケースを市民に公開することに限らず、建築更新モデルケースで胡同環境も提供する
			2017年6月～10月		8箇所				
3	大学実験プロジェクト	“聯合連片”実験拠点項目	2017年2月～現在	大学が伝統的な建築・院落を現代的な生活条件に合わせ更新し、更新した建築・院落を利用して一般市民に宿泊体験を提供する	1箇所	大学	一般市民（宿泊体験についての申請手帳がある）	一般市民	① 地区住民の生活を豊かにする ② 地区住民の間のコミュニケーションを促進する ③ 地区住民グループを育成する
4	地区住民イベント	住民娯楽活動 イベントによる	毎週、毎月	同様な興味のある方が集まり、書道、唱歌、読書などの娯楽活動を開催する	8箇所	地区住民委員会 地区文化活動空間の運営団体 地区図書室の運営団体	白塔寺地区の地区住民及び白塔寺地区周辺地区の住民	住民	① 地区住民の生活を豊かにする ② 地区住民の間のコミュニケーションを促進する ③ 地区住民グループを育成する
					2箇所				
					3箇所				
					2箇所				
5	芸術文化イベント	イベントによる	不定期	ある団体が芸術に関する展示会や伝統的な物についての展示会などを開催する	1箇所	イベントによる	白塔寺地区内外におけるイベントに興味がある人々	一般市民	① イベントにより白塔寺地区をアピールする ② 白塔寺地区のイベントの開催と内容を増やす ③ 地区の生活を豊かにする ④ 専門家などを呼び込み、地区の保護と更新に参加する ⑤ 白塔寺地区の保護と更新に関する問題を発見する ⑥ 解決案を議論し、伝統的な地区の発展について提案や意見を提出する
					2箇所				
					1箇所				
6	セミナー	イベントによる	不定期	ある団体が胡同文化、旧城更新などに関するイベントを開催する	1箇所	イベントによる（主に株式会社H）	白塔寺地区内外の地区住民と一般市民	専門家	

4-3 地区全体イベント「白塔寺分会場北京国際設計週」（白塔寺 DW）

4-3-1 「北京国際設計週」イベントの概要

「北京国際設計週」（以降 DW）は、主に北京市全体におけるいくつかの地区が分会場として指定され、それらの地区においてアートイベントやデザイン作品展示会、セミナーなど複数のイベントが短期間に開催される。第1回目は2009年に「2009 北京国際世界設計大会」がきっかけで中国国家教育部、文化部と北京市政府からの承認を受け、北京で開催された。2011年からDWが年ごと一回に毎年9月下旬から10月上旬までにおいて開催され、中国国家文化部と北京市政府によって北京歌華文化発展集団と北京工業設計促進中心が実施主体に指定されている。2012年に北京市がUNESCOに「設計之都」（設計の都市）と名づけられ、DWは最初に開催された大規模なデザイン系イベントである。2015年に、中国の国务院の特別認定を受け、中国の首都北京で最も重要な国際的文化活動になった。2018年までDWは7回開催され、唯一の国家レベルの設計活動である。2018年DWの分会場は北京市に限らず、天津において一つあり、河北省において二つあり、合計49に至った。（参考文献：1、2、3）

4-3-2 白塔寺 DW の実態

白塔寺地区は第5回2015年DW開催時にDWの一つの会場となり、2015年より白塔寺地区で株式会社Hが主導的に白塔寺DWを毎年一回開催している。白塔寺DWは白塔寺地区における初めての全体地区範囲で開催されているイベントである。2015年から2018年まで毎年白塔寺DWのテーマが違い、4年間開催されてきた。しかし、株式会社Hは2018年から2020年まで3年間で「暖城行動」というプロジェクトを実施する計画があるため、2018年から2020年までの毎年白塔寺DWのテーマはすべてに「暖城行動」というテーマを決めた。「暖城行動」プロジェクトは、白塔寺地区の人々の地区自治意識と人のネットワークを形成するため、地区において社区文化活動空間を建設する。社区文化活動空間の運営団体がそこでイベントを実施し、地区の人々がイベントに参加する。運営団体は同様な興味ある人のグループを作り、グループが運営団体や社会団体などの協力ですます成長し、グループメンバーが地区の環境など問題を解決する意識を形成する。

2015年から2018年まで4年間で開催されたイベントはイベント開催形式により①展示展覧型、②活動型、③講座・フォーラム型、3つのタイプに分類することができる。①展示展覧型は、協力開催団体が作品や看板などを現場に設置し、来場者が自分で見る。来場者は質問などがあれば、現場スタッフが展示物の情報を説明する。②活動型は、a. 公共活動空間を備え、来場者は公共活動空間で活動する；b. 来場者が現場で物作りや設備などを体験する；c. 来場者が現場でゲームする、と

いう三つのイベント内容を含む。③講座・フォーラム型には、専門的知識を授ける講習会という形式があり、テーマに沿って参加者全員が意見や情報の交換・共有を行う形式もある。

4-3-2-1 2015 年白塔寺 DW

2015 年白塔寺 DW の概要を表 4-2 に示す。2015 年白塔寺 DW のテーマは「接続と共生」（接続と共生）であり、開催期間は 2015 年 9 月 24 日から 10 月 7 日まで 14 日間である。株式会社 H の内部資料「2015 年白塔寺 DW に関する工作総結書」により 2015 年白塔寺 DW は白塔寺地区の 22 箇所におけるイベントが企画され、55 展示・展示活動、31 回講座・フォーラムなど、合計 89 イベントが実施された。22 箇所利用された場所の中で、建築・院落が利用された場合は 20 箇所あり、公開空地・道路空間が利用された場合は 2 箇所ある。2015 年白塔寺 DW により利用された場所の分布と開催された活動の分類を、図 4-1 に示す。

表 4-2 2015 年白塔寺 DW の概要

主催団体	株式会社 H
実施団体	株式会社 G
実施期間	2015 年 9 月 24 日～10 月 7 日（14 日間）
テーマ	接続と共生（接続と共生）
目的と目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地区の魅力と文化・歴史を体験し、発見する 2. 活力がある人々を呼び込み、地区の活力を高める 3. 「白塔寺再生計画」プロジェクトをアピールする 4. 白塔寺 DW のきっかけで、住民の生活の質を改善する 5. 白塔寺 DW の影響を受け、良い企業を誘致する

2015 年白塔寺 DW により利用された場所の中で、2 箇所更新された建築・院落が利用されたものは、6 番「青塔胡同」と 9 番「宮門口四条」のである。6 番青塔胡同におけるイベントは「老物件展」であり、更新された建築・院落の中で展示物を装飾する。「老物件展」は、街道弁事処は地区住民が持っている旧物（古いもの）を収集し、協力開催団体が旧物と団体の展示物を 6 番青塔胡同の空間でアレンジし、来場者に展示する。9 番宮門口四条はそのままに更新された建築・院落を展示する。宮門口四条 24 号は白塔寺地区において株式会社 H が更新主体として建築・院落の更新を行う第 1 件事例であり、2015 年白塔寺 DW の開催際に四合院の更新モデルケースとして一般市民に公開する。

2015年白塔寺分会场北京国際設計週

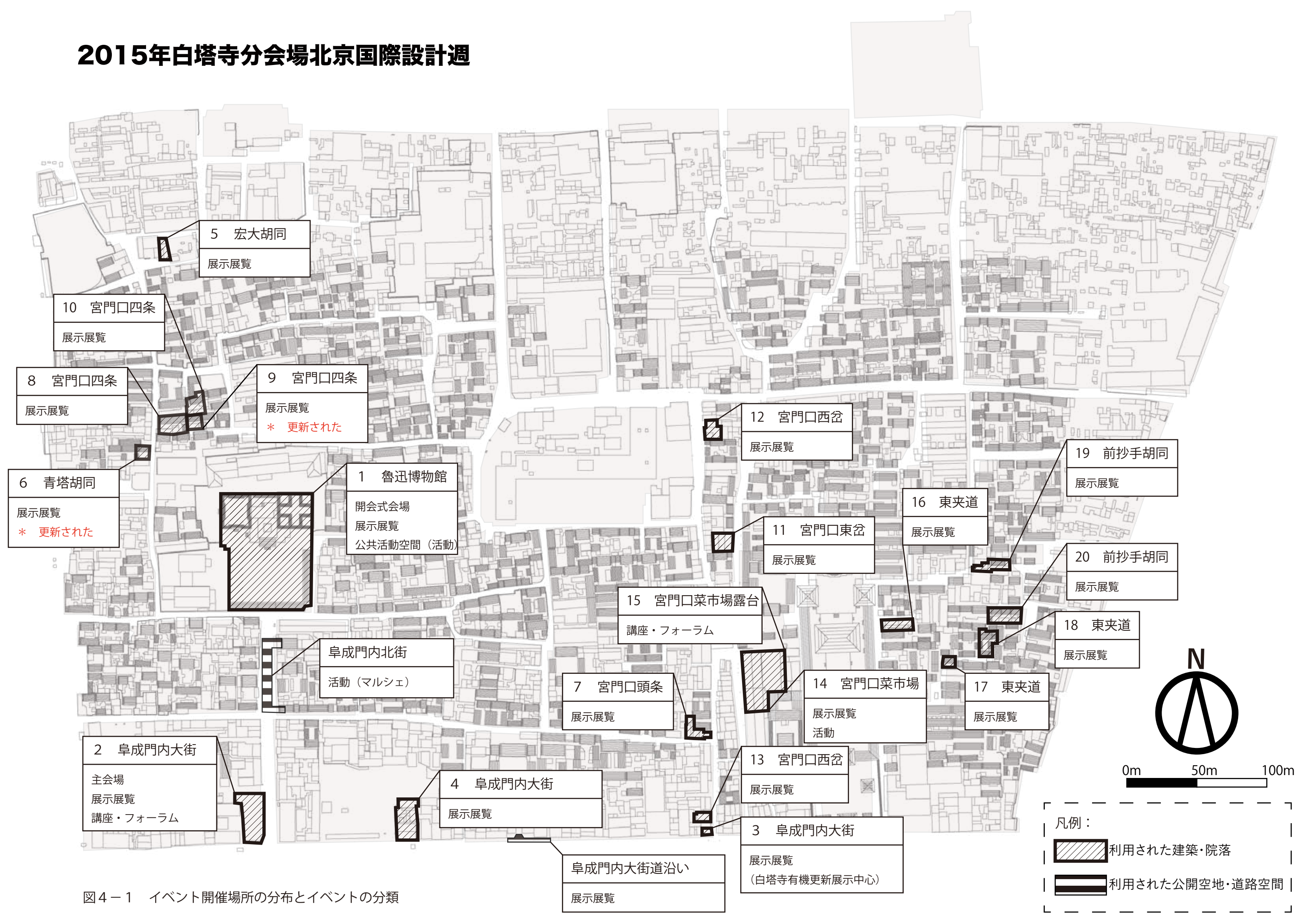


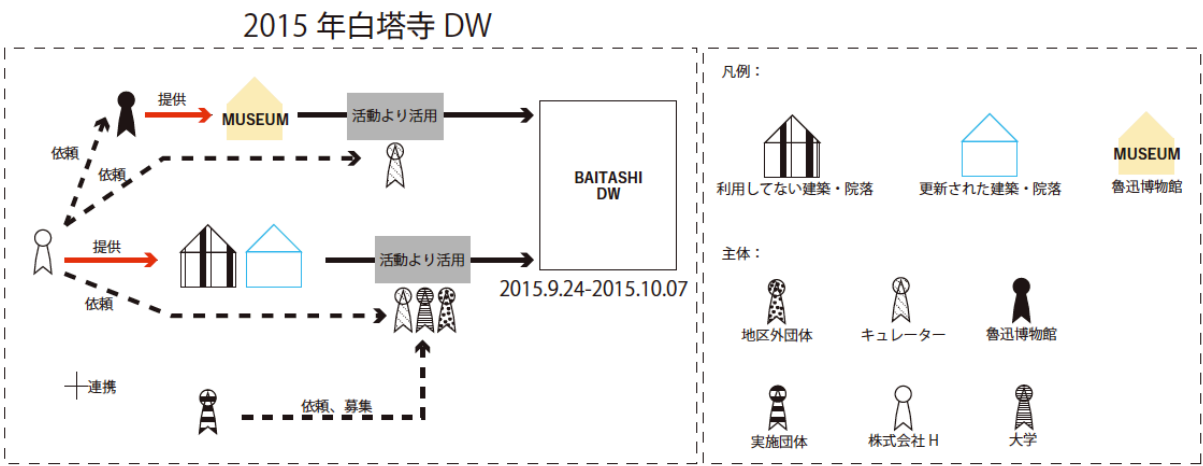
図4-1 イベント開催場所の分布とイベントの分類

2015 年白塔寺 DW の開会式会場は白塔寺地区における有名な記念博物館「魯迅博物館」である。主会場は2番「阜成門内大街」であり、2番阜成門内大街は2015 年白塔寺 DW の時にまだ更新されてなく、建築内と出入り口の所で立派な装置を備えた（写真1）。



写真1 2番「阜成門内大街」 （出典：参考文献 4）

2015 年白塔寺 DW の実施経緯を図 4-2 に示す。2015 年度は株式会社 H と株式会社 G が連携して、2015 年白塔寺 DW を実施した。まず、株式会社 H は主催団体として、会社が管理しており利用していない建築・院落のリストを作成し、実施団体に提供する。また、地区において更新された建築を公開するため、更新された建築もイベント開催場所として実施団体に提供する。2015 年白塔寺 DW の実施団体は株式会社 G である。株式会社 G は実施団体として様々な団体や人に依頼、または、募集を行う。同時に、株式会社 H もいくつかの団体やキュレーターなどに依頼する。様々な団体や人はイベント計画案を主催団体と実施団体に提出し、計画案が通れば、団体は協力開催団体になり、2015 年白塔寺 DW の際にイベントを実施する。2015 年白塔寺 DW の協力開催団体は大学団体もあり、地区外の民間企業もあり、有名なキュレーターもいる。2015 年白塔寺 DW は株式会社 H が持っている建築・院落を利用するうえで、株式会社 H は地区の魯迅博物館の団体を依頼し、博物館をイベントにより活用することができる。



4-3-2-2 2016 年白塔寺 DW

第2回目 2016 年白塔寺 DW の概要を表4-3に示す。2016 年白塔寺 DW のテーマは「城市研習・共享未来」（城市を研究し、城市を勉強し、未来を共有する）であり、開催期間は2016 年9月23日から10月7日までの15日間である。株式会社Hの内部資料「2016 年白塔寺 DW に関する工作総結書」により2016 年白塔寺 DW は白塔寺地区の28箇所におけるイベントが企画され、51展示・展示活動、16回講座・フォーラムなど、合計85イベントが実施された。28箇所利用された場所の中で、建築・院落が利用された場合は24箇所があり、公開空地・道路空間が利用された場合は4箇所がある。2016 年白塔寺 DW により利用された場所の分布と開催された活動の分類を、図4-3に示す。

表4-3 2016 年白塔寺 DW の概要

主催団体	株式会社H
実施団体	株式会社Z
実施期間	2016 年9月23日～10月7日（15日間）
テーマ	城市研習・共享未来（城市を研究し、城市を勉強し、未来を共有する）
目的と目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地区再生の機能をもつ新しい種類の商業を導入する 2. 周辺住民がイベントに基づき、地区に愛着を持つ 3. 白塔寺 DW をきっかけに、住民の生活の質を改善する 4. 白塔寺 DW の影響を受け、良い企業を誘致する

2016 年白塔寺 DW により利用された場所の中で、4箇所は更新された建築・院落が利用された、6番「青塔胡同」と16番「東夾道」、22番「阜成門内大街」、32番「東夾道」である。6番青塔胡同は2015 年11月に社区文化活動空間として開所され、2016 年白塔寺 DW の時に社区文化活動空間の運営団体がイベントを計画し、開催した。16番東夾道は2016 年6月に民間企業が運営団体として建築・院落を更新した。2016 年白塔寺 DW の時に運営団体が16番東夾道における商業をアピールするため、四合院の更新モデルケースを公開し、イベントを実施した。32番東夾道は同様に運営主体が建築・院落を更新した。2016 年白塔寺 DW の時に四合院の更新モデルケースを来場者に公開した。22番阜成門内大街は運営団体が商業をアピールするため、イベントを実施した。

2016年白塔寺分会场北京国際設計週

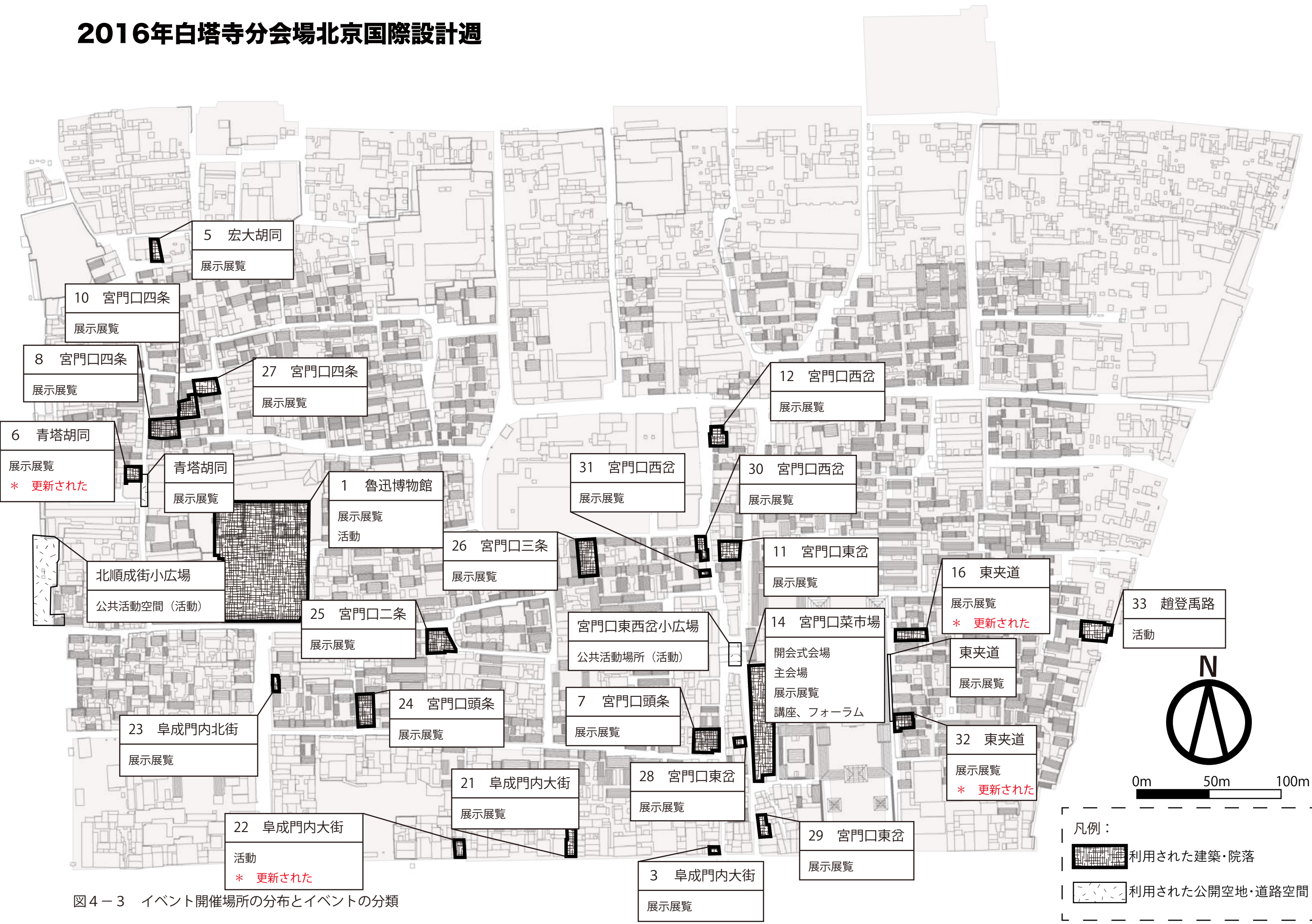


図4-3 イベント開催場所の分布とイベントの分類

2016 年白塔寺 DW の実施経緯を図 4-4 に示す。2016 年度は株式会社 H が株式会社 Z と契約して、2016 年白塔寺 DW を実施した。2016 年白塔寺 DW はほぼ 2015 年白塔寺 DW の実施経緯と同様であり、実施団体は株式会社 Z である。しかし、2016 年度から株式会社 H は鲁迅博物館の運営団体を依頼するだけではなく、地区内団体にも依頼した。地区内団体は白塔寺地区における場所を運営する団体であり、6 団体が 2016 年白塔寺 DW に場所を提供し、イベントを開催した。地区内団体は地区内の社会組織もあり、民間企業もあり、海外デザイナー団体もあり、自営業者もいる。

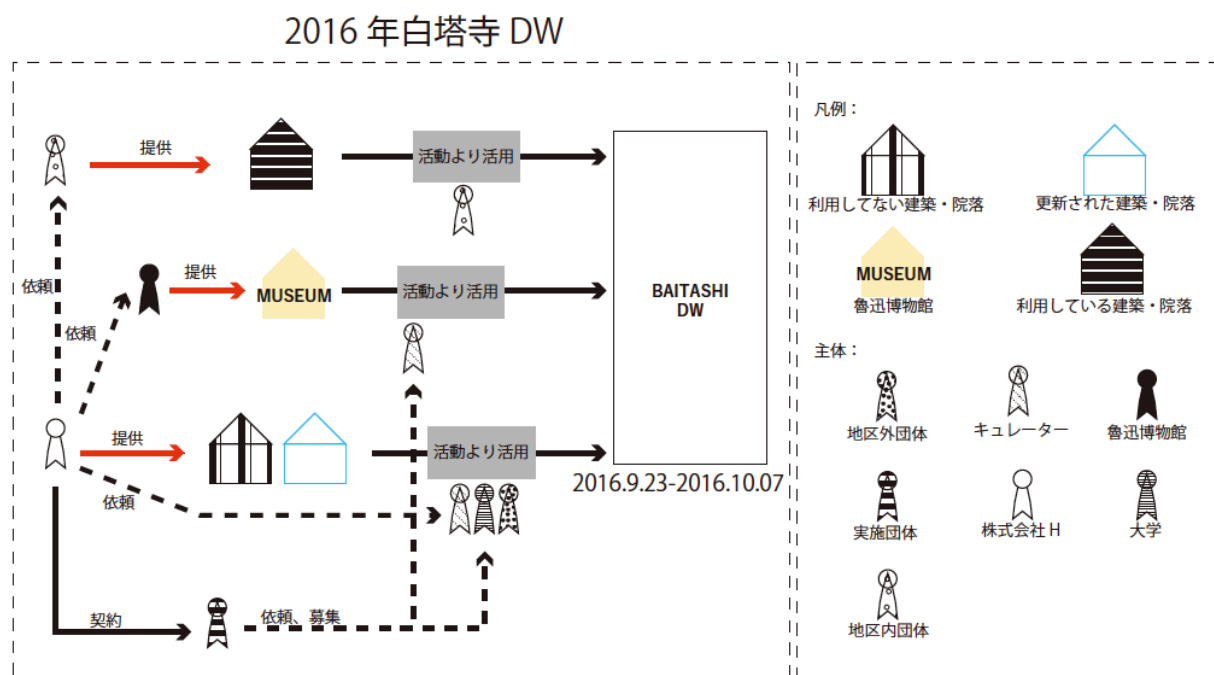


図 4-4 2016 年白塔寺 DW の実施経緯

4-3-2-3 2017 年白塔寺 DW

第3回目 2017 年白塔寺 DW の概要を表 4-4 に示す。2017 年白塔寺 DW のテーマは「新隣里関係」（新近隣所関係）であり、開催期間は 2017 年 9 月 22 日から 10 月 7 日までの 16 日間である。株式会社 H の内部資料「2017 年白塔寺 DW に関する工作総結書」により 2017 年白塔寺 DW は白塔寺地区の 35 箇所におけるイベントが企画され、72 の展示展覧活動、35 回の講座・フォーラムなど、合計 139 イベントが実施された。35 箇所の利用された場所の中で、建築・院落が利用された場所は 33 箇所あり、公開空地・道路空間が利用された場所は 2 箇所ある。2017 年白塔寺 DW により利用された場所の分布と開催された活動の分類を図 4-5 に示す。

表 4-4 2017 年白塔寺 DW の概要

主催団体	株式会社 H
実施団体	雑誌出版社 WA
実施期間	2017 年 9 月 22 日～10 月 7 日（16 日間）
テーマ	新隣里関係（新近隣所関係）
目的と目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門家などを呼び込み、地区の保護・更新に参加させる 2. 文化資源と文化活動を導入する 3. 地区をアピールし、地区外の設計者やメディアの心を引く

2017 年白塔寺 DW により利用された場所の中で、更新された建築・院落が利用された場合が 2015 年と 2016 年に比べ多数増え、6 番「青塔胡同」、10 番「宮門口四条」、27 番「宮門口四条」、36 番「宮門口四条」、37 番「宮門口四条」、47 番「小弓匠胡同」、44 番「福綏靖」、46 番「小茶葉胡同」、14 番「宮門口菜市场」、11 番「宮門口東岔」、39 番「宮門口東岔」、34 番「阜成門内大街」、の 12 箇所に至る。その中で、6 番「青塔胡同」と 27 番「宮門口四条」、10 番「宮門口四条」、14 番「宮門口菜市场」、34 番「阜成門内大街」、11 番「宮門口東岔」、の 6 箇所は建築・院落の空間内でイベントが開催された。他の場所は 2017 年白塔寺 DW がきっかけで、建築・院落の更新モデルケースを来場者に公開した。

2017年白塔寺分会场北京国際設計週

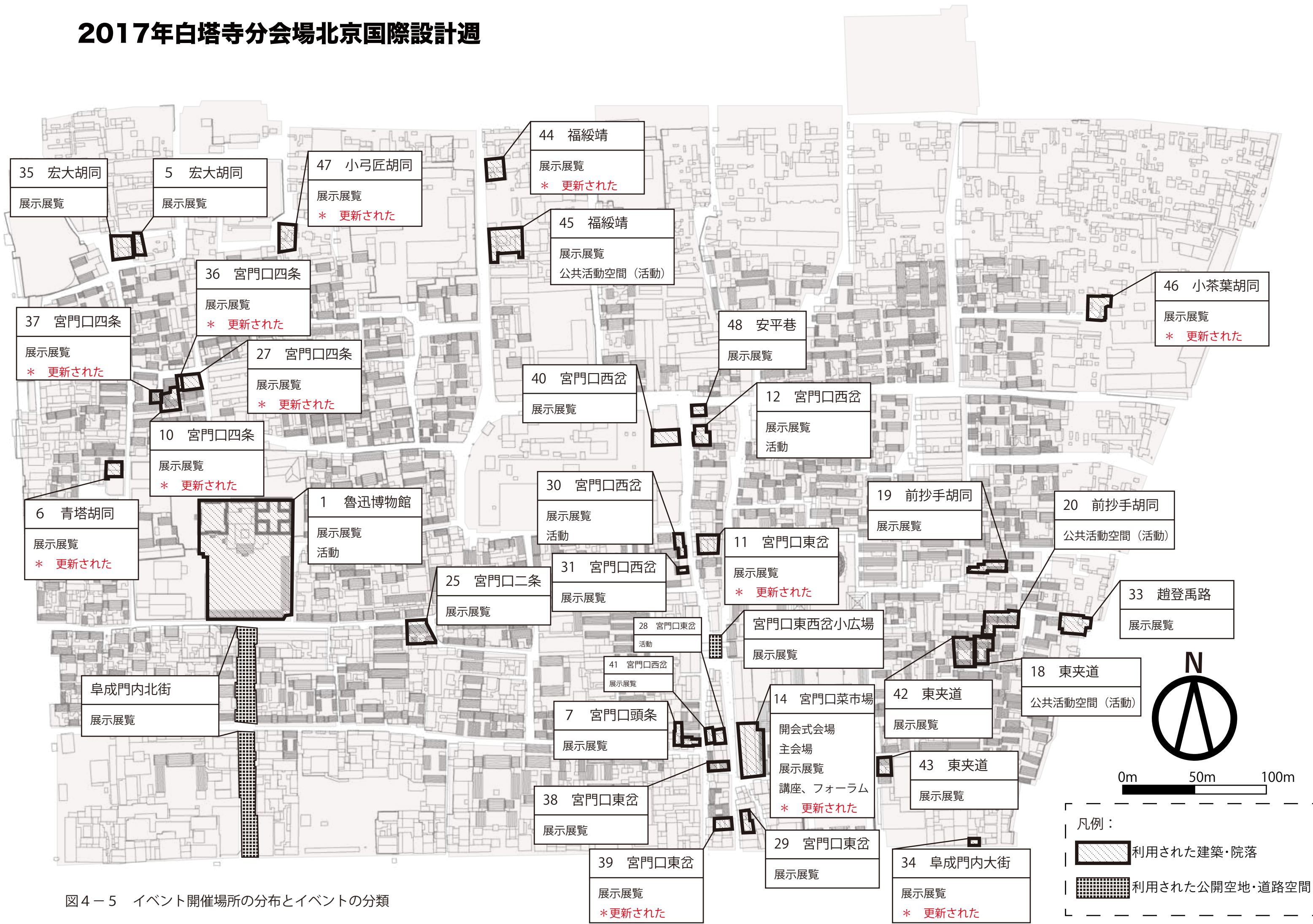


図4-5 イベント開催場所の分布とイベントの分類

2017 年白塔寺 DW の実施経緯を図 4-6 に示す。2017 年度は株式会社 H と雑誌出版社 WA が契約して、2017 年白塔寺 DW を実施した。雑誌出版社 WA は第 1 回目 2015 年白塔寺 DW からずっと白塔寺地区における一つの場所を利用して、イベントを開催してきた。2017 年白塔寺 DW の実施経緯はほぼ 2016 年白塔寺 DW と同様であり、実施団体は雑誌出版社 WA に変更した。イベントが開催された 35 箇所の中で、9 箇所は地区内団体が日常運営している場所を提供し、イベントが開催された。9 箇所の中で、1 箇所の日常的な運営団体は株式会社 H である。その場所で、株式会社 H は白塔寺地区における実施されている事業と実施された事業を看板や模型などで展示しており、事業説明スタッフもいる。

2017 年白塔寺 DW は雑誌出版社 WA が実施団体として初めて規模がこれほど大きいイベントを計画して、実施した。協力開催団体に限らず、実施団体も幾つかの建築・院落を、イベントにより活用した。例えば、魯迅博物館で実施団体は珍しい本を展示した；宮門口菜市场を更新し、そこで様々な講座・フォーラムを開催した。雑誌出版社 WA は 2016 白塔寺院落更新国際方案徴集「北京小院兒的重生」コンペ（本文 3-4-1）に関する公開審査会も宮門口菜市场で行った。

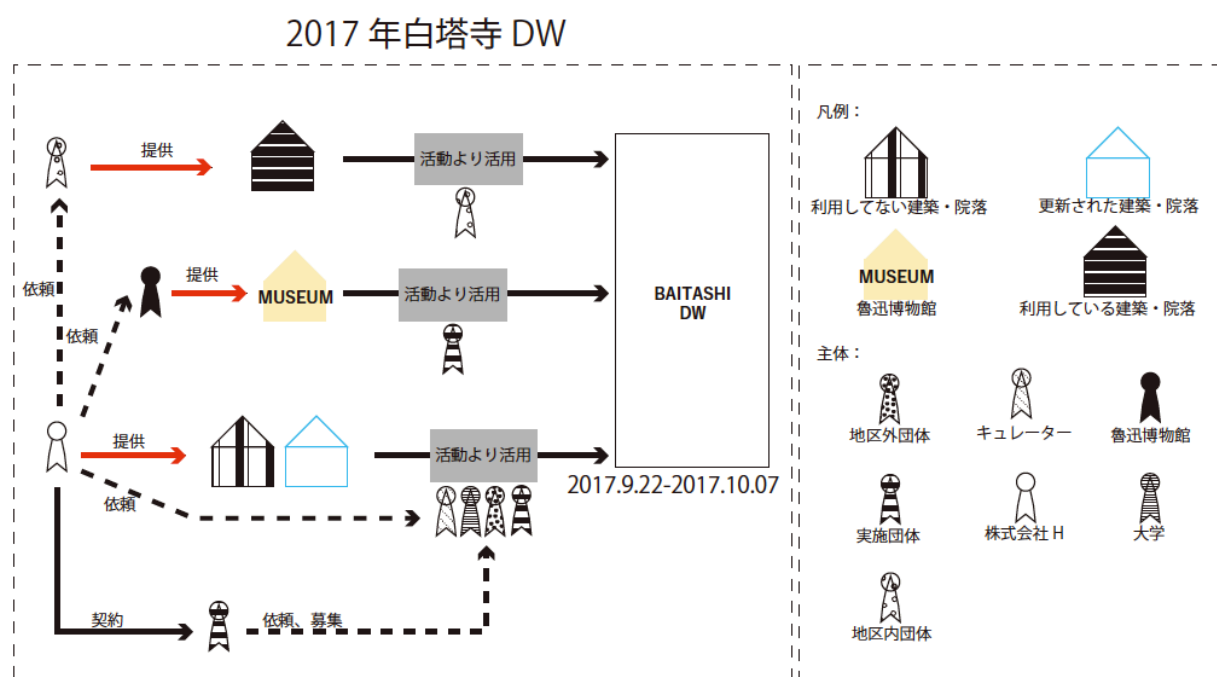


図 4-6 2017 年白塔寺 DW の実施経緯

4-3-2-4 2018 年白塔寺 DW

第4回目 2018 年白塔寺 DW の概要を表 4-5 に示す。2018 年白塔寺 DW のテーマは「暖城行動」（城市を暖める行動）であり、開催期間は 2018 年 9 月 26 日から 10 月 7 日までの 12 日間である。株式会社 H の内部資料「2018 年白塔寺 DW に関する工作総結書」により 2018 年白塔寺 DW は白塔寺地区の 39 箇所における活動が企画され、80 の展示展覧活動、52 回の講座・フォーラムなど、合計 143 イベントが実施された。39 箇所利用された場所はすべて建築・院落が利用された。2018 年白塔寺 DW により利用された場所の分布と開催された活動の分類を、図 4-7 に示す。

表 4-5 2018 年白塔寺 DW の概要

主催団体	株式会社 H
実施団体	雑誌出版社 WA
実施期間	2018 年 9 月 26 日～10 月 7 日（12 日間）
テーマ	暖城行動（城市を暖める行動）
目的と目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 伝統的な風貌における国際的な設計が運用されて作った街区微環境、四合院の修繕、智能社区服務などの事例を展示する 2. 社区住民が参加することを促進する 3. 北京歴史文化名城の文化内容と精神価値を探る

2018 年白塔寺 DW により利用された場所の中で、14 箇所は更新された建築・院落が利用された。その中で、6 番「青塔胡同」と 28 番「宮門口四条」、10 番「宮門口四条」、11 番「宮門口東岔」、12 番「宮門口西岔」、13 番「宮門口西岔」、7 番「宮門口頭条」、56 番「宮門口東西岔」、14 番「宮門口菜市场」、49 番「阜成門内大街」、の 10 箇所は建築・院落の空間内でイベントが開催された。51 番「青塔胡同」は住民が自発的に建築・院落の更新を行うため、住民更新事例として来場者に展示する。他の場所は 2018 年白塔寺 DW をきっかけに、建築・院落の更新モデルケースを来場者に公開する。

2018年白塔寺分会场北京国際設計週

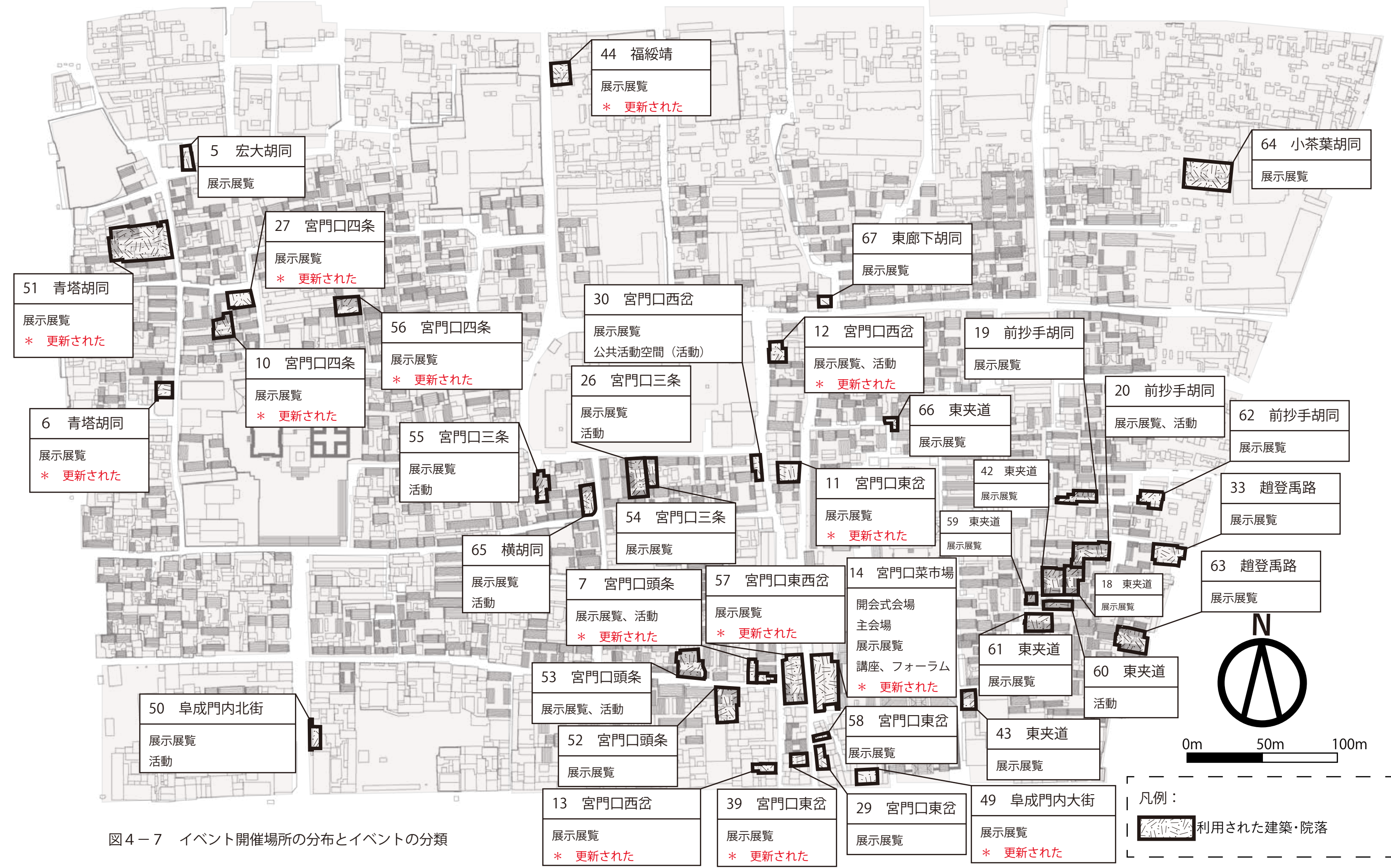


図4-7 イベント開催場所の分布とイベントの分類

2018 年白塔寺 DW の実施経緯を図 4-8 に示す。2018 年度も株式会社 H と雑誌出版社 WA が契約して、2018 年白塔寺 DW を実施した。2018 年白塔寺 DW は魯迅博物館を利用してなかった。2018 年白塔寺 DW はイベントが開催された 39 箇所の中で、8 箇所は地区内団体が日常運営している場所を提供し、イベントを開催した。8 箇所の中で、3 箇所は場所における日常的な運営主体が雑誌出版社 WA のイベント企画募集情報から 2018 年白塔寺 DW を応募して、運営場所を提供した。3 箇所のうち 2 箇所はイベントを行わず、建築・院落を公開した；1 箇所は複数の講座・フォーラムを開催した。

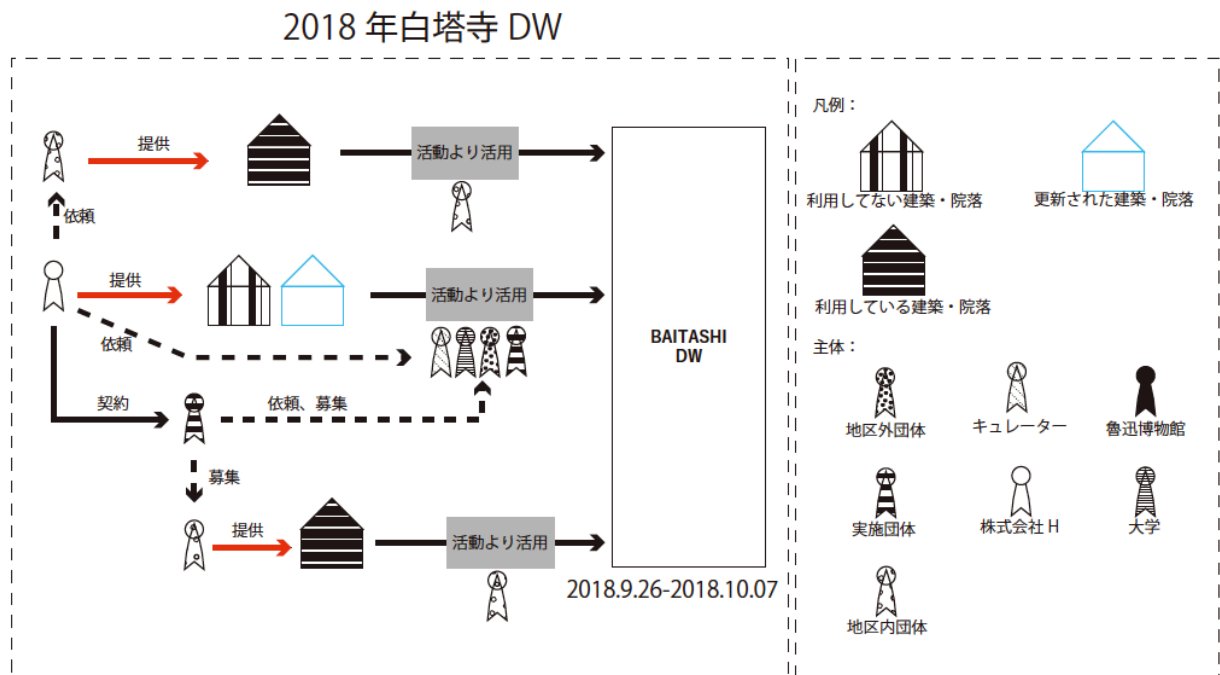


図 4-8 2018 年白塔寺 DW の実施経緯

4-3-2-5 2015 年白塔寺 DW から 2018 年白塔寺 DW

表 4-6 に 2015 年から 2018 年白塔寺 DW の来場者人数を示す。2018 年白塔寺 DW の来場者人数データは無い。2015 年第 1 回白塔寺 DW が開催された時の来場者は合計 44567 人に至り、2016 年白塔寺 DW が開催された時に来場者が一番多くて、51094 人に至った。2017 年白塔寺 DW の来場者人数が 2016 年より少し減って、50389 人が白塔寺 DW に来た。2015 年白塔寺 DW から 2017 年白塔寺 DW までの開催期間における毎日の来場者の人数データを、図 4-9 に示す。2015 年白塔寺 DW は開催第 1 回目のため、開催開始日から白塔寺地区の向こう側における「金融街」街区で白塔寺 DW をアピールした。開催 9 日目に白塔寺 DW の来場者が急増した。

表 4-6 2015 年～2017 年白塔寺 DW の来場者

	2015 年来場者人数	2016 年来場者人数	2017 年来場者人数	2018 年来場者人数
合計	44567	51094	50389	

*株式会社 H の資料より作成、2018 年来場者人数が無い

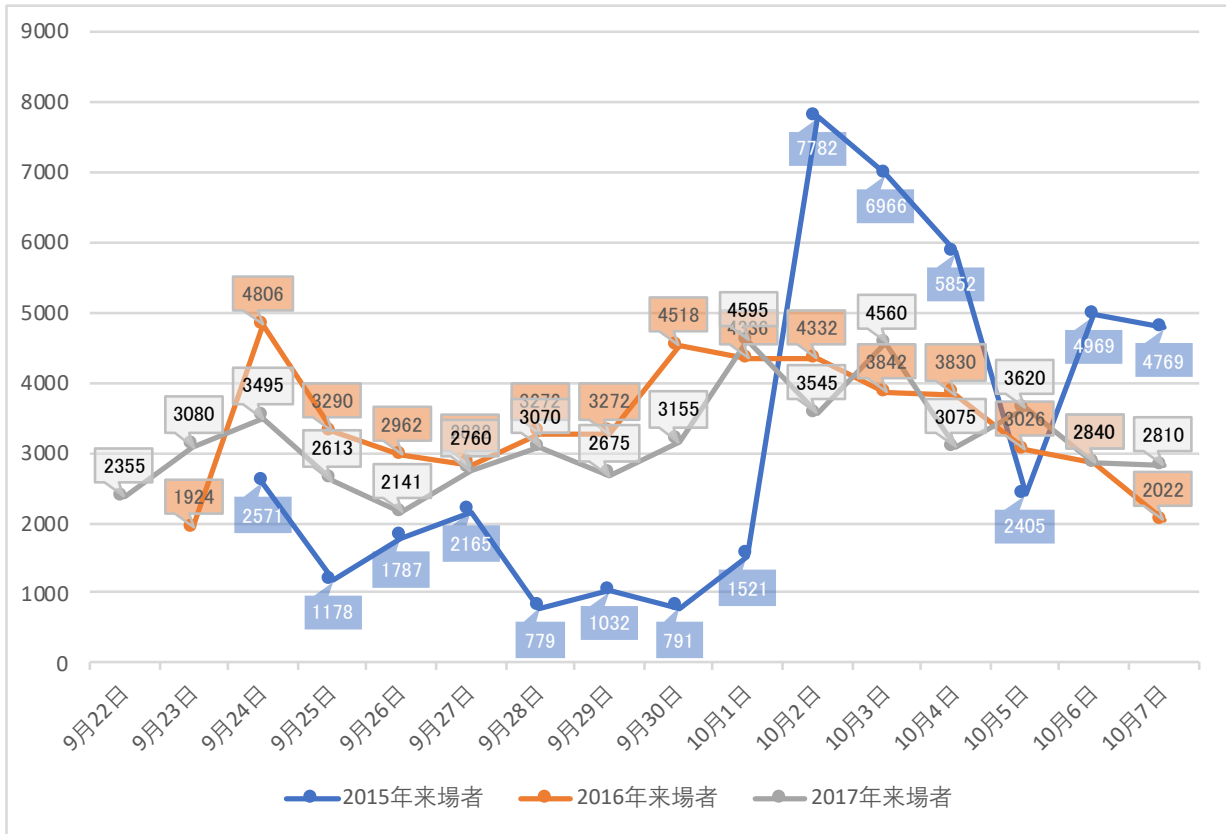


図 4-9 2015 年～2017 年白塔寺 DW の開催期間における毎日来場者の人数データ

4-3-3 白塔寺 DW に関わる人的関係

白塔寺 DW に関する人々を主催団体、実施団体、協力開催団体、来場者、の4つの集団を分類する。地区住民は居住エリアとして白塔寺地区において重要な集団であるが、地区住民が白塔寺 DW に参加する場合は協力開催団体メンバーと来場者に所属すると考える。主催団体の役割は白塔寺 DW により利用される建築・院落を提供することに限り、主催団体に対するヒアリング調査を行う必要がないと考える。実施団体に対するヒアリング調査を行い、白塔寺 DW に関する情報の把握、または、協力開催団体と来場者に対するアンケート調査を行い、協力開催団体と来場者に関する情報の把握を試みる。

4-3-3-1 実施団体に対するヒアリング調査

白塔寺 DW の実施経緯や実施方法を把握し、白塔寺 DW が地区に与える影響を明らかにするため、ヒアリング調査を行った。ヒアリング調査対象は2017年と2018年白塔寺 DW の実施団体とした雑誌出版社 WA である。ヒアリング調査の概要を表4-7に示す。

表4-7 ヒアリング調査概要

調査対象	Y 氏	
調査対象属性	2017 年と 2018 年白塔寺 DW の実施団体とした雑誌出版社 WA の実施リーダー	
調査実施日	第 1 回 : 2017 年 12 月 5 日	第 2 回 : 2018 年 12 月 3 日
質問項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 白塔寺 DW におけるイベント開催開始時期 2. 2017 年白塔寺 DW のテーマについての理解 3. 2017 年白塔寺 DW の経緯 4. 協力開催団体の選定 5. 2017 年白塔寺 DW 実施時に問題点 6. 白塔寺 DW の特徴 7. 2017 年白塔寺 DW における特徴的なイベントの内容 8. 白塔寺 DW が地区住民との関係 9. 白塔寺 DW が地区への影響 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2018 年白塔寺 DW のテーマについての理解 2. 2018 年白塔寺 DW の経緯 3. 協力開催団体の選定 4. 白塔寺 DW イベントの制限 5. 2018 年白塔寺 DW 実施時に問題点 6. 2018 年白塔寺 DW における特徴的なイベントの内容 7. 白塔寺 DW が地区住民との関係 8. 白塔寺 DW が地区への影響

1. 実施団体とした雑誌出版社 WA について：

表 4-8 に雑誌出版社 WA が白塔寺 DW との関係を示す。雑誌出版社 WA は第 1 回 2015 年白塔寺 DW が開催される時に「白塔寺再生論壇」というイベントを実施した。国内外において「旧城更新」分野に関する関心がある専門家が集まり、一日限りのフォーラムを実施した。2016 年度、雑誌出版社 WA は 2016 白塔寺院落更新国際方案徴集「北京小院兒的重生」コンペを計画し、2016 年白塔寺 DW 時に公開審査会を実施した。2017 年、雑誌出版社 WA は 2017 年白塔寺 DW の実施団体として白塔寺 DW を計画、開催した。同時に、2017 白塔寺国際方案徴集「設計市集」コンペを計画し、2017 年白塔寺 DW 時に公開審査会を実施した。2018 年、雑誌出版社 WA は 2018 年白塔寺 DW の実施団体として白塔寺 DW だけを計画、開催した。

表 4-8 白塔寺 DW との関係

	2015 年白塔寺 DW	2016 年白塔寺 DW	2017 年白塔寺 DW	2018 年白塔寺 DW
役割	協力開催団体	協力開催団体	実施団体	実施団体
計画・実施 内容	一日限りのフォー ラム	デザインコンペ公 開審査会	1、白塔寺 DW 2、デザインコン ペ公開審査会	白塔寺 DW

2. 白塔寺 DW のテーマについて：

2017 年白塔寺 DW のテーマは「新隣里関係」であり、白塔寺地区はほかの老城における DW の分会场として地区より生活の雰囲気が高く、「新隣里関係」というテーマは地区住民の間の関係を強調し、白塔寺地区が居住地区である特徴に合わせた。

2018 年白塔寺 DW のテーマは「暖城行動」である。株式会社 H が地区の再開発事業を実施する主体として地区を管理しており、今年は政府の政策により再開発などのハード面から地区住民の生活などのソフト面へ注目している。2018 年白塔寺 DW のテーマはその背景で提出した。今年は以前より地区住民の参加度が高く、雑誌出版社 WA は実施団体として 2018 年白塔寺 DW を実施したが、白塔寺会客庁を運営している団体は主に地区住民に関係のあるイベントを計画し、実施した。

3. 白塔寺 DW の実施経緯について：

2017 年と 2018 年白塔寺 DW で雑誌出版社 WA が実施団体として実施した経緯はほぼ同様であり、図 4-10 に示す。3 月中に実施団体とした雑誌出版社 WA は株式会社 H からイベントを開催する依

頼を受け、5月～6月に雑誌出版社WAはイベントの開催に関する仕事を推進し、7月～8月にイベント協力開催団体を募集し、選定する。8月中にイベント協力開催団体は実施団体とした雑誌出版社WAが提供したイベント開催可能場所リストにより、現場まち歩きをした後でイベント開催の希望場所を雑誌出版社WAに提出し、雑誌出版社WAが全体的にイベント開催場所を調整する。2018年は白塔寺会客庁を運営している団体が主に地区住民に関係あるイベントを計画、実施するため、実施団体とした雑誌出版社WAは白塔寺会客庁を運営している団体と長期間にわたり交渉した。

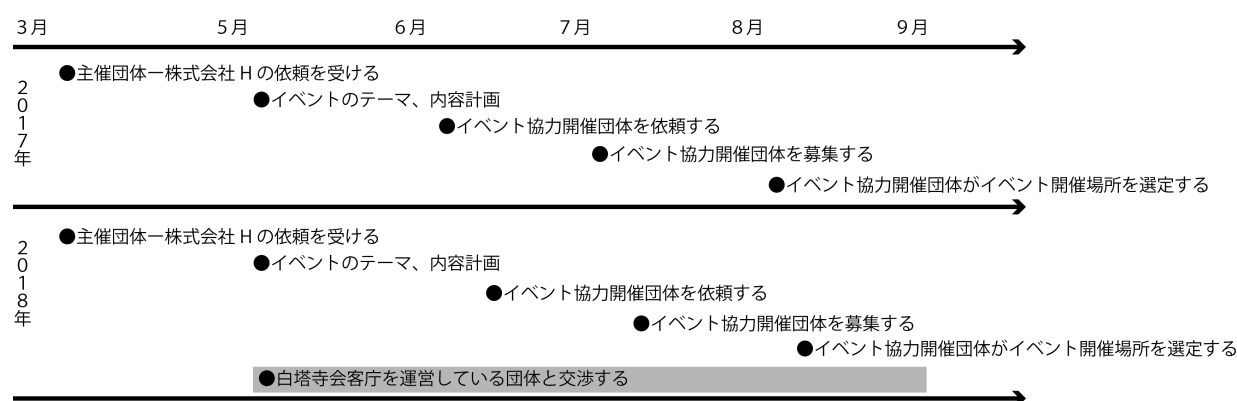


図4-10 2017年と2018年白塔寺DW実施団体の実施経緯

4. 協力開催団体の選定について：

協力開催団体の選定については、実施団体とした雑誌出版社WAは①白塔寺DWに参加したことがある団体に依頼する、②ネットで白塔寺DWの協力開催団体についての募集情報を公開する、の二つ手法で協力開催団体になる希望団体（以降希望団体）を集めた。希望団体はイベントの計画案を雑誌出版社WAに提出する。雑誌出版社WAは提出されたイベント計画案のイベント内容と実施方法により協力開催団体を選定した。

5. 実施問題について：

2017年と2018年の白塔寺DWを実施する時に、①資金、②場所、③スタッフ人数、の三つ問題があった。2017年の時に資金が少なかったため、海外の2、3団体が参加できなかった。場所の問題については、複数の団体がイベント開催場所を決めた後にイベントの計画案を直し、実施した。場所が問題でイベントの計画内容と実施内容は大幅変わったことがあり、イベントの質も差別があった。スタッフ人数については、白塔寺DWを実施する時に来場者への説明、場所案内の人が足りなかったため、来場者はイベントの実施内容をよく理解できなかった。2018年の時には、ボランティア人数が2017年より多かったため、スタッフ人数についての問題はあまり困ることではなかった。

6. 白塔寺 DW の特徴と特徴的なイベントについて：

白塔寺 DW は白塔寺地区の全体における場所を利用しているため、イベント開催場所が分散しており、開催場所の環境によりイベントの質が異なる。Y 氏により 2017 年白塔寺 DW における「胡同楽落」と「白塔寺会客厅」の二つのイベント項目は一番よくテーマに相応した。「胡同楽落」は院落を利用して、一時的な公共活動場所を作った。四合院・胡同エリアにおける公共活動場所の不足は問題である。イベントをきっかけに、公共活動場所が作られて、地区住民がそこで他の人と繋がりを作れる。しかし、「白塔寺会客厅」は白塔寺 DW のために開催されたことではなく、白塔寺 DW がきっかけで市民に開所する長期的な社区文化活動空間である。2018 年度、白塔寺会客厅を運営している団体が開催したイベント項目は一番よくテーマに相応した。

7. 実施団体とした雑誌出版社 WA が地区住民との関係について：

雑誌出版社 WA は 2017 年白塔寺 DW を実施する時に地区住民向けのイベントを計画し、街道（行政）がサポートしてくれ、部分の地区住民が参加した。地区住民は白塔寺 DW に対して許容し、ますます理解してきた。2018 年白塔寺 DW は、多数の地区住民に関係のあるイベントを計画し、地区住民も協力してイベントに参加した。2018 年にあった地区住民は 2017 年より開放的になり、イベントについての関心が高まった。

8. イベントが地区に与える影響について：

白塔寺 DW は一時的で、短期間的なイベントであり、イベントの時は地区住民に面白い公共活動空間を創造し、胡同空間の設計案や院落の設計案などの地区を更新することについてのアイデア案を公開する。地区住民と来場者が楽しく、白塔寺地区が賑やかになる。地区住民はイベントがきっかけで、ますます地区外の人々と交流機会を増やしていた。しかし、イベントにより公共施設や建築の更新、胡同環境の改善に対する長期的な影響が少なかった。

実施団体とした雑誌出版社 WA に対してヒアリング調査により、以下のことがわかった。

1. 白塔寺地区は居住エリアのため、白塔寺 DW のテーマとイベント内容は地区住民との関係が深い。白塔寺 DW の展開により、地区住民の参加程度が深くなる。

2017 年白塔寺 DW は地区住民に向けるイベントを実施し、一部の地区住民も参加した。2018 年白塔寺 DW において複数のイベント項目は地区住民と一緒に計画し、実施した。

2. 白塔寺 DW をきっかけに、実施団体は白塔寺地区で多様な人々と繋がる。

2015 年白塔寺 DW から毎年白塔寺 DW でイベントを実施してきた。イベント開催のため、主催団体の人々や協力開催団体の人々、地区住民、地区において団体の人々、の様々な人を知り合った。

3. 白塔寺 DW の特徴は白塔寺地区の全体範囲で多様な場所を活用して、各イベントの実施内容は開催場所に合わせて直された。

Y 氏により協力開催団体は開催場所を選定し、イベント計画を直して、イベントを実施した場合が多かった。

4. 白塔寺 DW が地区環境や空間に与えた影響は短期性がある。

白塔寺 DW の際に、来場者が複数で地区に来て、住民もイベントに参加し、地区が賑やかになった。白塔寺 DW が終わったら、イベント開催のため、設置した仮施設などが除却し、日常的な状況に戻した。

4-3-3-2 協力開催団体に対するアンケート調査

協力開催団体とは、白塔寺 DW における一つの場所でイベントを計画、具体的に実施する団体である。アンケート調査により白塔寺 DW の協力開催団体の情報と特徴の把握を試みる。対象は2018年白塔寺 DW の43の協力開催団体である。回収数は29部である。アンケートの内容は主に協力開催団体の属性、イベントを開催する目的、白塔寺地区でイベント開催時に困ること、地区住民との関係についてである。

協力開催団体の主体構成については、企業、大学の学生チーム、大学の学術団体の場合が多い（図4-1 1）。複合団体は、デザイナーや自営業者などの複数の団体が協力し、イベントを実施する団体である。白塔寺 DW のイベント協力開催団体の募集情報の出所については、白塔寺 DW の主催団体の招致に関わる場合が多い、「ほか」は団体が自動的に主催団体や実施団体に連絡した（図4-1 2）。協力開催団体が白塔寺 DW に参加した年度については、2017 年白塔寺 DW にも参加した団体は8つあり、2015 年と2016 年は一つもない。

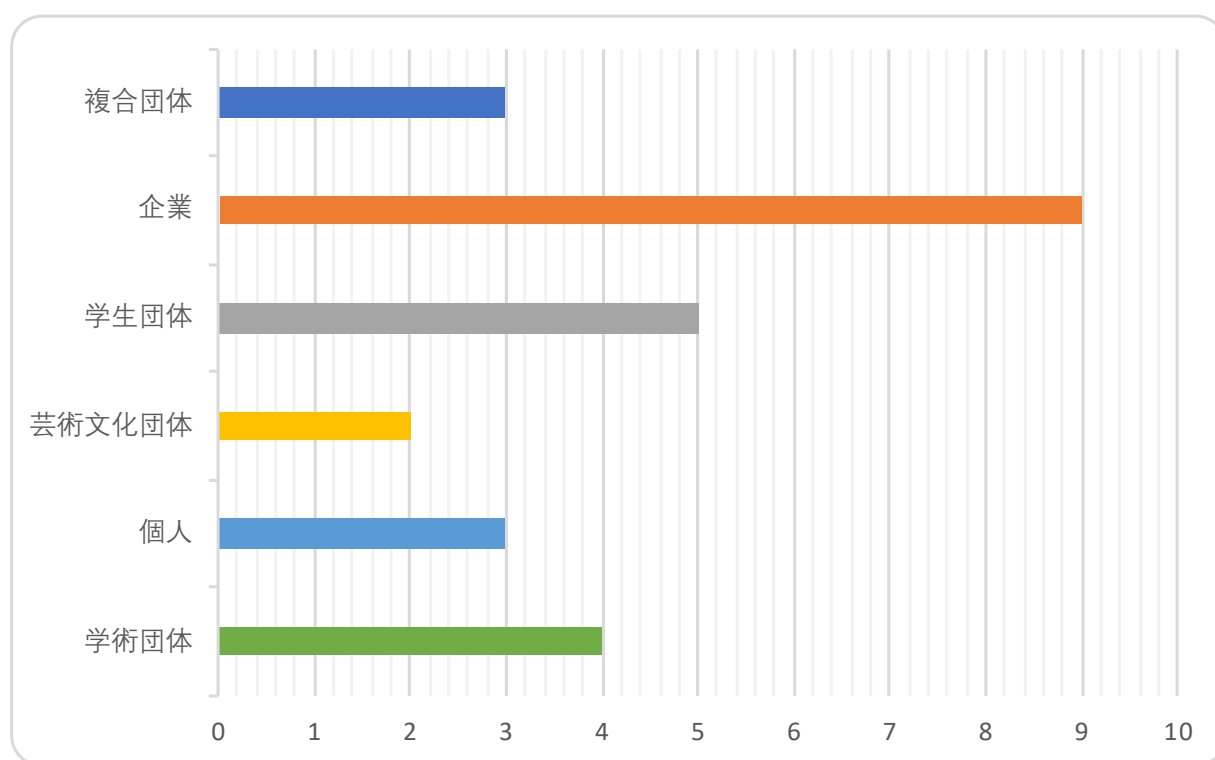


図4-1 1 協力開催団体の属性 (n=29)

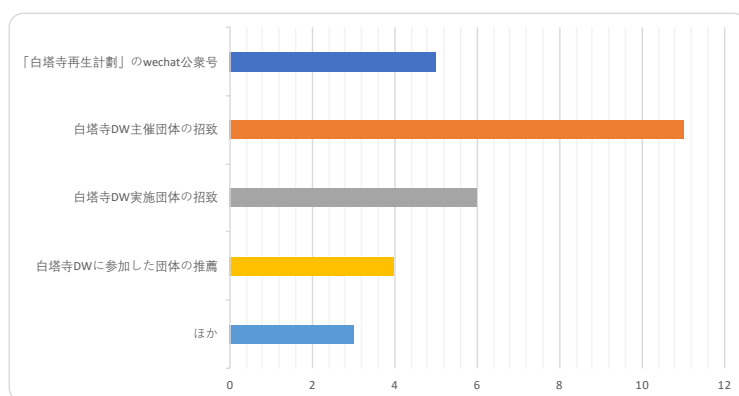


図4-12 白塔寺DWのイベント協力開催団体の募集情報の出所 (n=29)

イベントを開催する目的については、芸術作品の展示展覧とする目的の場合が一番多く（図4-13）、二番目は団体や団体の商品をアピールすることを目的としている。地区文化をアピールする場合、地区内と地区外の人々の交流のためイベントを開催する場合も多数ある。白塔寺DWの開催中、活動場所の開場期間については、6～10日で開場した場合が多く、0.5～1日だけ開場した場合が無い（図4-14）。イベント開催の補助金については、補助金がない場合が多い（図4-15）。補助金がある場合、三つの団体は実施団体から補助金をもらい、活動開催費用の40%、50%、80%が補助金である。ある六つの団体の補助金の出所は不明で、補助金が活動開催費用の20%以下の団体は二つあり、50%以上の団体は四つである。

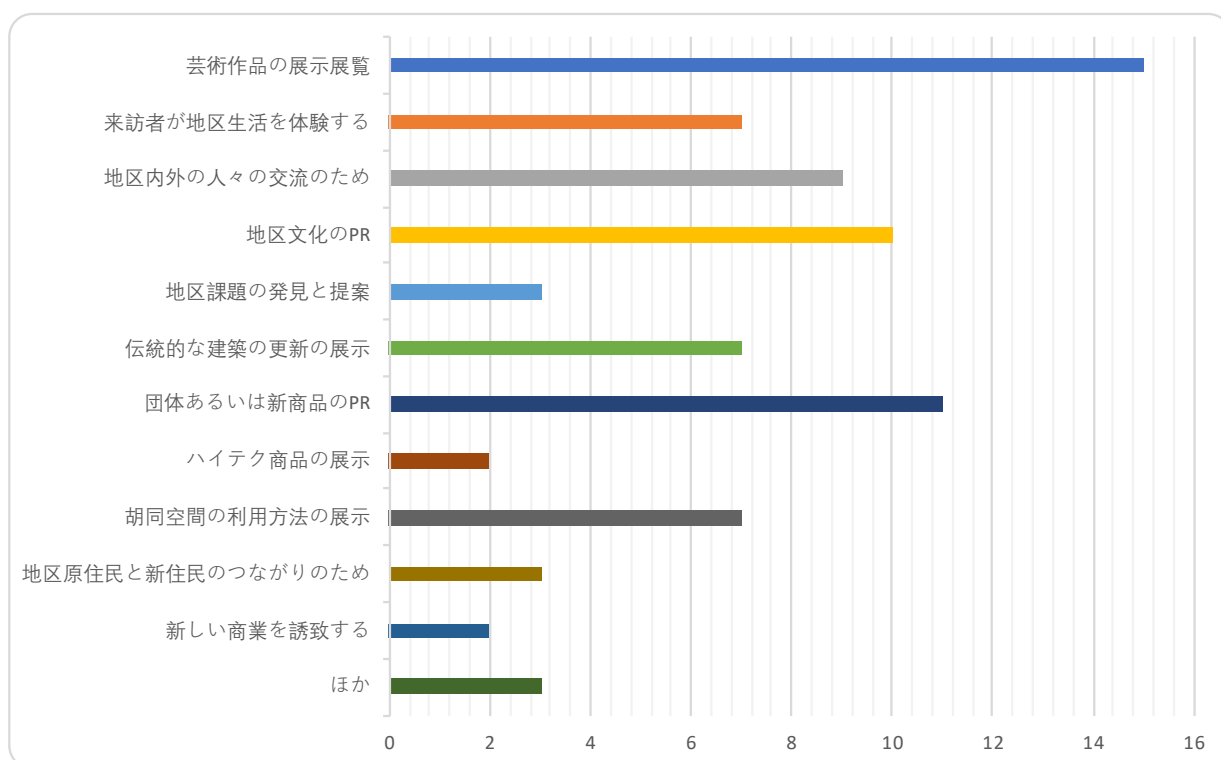


図4-13 イベントの目的 (n=79)

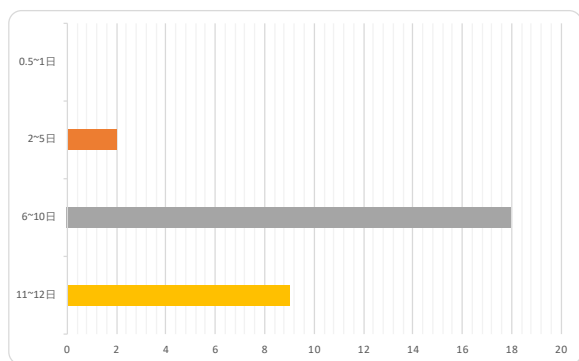


図4-14 イベント場所の開場期間 (n=29)

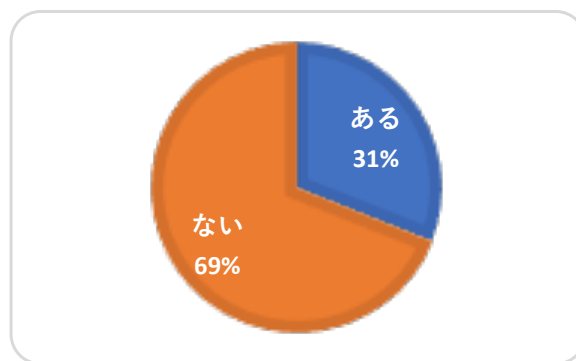


図4-15 イベント開催の補助金 (n=29)

白塔寺地区でのイベント開催時に困ることについては、「現場でのイベント開催のための準備時間が不足」と「イベント開催期間に現場スタッフが足りない」と「来訪者が活動場所を見つけにくい」という3つの問題が大きく、「来訪者がイベント内容に興味無い」と「イベントの開催期間が長すぎる」という問題がない(図4-16)。

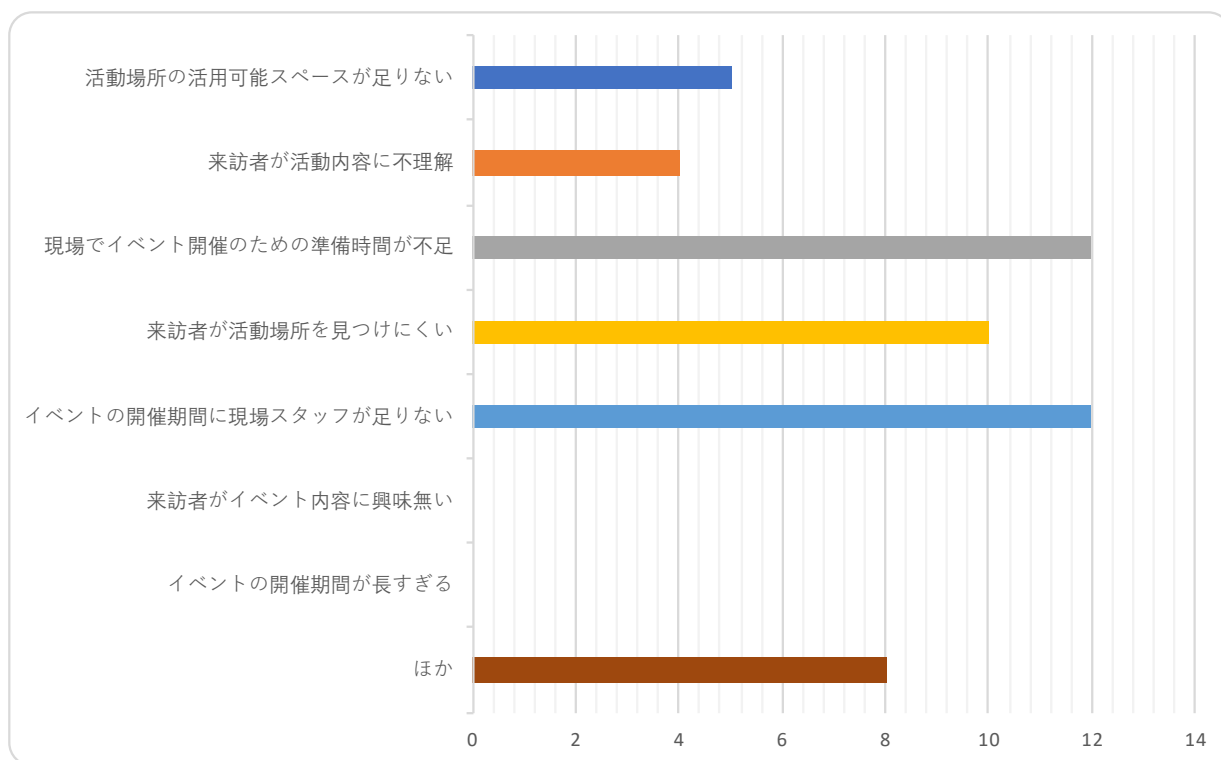


図4-16 イベント開催に困ること (n=51)

活動が地区にもたらす影響については、数多くの人々が訪れたと思う人が一番多く、良好な商業を誘致したと思う人が少ない（図4-17）。

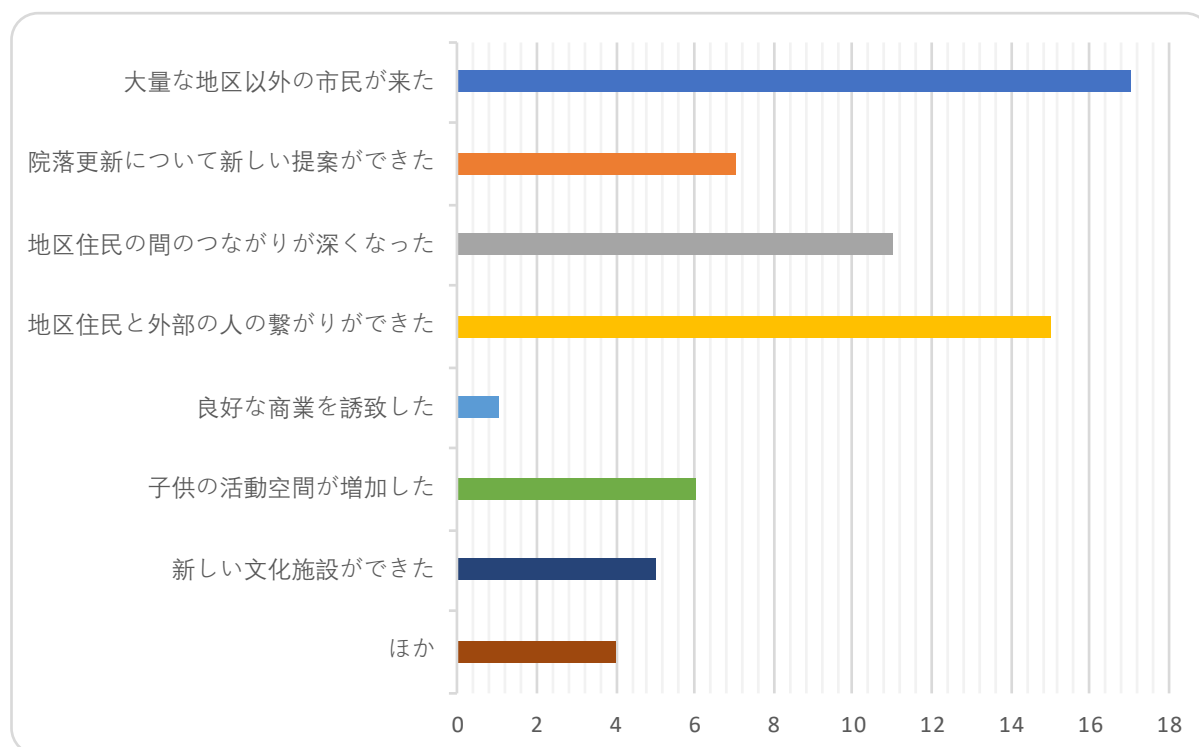


図4-17 地区への影響（n=66）

協力開催団体が地区住民との関係については、「交流」、「会話」のような言葉を10個の協力開催団体が書いた。イベントをきっかけに、地区住民は地区外の市民や協力開催団体、ボランティアなどと話をした。「知り合った」、「折り合いがよくなる」のような言葉を8個の協力開催団体が書いた。協力開催団体はイベントを実施する時に、イベント開催場所の周辺住民や地区住民と知り合って、イベントの実施に関する手伝いをしてもらい、地区の歴史や文化を教えてもらった。「興味ある」、「推奨」のような言葉を6協力開催団体が書いた。イベント開催場所にきた地区住民はイベントの内容について興味があり、自分の友達に推奨した。「意識」、「影響」のような言葉を3協力開催団体を書いた。地区住民は芸術についての認識が変わって、伝統的な建築の保護に関する意識がますます変化して、いい影響を受けた。しかし、地区住民の中で、住民の平常生活に対する悪い影響もあり、イベントが開催される時、大量の人々が来て、迷惑だと思いう地区住民もいる。

イベントが地区に与える影響については、①人が文化に触れることを促進することがあり、②地区住民の文化生活が豊富になり、地区文化が多様化していることがあり、③若者が多数来場し、地区の活力が高まることがあり、④地区住民のマナーを向上させ、住民が芸術や地区の古い物の保護

などについての意識がますます変わっていることがあり、⑤地区をアピールし、地区は開放的になり、地区住民と地区外の市民の交流機会が増えることがあり、といった5つの地区に与える影響を、29個の協力開催団体のうち27個の協力開催団体が思った。一つの協力開催団体の答えは質問に関係なかった。一つの協力開催団体は地区住民があまりイベントに参加していなかったと書いた。

協力開催団体に対してアンケート調査により、以下のことがわかった。

1. 白塔寺 DW のイベントは多様性がある。

協力開催団体の属性が異なり、イベントの内容と場所の設置は違った。芸術作品の展示展覧に限らず、歴史文化や建築更新などに関するイベントもあった。

2. 協力開催団体は白塔寺 DW をきっかけに様々な人々が接触できる。

イベント開催のため、主催団体の人々や実施団体の人々、地区住民、地区において団体の人々、の様々な人を知り合った。

3. 白塔寺 DW をきっかけに、協力開催団体が白塔寺地区の地区住民と繋がる。

イベントを開催する際に、開催場所の周辺住民と知り合った。住民が白塔寺地区の歴史や文化などを協力開催団体に教えた。

4-3-3-3 来場者に対するアンケート調査

アンケート調査により白塔寺 DW の来場者の情報と特徴の把握を試みる。対象は 2018 年白塔寺 DW の来場者である。筆者は 2018 年白塔寺 DW の各主題の案内ツアーを計画し、主催団体の「白塔寺再生計画」という WECHAT ウェチャット)の公衆号と実施契約団体の WECHAT の公衆号で来場者を募集し、2018 年 10 月 1 日～10 月 6 日に 1 日 2 回実施した。アンケート調査の実施方法はツアーの参加者と 2018 年白塔寺 DW 時の案内場にきた来場者にアンケート調査の内容を伝え、話を伺いながら、アンケートを完成してもらうというものである。回収数は 142 部である。アンケートの質問内容は主に来場者の年齢と役割、地区活動や白塔寺 DW の参加状況、地区活動による地区の変化、白塔寺 DW に対する印象についてである。

来場者の構成については、地区住民、協力開催団体メンバー、来訪者（地区以外の市民）、ボランティアであり、地区住民が 25.4%、協力開催団体メンバーが 14%、来訪者が 44%、ボランティアが 16%に至る（図 4-1 8）。また、来場者の年齢層については 20 歳以下と 21-25 歳の若い人が多く、46-50 歳と 51 歳以上の年齢層の人が少数である（図 4-1 9）。

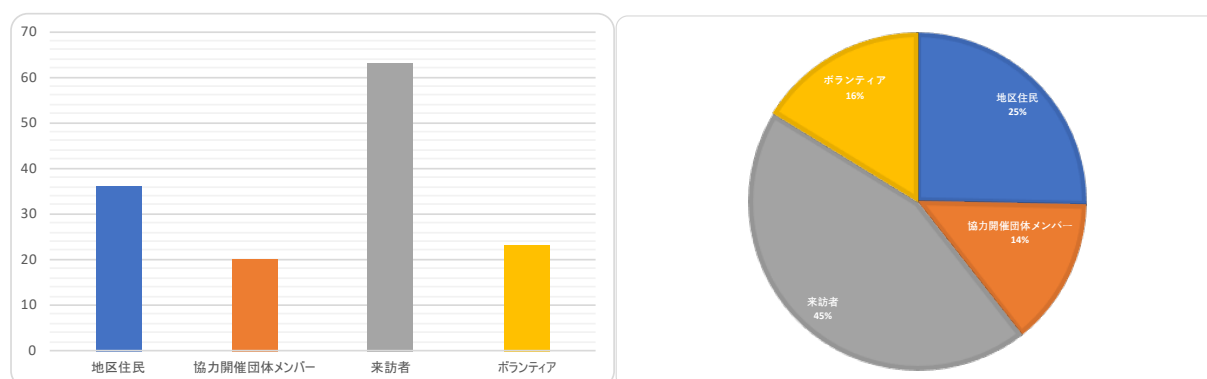


図 4-1 8 来場者の構成と割合 (n=142)

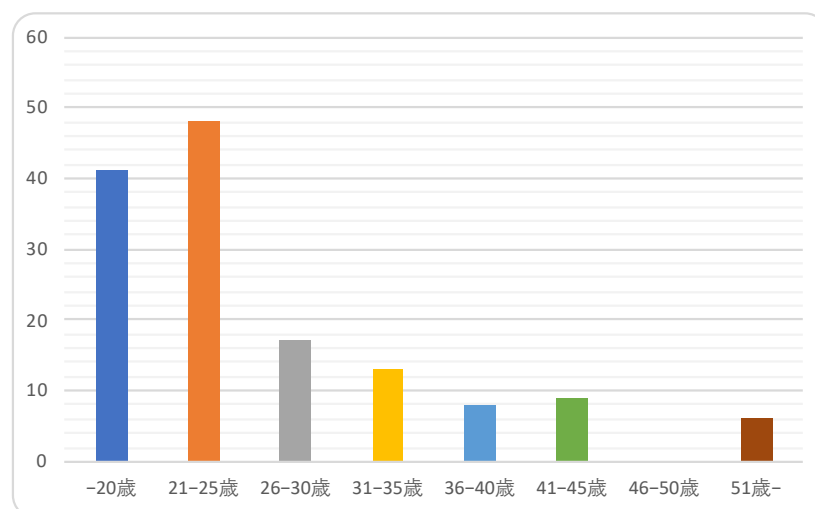


図 4-1 9 来場者の年齢層 (n=142)

白塔寺 DW の参加頻度については、2018 年白塔寺 DW だけに参加した人が多く、2015 年～2018 年白塔寺 DW に全て参加した人も 6 人がある（図 4-2 0）。白塔寺 DW 以外の他の白塔寺地区の地区活動への参加状況については、ある人が 47.9%、ない人が 52.1%となった（図 4-2 1）。また、参加したほかの地区活動の種類については、展示展覧系の地区活動に参加した人が多く、講座やフォーラムのゼミナール活動に参加した人は 19.5%、娯楽活動や勉強会などの住民活動に参加した人は 16.1%である（図 4-2 2）。

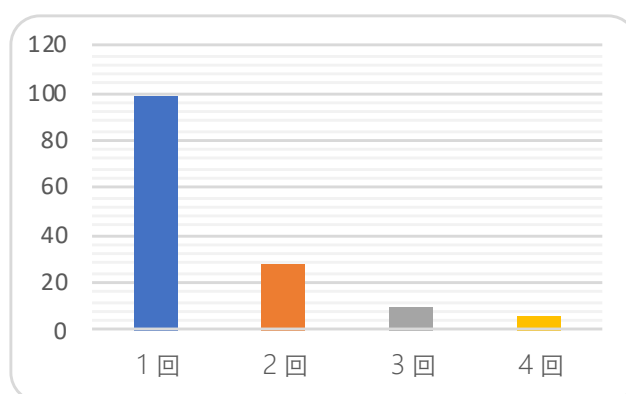


図 4-2 0 白塔寺 DW の参加頻度 (n=142)

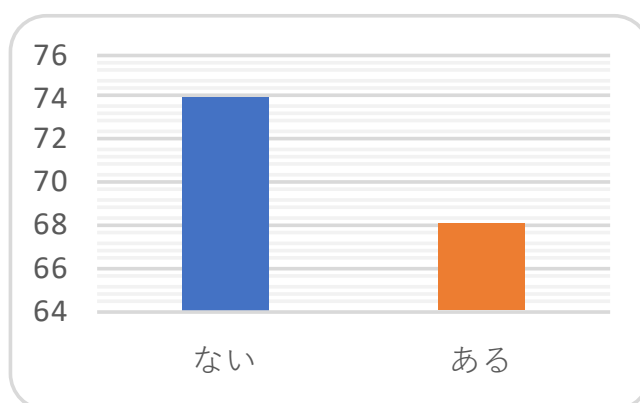


図 4-2 1 ほかの地区活動の参加状況 (n=142)

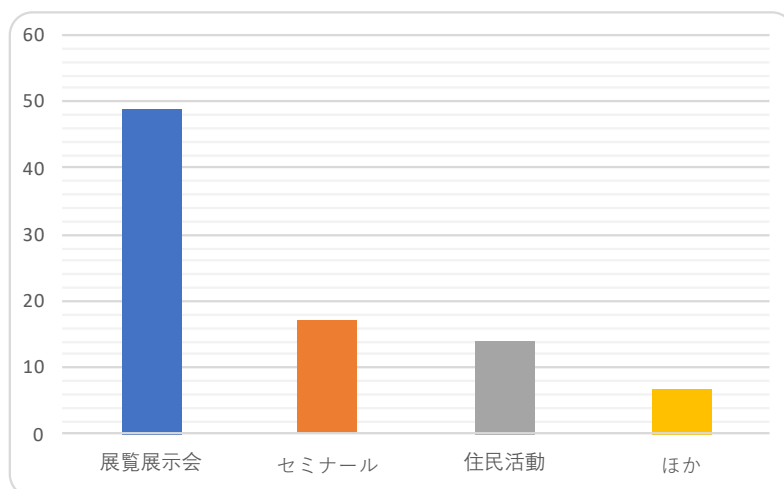


図 4-2 2 参加したほかの地区活動の種類 (n=68)

地区イベントによる地区の変化については、来訪者が増加したと思う人が一番多く、100 人以上を超えた。②胡同の環境が改善されたと思う人、③新しい文化が生まれたと思う人、④歴史文化遺産の保護が促進されたと思う人、その三つの思いがある人は 80 人を超えた（図 4-2 3）。

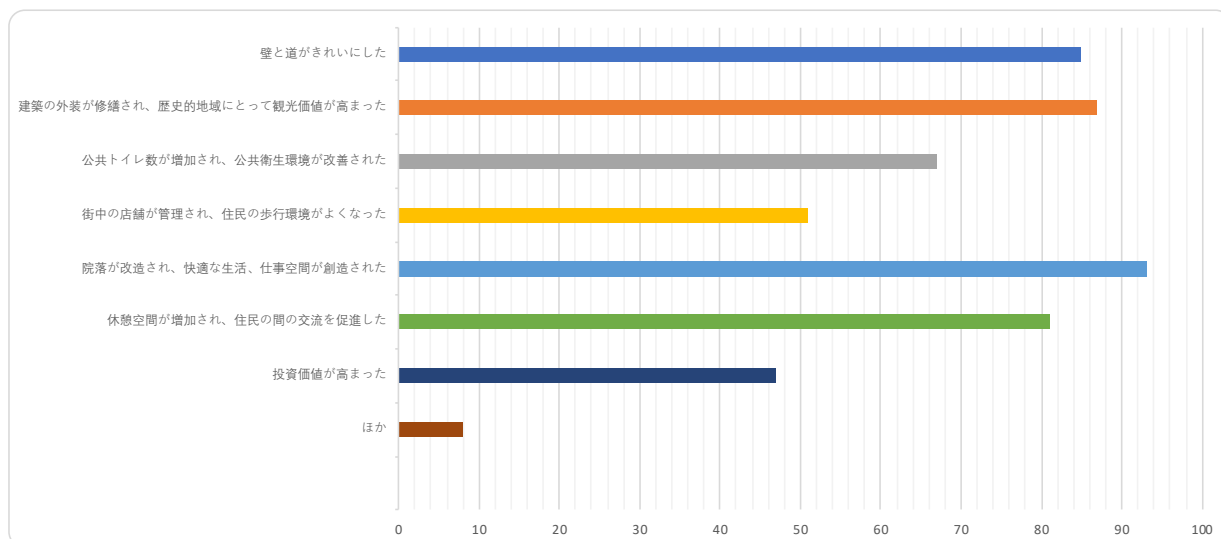


図 4-2 3 地区イベントによる地区の変化 (n=556)

白塔寺 DW に対する印象については、白塔寺 DW に関して嫌う気持ち（悪い印象）を持っている来場者が少数である（図 4-2 4）。

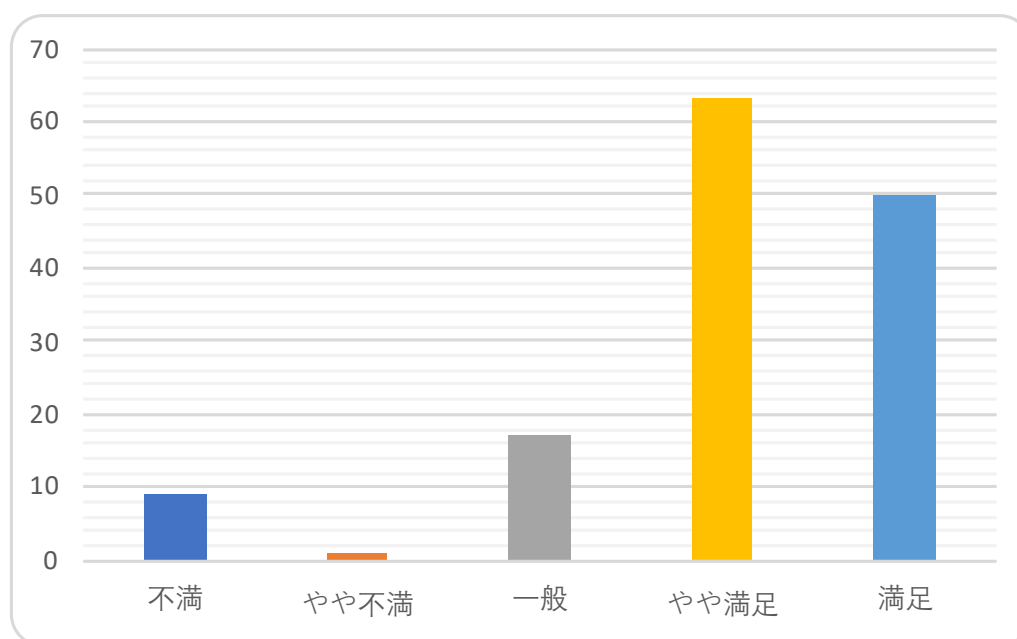


図 4-2 4 白塔寺 DW に対する印象 (n=140)

来場者からイベントに対する意見などのまとめ：

- 白塔寺 DW は芸術系の活動と思うため、一部分の活動の芸術についての質を向上する必要がある。
- 現代的な展示作品が欲しい。白塔寺地区は北京市の中心部にあるため、伝統的な文化の作品を展示する場合、作品のレベルはもっと高く、白塔寺地区の文化にも合わせたほうがよい。さらに白塔寺地区の住民のマナーが向上すれば最高。
- 現在の白塔寺地区の賑わい、生活感があるといった状況が大好き。必ず現存の社区の街並みを保護してください。（肉売り店、果物屋、靴作り店、金物屋、料理小店）盲目的に「更新」しないでください。
- 白塔寺地区の公共建築空間の知識を市民に普及して欲しい。白塔寺 DW の時、地区内の遊覧経路をもっと明確にしたほうがよい。また、白塔寺 DW の PR について、もう少し改善することを希望する。
- 白塔寺地区の中には、魯迅博物館があり、歴史的な寺院—白塔寺がある。そのメリットを利用して、活動の PR について力を入れると、白塔寺地区は異色の観光地になれる。

来場者に対してアンケート調査により、以下のことがわかった。

1. 白塔寺 DW は地区住民の生活を豊富し、白塔寺地区の地区住民の中で、白塔寺 DW に興味ある方がいる。

来場者の中で、地区住民は 25.4%を占める。

2. 白塔寺 DW が開催される際に、多数の若い者が白塔寺地区に来る。

来場者の年齢層については、20歳以下と21-25歳の人が多かった。

4-3-4 白塔寺 DW に関わる空間

2015 年から 2018 年まで白塔寺 DW のイベント開催場所を、表 4-9 に示す。2015 年白塔寺 DW により利用された公開空地・道路空間は 2 箇所であり、2016 年白塔寺 DW により利用された公開空地・道路空間は 4 箇所であり、2017 年白塔寺 DW により利用された公開空地・道路空間は 2 箇所であり、2018 年白塔寺 DW により公開空地・道路空間が利用されてなかった。

表 4-9 イベント開催場所

	2015年白塔寺DW	2016年白塔寺DW	2017年白塔寺DW	2018年白塔寺DW
イベント開催場所	22箇所	28箇所	35箇所	39箇所
建築・院落	20箇所	24箇所	33箇所	39箇所
道路空間・公開空地	2箇所	4箇所	2箇所	なし

表 4-10 に 2015 年から 2018 年白塔寺 DW が開催された 4 年間において利用された建築・院落を示す。「白塔寺 DW により利用された建築や院落一覧」表の中で、「◎」を書いている場所は更新された建築・院落であり、「△」を書いている場所は日常的な運営団体がいる建築・院落である。2015 年白塔寺 DW により利用された建築・院落の中で、2 箇所は更新された建築・院落が利用された。2016 年は 3 箇所であり、2017 年は 12 箇所であり、2018 年は 17 箇所である。2015 年白塔寺 DW により利用された建築・院落の中で、2 箇所は日常的な運営団体がいる。2016 年は 6 箇所であり、2017 年は 11 箇所であり、2018 年は 9 箇所である。白塔寺 DW により利用された建築・院落は合計 67 箇所あり、その中で、更新された建築・院落が利用されたのは 25 箇所あり、日常的な運営団体がいるのは 20 箇所に至る。

白塔寺 DW による利用回数ごとの場所数の割合を表 4-11 に示す。1 回のみ利用された場所は 38 箇所あり、合計 67 箇所の 56.75% に至り；2 回利用された場所は 13 箇所あり、合計 67 箇所の 19.40% に至り；3 回で利用された場所は 9 箇所あり、合計 67 箇所の 13.43% に至り；4 回で利用された場所は 7 箇所あり、合計 67 箇所の 10.45% に至る。

表 4-11 白塔寺 DW による利用回数ごとの場所数の割合

白塔寺DWによる利用回数	場所数	割合
4	7	10.45%
3	9	13.43%
2	13	19.40%
1	38	56.72%
合計	67	

第4章 地区全体イベントとデザインコンペ

表4-10 白塔寺DWによる利用された建築・院落一覧

白塔寺DWにより利用された建築・院落一覧（◎：更新された建築・院落、△：日常的な運営団体がいる）					
番号	2015年白塔寺DW	2016年白塔寺DW	2017年白塔寺DW	2018年白塔寺DW	白塔寺DWによる利用回数
1	魯迅博物館 △	魯迅博物館 △	魯迅博物館 △		3
2	阜成門内大街				1
3	阜成門内大街	阜成門内大街			2
4	阜成門内大街				1
5	宏大胡同	宏大胡同	宏大胡同	宏大胡同	4
6	青塔胡同 ◎	青塔胡同 ◎	青塔胡同 ◎	青塔胡同 ◎	4
7	宮門口头条	宮門口头条	宮門口头条	宮門口头条 ◎	4
8	宮門口四条	宮門口四条			2
9	宮門口四条 ◎△				1
10	宮門口四条	宮門口四条	宮門口四条 ◎△	宮門口四条 ◎△	4
11	宮門口東岔	宮門口東岔	宮門口東岔 ◎△	宮門口東岔 ◎△	4
12	宮門口西岔	宮門口西岔	宮門口西岔	宮門口西岔 ◎	4
13	宮門口西岔			宮門口西岔 ◎△	2
14	宮門口菜市场	宮門口菜市场	宮門口菜市场 ◎	宮門口菜市场 ◎	4
15	宮門口菜市场露台				1
16	東夾道	東夾道 ◎△			2
17	東夾道				1
18	東夾道		東夾道	東夾道	3
19	前抄手胡同		前抄手胡同	前抄手胡同	3
20	前抄手胡同		前抄手胡同	前抄手胡同	3
21		阜成門内大街			1
22		阜成門内大街 ◎△			1
23		阜成門内北街			1
24		宮門口头条 △			1
25		宮門口二条 △	宮門口二条 △		2
26		宮門口三条		宮門口三条	2
27		宮門口四条	宮門口四条 ◎	宮門口四条 ◎	3
28		宮門口東岔	宮門口東岔	宮門口東西岔 ◎	3
29		宮門口東岔	宮門口東岔	宮門口東岔	3
30		宮門口西岔	宮門口西岔	宮門口西岔	3
31		宮門口西岔	宮門口西岔		2
32		東夾道 ◎△			1
33		趙登禹路	趙登禹路	趙登禹路	3
34			阜成門内大街 ◎△		1
35			宏大胡同		1
36			宮門口四条 ◎		1
37			宮門口四条 ◎△		1
38			宮門口東岔	宮門口東西岔 ◎	2
39			宮門口東岔 ◎△	宮門口東岔 ◎△	2
40			宮門口西岔		1
41			宮門口西岔	宮門口東西岔 ◎	2
42			東夾道	東夾道	2
43			東夾道	東夾道	2
44			福綏靖 ◎△	福綏靖 ◎△	2
45			福綏靖		1
46			小茶葉胡同 ◎△		1
47			小弓匠胡同 ◎△		1
48			安平巷		1
49				阜成門内大街 ◎△	1
50				阜成門内北街	1
51				青塔胡同 ◎△	1
52				宮門口头条	1
53				宮門口头条	1
54				宮門口三条	1
55				宮門口三条	1
56				宮門口四条 ◎△	1
57				宮門口東西岔 ◎	1
58				宮門口東岔	1
59				東夾道	1
60				東夾道	1
61				東夾道	1
62				前抄手胡同	1
63				趙登禹路	1
64				小茶葉胡同	1
65				橫胡同	1
66				西夾道	1
67				東廊下胡同	1

白塔寺 DW により利用された建築・院落の情報により以下のことがわかった。

1. 白塔寺 DW のイベント開催場所は分散化している。

2015 年から 2018 年白塔寺 DW のマップを見ると、イベント開催場所は白塔寺地区の全体範囲で分散していることがわかった。

2. 多様な運営主体が白塔寺 DW に参加するため、運営場所ごとにイベントを計画し、開催する。
白塔寺 DW の展開により、白塔寺地区内の運営主体の参加程度が深くなる。

株式会社 H は白塔寺地区の再開発事業主体として主導的に白塔寺 DW を開催しているため、その 4 年間で白塔寺 DW により利用された場所は主に株式会社 H が場所の使用権を持っている。しかし、4 年間で白塔寺 DW により利用された場所の日常的な運営主体（以降運営主体）を着目すると、多様な運営主体が白塔寺 DW に参加していることが分かった。

- 2015 年白塔寺 DW により利用された場所の中で、2 箇所の運営主体は株式会社 H ではなかった。1 箇所の運営主体は博物館 L であり；1 箇所は民間企業である。
- 2016 年白塔寺 DW により利用された場所の中で、2015 年と比べて、白塔寺 DW に参加する運営主体が 6 箇所増え、1 箇所減った。6 箇所のうち、5 箇所は民間企業であり、1 箇所は社会組織が日常的な運営を行っており、2016 年白塔寺 DW 時にそこでイベントを開催した。
- 2017 年白塔寺 DW により利用された場所の中で、2016 年と比べ、運営主体が 8 箇所増え、4 箇所減った。8 箇所のうち、5 箇所は民間企業であり、1 箇所は株式会社 H であり、1 箇所は非営利団体としての芸術団体であり、1 箇所は大学である。
- 2018 年白塔寺 DW では、2017 年と比べて運営主体が 4 箇所増え、6 箇所減った。4 箇所のうち、3 箇所は民間企業であり、1 箇所は地区住民である。

3. 日常的な運営団体が株式会社 H ではない場合、白塔寺 DW に参加する持続性がない。

「持続性がある」ということは 2 回以上白塔寺 DW に参加することである。2 回以上白塔寺 DW で利用された場所は 29 箇所ある。29 箇所の内訳は、20 箇所は株式会社 H が場所の使用権を持っており、白塔寺 DW による場所を利用した；1 箇所は魯迅博物館であり、株式会社 H は魯迅博物館の管理団体に依頼し、場所を借りて、イベントを開催した；2 箇所の運営団体は民間企業であり；1 箇所の運営主体は大学であり；5 箇所は 4 年間白塔寺 DW の途中における株式会社 H からほかの団体が変わった。

民間企業が運営団体として白塔寺 DW で利用した場所は 25 番「宮門口二条」と 39 番「宮門口東岔」の 2 箇所である。宮門口二条は 2016 年と 2017 年白塔寺 DW により利用された。しかし、宮門口二条は 2016 年 8 月から建築・院落の更新が始まり、2018 年 1 月に竣工された。つまり、宮門口二条の運営団体は建築・院落の更新が終わってゲストハウスとして商業を行ってから、白塔寺 DW に参加しなくなった。宮門口東岔は民間企業が運営団体として管理している社区文化活動空間であり、2017 年と 2018 年白塔寺 DW により利用され、今後も利用される可能性がある。

44 番「福綏靖」は大学が運営団体として 2017 年と 2018 年白塔寺 DW に参加した。福綏靖は白塔寺地区の大学の実験拠点であり、四合院の更新モデルケースとして市民に宿泊体験を提供しており、今後も白塔寺 DW に参加する可能性が高い。

4 年間の白塔寺 DW の途中における株式会社 H からほかの団体に変わった場所は 6 番「青塔胡同」、10 番「宮門口四条」、11 番「宮門口東岔」、13 番「宮門口西岔」、16 番「東夾道」の 5 箇所である。青塔胡同は運営団体が社会組織に変わり、宮門口四条は民間企業に変わり、宮門口東岔は芸術団体に変わり、この 3 箇所は 2015 年白塔寺 DW から 2018 年白塔寺 DW までの 4 回利用され、途中で運営団体が変わった後も利用された。宮門口西岔は 2015 年に株式会社 H が使用権を持ち白塔寺 DW において利用した。2018 年には民間企業が運営団体としても白塔寺 DW において利用した。東夾道は 2015 年と 2016 年白塔寺 DW において利用された。2015 年は株式会社 H が使用権を持ち白塔寺 DW において利用し、2016 年は民間企業が運営団体として白塔寺 DW 利用した。その後、東夾道の運営団体は白塔寺 DW に参加してなくなった。

1 回だけ白塔寺 DW により利用された場所は 38 箇所あるが、2018 年白塔寺 DW で初めて利用された場所は 19 箇所ある。2018 年白塔寺 DW だけで利用された場所は今後も利用する可能性があると思うため、2018 年の 19 箇所を除き、1 回だけ利用された場所は 19 箇所である。その 19 箇所の内訳は、7 箇所は運営団体が民間企業であり；6 箇所は管理団体が株式会社 H であり、日常は使われてない；2 箇所は運営団体が株式会社 H で、株式会社 H の事務所用と白塔寺地区実施事業の展示用であり；2 箇所は株式会社 H が場所を民間企業にレンタルしたため、1 回のみ白塔寺 DW により利用した；2 箇所は運営団体や管理団体が不明である。

4. 白塔寺 DW のイベント開催場所は多様化している。

2018 年白塔寺 DW のイベント開催場所に着目する。表 4-1 1 に 2018 年白塔寺 DW のイベント開催場所において表現内容を示す。イベント開催場所は①更新された建築・院落、②まだ更新されてない建築・院落、の二つの設置環境がある。

更新された建築・院落がイベント開催場所とする事例：



写真 7 番「宮門口头条」



写真 56 番「宮門口四条」

(撮影時間：2018 年 10 月 2 日)

まだ更新されてない建築・院落がイベント開催場所とする事例：



写真 61 番「東夾道」



写真 54 番「宮門口三条」

(撮影時間：2018 年 10 月 2 日)

表4-12 2018年白塔寺DWの表現内容

番号	場所	内容	
		協力開催団体1	協力開催団体2
5	宏大胡同	×	
6	青塔胡同 ◎△	地区住民の作品展示	
7	宮門口頭条 ◎	プロジェクト展示、空間設置、講座	
10	宮門口四条 ◎△	子供の作品展示	
11	宮門口東岔 ◎△	日常的な音の展示	
12	宮門口西岔 ◎	プロジェクト展示、体験	
13	宮門口西岔 ◎△	店のPR	
14	宮門口菜市场 ◎	作品展示、講座	
18	東夾道	作品展示	
19	前抄手胡同	×	
20	前抄手胡同	商品展示、体験	作品展示
26	宮門口三条	物販、空間設置、イベント	
27	宮門口四条 ◎	写真と家具、絵の展示、イベント	
28	宮門口東西岔 ◎	演芸と映画の展示、空間設置	
29	宮門口東岔	プロジェクト展示	
30	宮門口西岔	商品展示、空間設置	
33	趙登禹路	×	
39	宮門口東岔 ◎△	地区住民活動空間の展示	
42	東夾道	プロジェクト展示、民間食物	写真
43	東夾道	プロジェクト展示、空間設置	
44	福綏靖 ◎△	建築・院落展示	
49	阜成門内大街 ◎△	店のPR、講座	
50	阜成門内北街	プロジェクト展示	絵
51	青塔胡同 ◎△	建築・院落展示	
52	宮門口頭条	商品のPR	彫像
53	宮門口頭条	空間設置、漫画体験	
54	宮門口三条	玩具展示	
55	宮門口三条	プロジェクト展示、体験	
56	宮門口四条 ◎△	建築・院落展示	
58	宮門口東岔	プロジェクト展示、空間設置	
59	東夾道	プロジェクト展示、空間設置	
60	東夾道	イベント	
61	東夾道	プロジェクト展示、空間設置	
62	前抄手胡同	画像の展示、空間設置	
63	趙登禹路	プロジェクト展示	
64	小茶葉胡同	×	
65	横胡同	旧物と絵の展示、体験	
66	西夾道	×	
67	東廊下胡同	写真と本、昔の商品の展示	
凡例：			
◎：更新された建築・院落			
△：日常的な運営団体がいる			

4-4 デザインコンペ

2016 年と 2017 年に株式会社 H は主催団体として、雑誌出版社 WA は実施団体として、白塔寺地区における四合院と胡同空間の設計を専門家や一般市民から広く求める公募コンペを実施した。2016 年白塔寺 DW と 2017 年白塔寺 DW が開催される時に、コンペについての公開審査会が開催された。

4-4-1 2016 白塔寺院落更新国際方案徴集「北京小院児的重生」コンペ

2016 白塔寺院落更新国際方案徴集「北京小院児的重生」コンペの概要を、表 4-1 3 に示す。2016 白塔寺院落更新国際方案徴集「北京小院児的重生」コンペ（以降院落コンペ）とは、白塔寺地区における 12 個の四合院の建築・院落設計について、専門家に限らず、一般市民から広く求める公募コンペである。株式会社 H が院落コンペを開催する目的は、①空間形態の目標を通じて、北京旧城の形、あるいは白塔寺地区における主な街区の形を保護し、白塔寺地区の院落風貌を創造する；②複合機能の目標を通じて、院落が居住要求に満足したうえで他の機能を付加し、文化創意方面についての発展のために多数の可能を提供する；③良い隣里環境と社会公平の目標を通じて、隣里生活環境を改善し、居民の安全や自適性や得意さを向上し、社区の自主と発展の機会を高める；④経済活力の目標を通じて、旧城における産業結構を調整し、経済活性を刺激し、社区活力を高める、の 4 つである。院落コンペにおける 12 四合院の分布と情報を、図 4-2 5 に示す。

表 4-1 3 2016 白塔寺院落更新国際方案徴集「北京小院児的重生」コンペ概要

主催団体	株式会社 H
実施団体	雑誌出版社 WA
登録開始	2016 年 5 月 29 日
設計図書受付締め切り	2016 年 7 月 31 日
最終公開審査会日	2016 年 9 月 30 日
登録数	845 件
提出作品数	270 件

2016白塔寺院落更新国際方案徴集 「北京小院児の重生」



0m 50m 100m

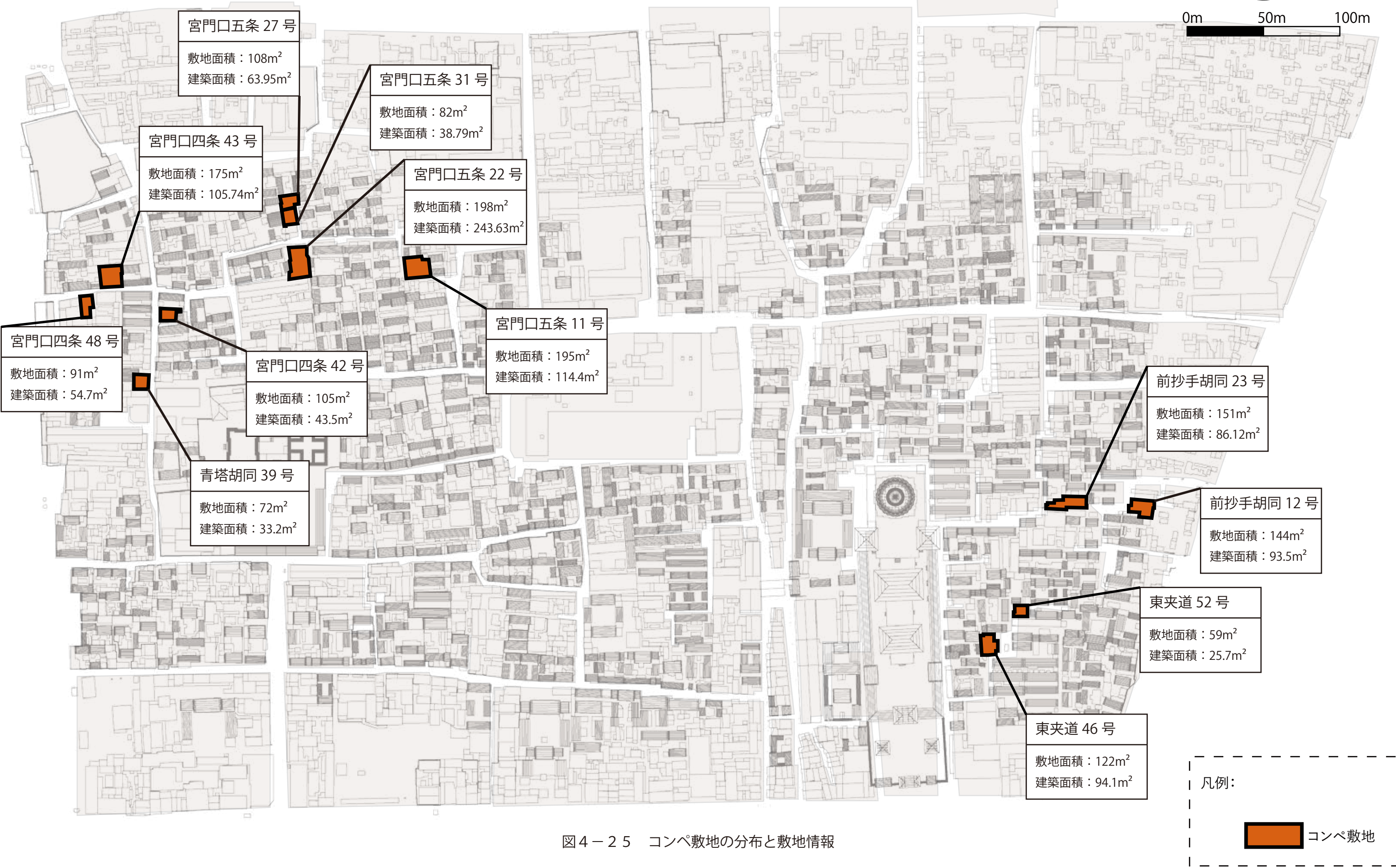


図 4 - 2 5 コンペ敷地の分布と敷地情報

4-4-2 2017 白塔寺国際方案徴集「設計市集」コンペ

2017 白塔寺国際方案徴集「設計市集」コンペの概要を、表 4-1 4 に示す。2017 白塔寺国際方案徴集「設計市集」コンペ（以降 2017 コンペ）とは、白塔寺地区における 8 個の胡同の空間設計について専門家に限らず、一般市民から広く求める公募コンペである。2017 年に「西城区背街小巷環境整治提升三年專項行動計劃」が提出され、西城区の区域内の細街路、胡同の空間を全面的に整理し、改善することを決めた。同時に環境改善についての「十有十無」標準が制定された。2017 コンペはそのような背景で計画され、実施された。2017 年 9 月 1 日に入賞した 24 件の作品が公開された。入賞した団体が模型を作り、2017 年 9 月 22 日から 10 月 7 日まで 2017 年白塔寺 DW で、白塔寺地区において指定される場所で市民に公開した。2017 年 9 月 28 日に 7 人の専門家の審査団体が公開審査会を行い、同時に地区住民から 1200 部投票を集め、最後に三つの団体が優勝した。2017 コンペにおける 8 個の胡同の分布と情報を、図 4-2 6 に示す。

表 4-1 4 2017 白塔寺国際方案徴集「設計市集」コンペ概要

主催団体	株式会社 H、街道弁事処
実施団体	雑誌出版社 WA
登録開始	2016 年 6 月 30 日
設計図書受付締め切り	2016 年 8 月 18 日
最終公開展示日	2016 年 9 月 23 日～10 月 8 日
登録数	350 件
提出作品数	53 件（有効）

2017白塔寺国際方案徴集「設計市集」コンペ

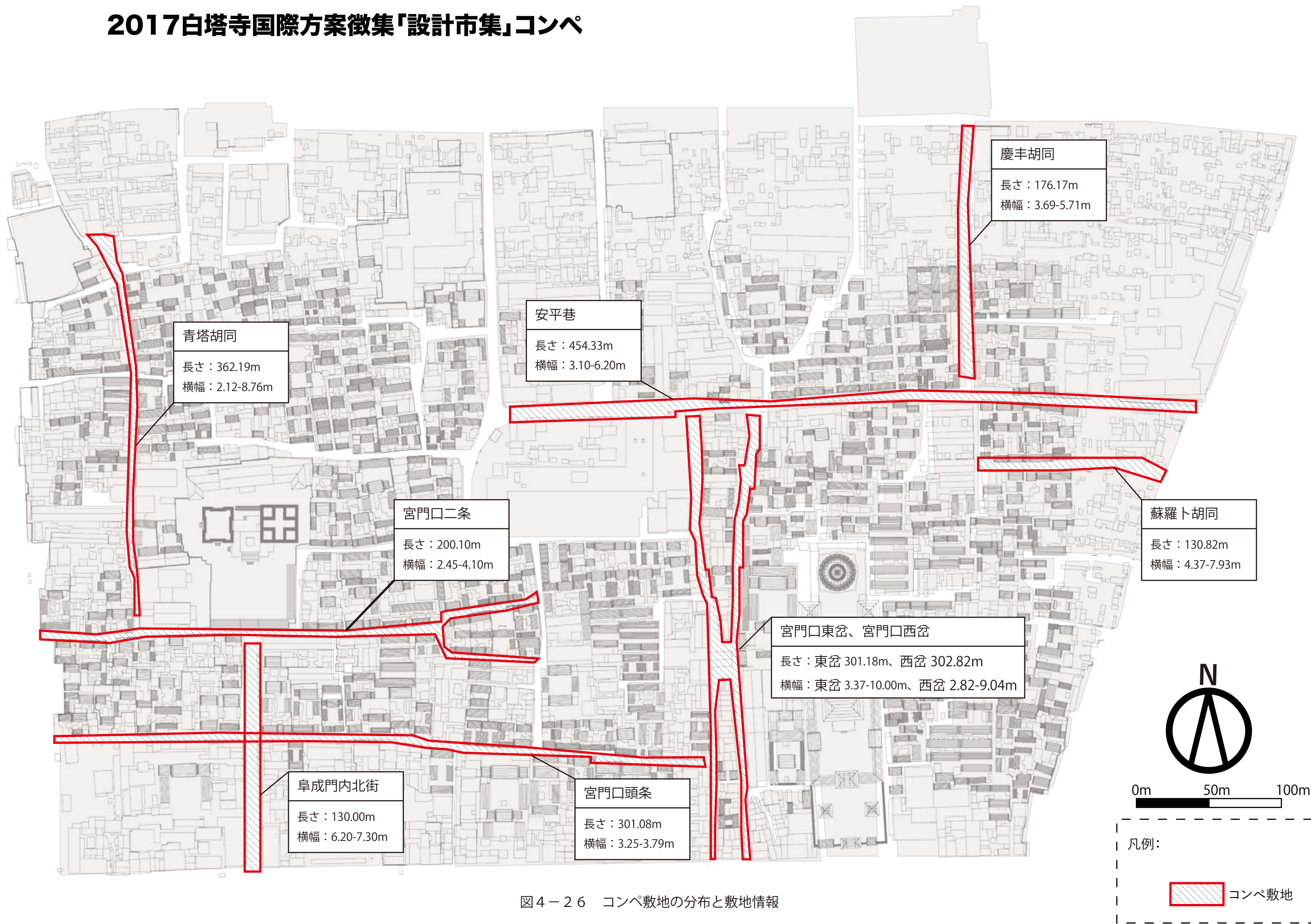


図4-26 コンペ敷地の分布と敷地情報

4-4-3 デザインコンペに関わる人的関係

図4-27に、2016年と2017年デザインコンペの実施経緯を示す。2016年の院落コンペに関わる人々を①主催団体、②実施団体、③コンペ参加者、④コンペ審査団体、⑤白塔寺DW来場者、の5つ集団を分類する。①主催団体は株式会社H、コンペ敷地の情報を提供し、コンペ参加者に対するまち歩きを行い、内部審査会と公開審査会に参加し、優勝作品の設計者と建築・院落の更新を実施した。②実施団体は雑誌出版社WA、コンペの情報の公開と審査団体の依頼、および作品の回収を行い、内部審査と公開審査に参加した。③コンペ参加者は一般市民、コンペ敷地の情報を把握するためにまち歩きに参加、作品を提出し、公開審査会に参加する。優勝したコンペ参加者は主催団体と一緒に建築・院落の更新を実施した。④コンペ審査団体は実施団体が依頼する複数の専門家、内部審査会と公開審査会に参加する。⑤白塔寺DW来場者は一般市民、公開審査会に参加する。

2017コンペに関わる人々を①主催団体、②実施団体、③コンペ参加者、④コンペ審査団体、⑤白塔寺DW来場者、⑥地区住民、の6つ集団を分類する。2017コンペは2016年院落コンペと比べ、①主催団体は株式会社Hと街道（行政）が連携していた。また、⑥地区住民はデザインコンペの公開審査会に参加した。2017年白塔寺DWで入賞した24個の団体や個人はデザイン模型を白塔寺地区の公開空地や道路空間において地区住民や白塔寺DWの来場者に公開した。地区住民は24個の団体や個人の模型を見ながら、設計者が説明し、最後に地区住民は気になった設計案に投票した。

2016年院落コンペに関わる人々と2017年コンペに関わる人々と比べ、街道（行政）、地区住民が2017年コンペに参加した。

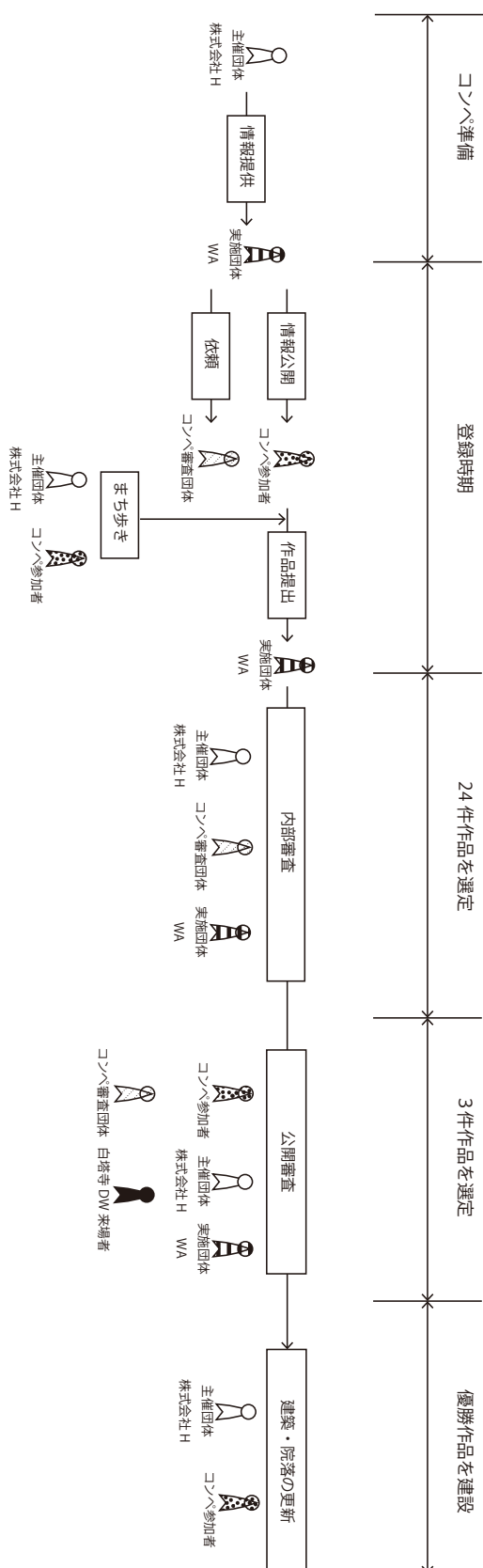
4-4-4 デザインコンペに関わる空間

2016年の院落コンペの敷地は白塔寺地区における12個の四合院である。2016年院落コンペの実施経緯（図4-27）により、デザインコンペが建築・院落の更新を起こった。第2章で書いた建築・院落更新事例の事例28「青塔胡同」、事例29「前抄手胡同」、事例32「宮門口西岔」は2016年の院落コンペにおいて優秀な設計案に基づき、株式会社Hは建築・院落の更新を行う。事例28「青塔胡同」と事例29「前抄手胡同」は優勝した設計案に基づき、株式会社Hは建築・院落を更新している。事例32「宮門口西岔」はコンペの敷地ではなかったのに、株式会社Hは2016年のコンペに入賞した設計案に基づき、事例32「宮門口西岔」を更新した。2018年白塔寺DWの一つの活動場所により協力開催団体が活用した。

2017年コンペの敷地は8個の胡同である。2017年デザインコンペの実施経緯（図4-27）により、デザインコンペは胡同空間の更新を起こってない。

2016年と2017年のデザインコンペの敷地分布と情報図（図4-25、図4-26）により、敷地が分散化、多様化している。

◎ 2016 日塔寺院落更新國際方案徵集「北京小院的重生」コンペ



◎ 2017 白塔寺國際方案徵集「設計市集」コンペ

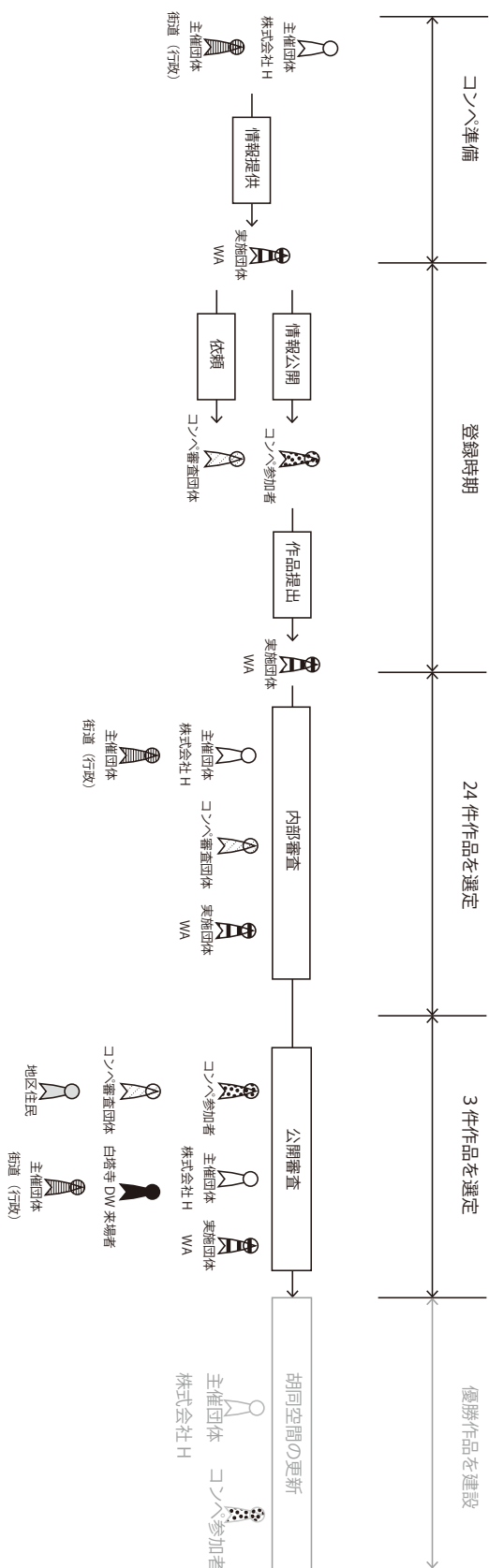


図4-27 デザインコンペ実施経緯

4-5 人的関係と空間への影響

白塔寺 DW とデザインコンペの調査結果により、白塔寺 DW とデザインコンペが人的関係と空間に与える影響を考察する。

影響1：白塔寺 DW とデザインコンペにより、地区内外の人々が接触でき、多様な人々と繋がる。

白塔寺 DW に関わる人は①主催団体、②実施団体、③協力開催団体、④来場者、の4つの集団がある。実施団体に対するヒアリング調査により、白塔寺 DW をきっかけに、実施団体は白塔寺地区で多数の人々と繋がることがわかった。協力開催団体に対するアンケート調査により、協力開催団体の構成は企業や学生団体、芸術文化団体など多様な団体があり、協力開催団体は白塔寺 DW をきっかけに様々な人々が接触でき、白塔寺地区の地区住民と繋がることがわかった。来場者に対するアンケート調査により来場者の構成は地区住民や来訪者など複数の集団があることがわかった。以上のことから、白塔寺 DW により地区内外の人々が接触でき、多様な人々と繋がると言える。

デザインコンペの実態調査の結果から、デザインコンペに関わる人は①主催団体、②実施団体、③コンペ参加者、④コンペ審査団体、⑤白塔寺 DW 来場者、⑥地区住民、の6つ集団がある。6つ集団の人々は全てに公開審査会に参加した。また、主催団体はコンペ参加者と一緒に建築・院落の更新を行った。以上のことから、デザインコンペにより地区内外の人々が接触でき、様々な人々と繋がると言える。

影響2：白塔寺 DW とデザインコンペの展開により、白塔寺地区内の人々の参加程度が深くなる。

実施団体に対するヒアリング調査により、白塔寺地区は居住エリアのため、白塔寺 DW のテーマとイベント内容は地区住民との関係が深い。白塔寺 DW の展開により、地区住民の参加程度が深くなることがわかった。白塔寺 DW により利用された建築・院落の状況の分析から多様な運営主体が白塔寺 DW に参加するため、運営場所ごとにイベントを計画し、開催する。白塔寺 DW の展開により、白塔寺地区内の運営主体の参加程度が深くなることがわかった。白塔寺 DW の展開により、白塔寺地区内の人々の参加程度が深くなると言える。

デザインコンペの実態調査により、2016 年院落コンペに関わる人々と 2017 年コンペに関わる人々と比べ、街道（行政）、地区住民が 2017 年コンペに参加した。デザインコンペの展開により、白塔寺地区内の人々の参加程度が深くなると言える。

影響3：白塔寺 DW とデザインコンペにより地区において複数の建築・院落や公開空地などがよく利用される。

白塔寺 DW に関わる空間はイベント開催により利用された建築・院落と道路空間・公開空地である。利用された建築・院落については、①日常的に利用していない建築・院落、②日常的に利用している建築・院落、③更新された建築・院落、④白塔寺地区において有名な記念博物館「魯迅博物館」、の4つの種類がある。実施団体に対するヒアリング調査により、白塔寺 DW の特徴は白塔寺地区の全体範囲で多様な場所を活用して、各イベントの実施内容は開催場所に合わせて直されたことがわかった。白塔寺 DW により利用された建築・院落の状況の分析から、白塔寺 DW のイベント開催場所は分散化、多様化していることがわかった。以上のことから、白塔寺 DW により地区において複数の建築・院落や公開空地などがよく利用されると言える。

デザインコンペに関わる空間は12箇所の建築・院落と8箇所の胡同がコンペ敷地に指定された。コンペ敷地分布と情報図に見ると、コンペ敷地は分散化、多様化していることがわかった。以上のことから、デザインコンペにより地区において複数の建築・院落や公開空地などがよく利用されると言える。

影響4：白塔寺 DW は地区空間に与える影響が短期的で、持続性がなく、デザインコンペは白塔寺地区の建築・院落更新などのハード面事業を支えることができるため、デザインコンペは白塔寺 DW より地区の空間に与える影響が深い。

白塔寺 DW の実施団体に対するヒアリング調査により、白塔寺 DW が地区環境や空間に与えた影響は短期性があることがわかった。白塔寺 DW は地区空間に与える影響が短期的で、持続性がないと言える。

デザインコンペの実態調査から、2016年の院落コンペはコンペ敷地に限らず、白塔寺地区の建築・建築の更新に対してアイディアを提供したことことがわかった。デザインコンペは白塔寺地区の建築・院落更新などのハード面事業を支えることができると言える。

4-6 小括

4章では、白塔寺地区の地区イベントの状況を調べて、白塔寺地区において①地区全体イベント、②デザインコンペ、③大学実験プロジェクト、④地区住民イベント、⑤芸術文化イベント、⑥セミナー、の6種類の地区イベントがあることがわかった。その中で、地区全体イベントの白塔寺DWとデザインコンペの2016院落コンペと2017コンペを対象に、調査を行った。表4-15に、白塔寺DWとデザインコンペの情報を示す。

表4-15 白塔寺DWとデザインコンペ情報一覧

	人的関係	空間	影響
地区全体イベント (白塔寺DW)	①主催団体 ②実施団体 ③協力開催団体 ④来場者	①日常的に利用していない建築・院落 ②日常的に利用している建築・院落 ③更新された建築・院落 ④白塔寺地区において有名な記念博物館「魯迅博物館」	①白塔寺DWにより地区内外の人々が接触でき、多様な人々と繋がる。 ②白塔寺DWの展開により、白塔寺地区内の人々の参加程度が深くなる。 ③白塔寺DWにより地区において複数の建築・院落や公開空地などがよく利用される。 ④白塔寺DWは地区空間に与える影響が短期的で、持続性がない。
デザインコンペ	①主催団体 ②実施団体 ③コンペ参加者 ④コンペ審査団体 ⑤白塔寺DW来場者 ⑥地区住民	A. コンペ敷地： ①12箇所建築・院落 ②8箇所胡同 B. 更新された場所： ①コンペ敷地： 2箇所建築・院落 ②コンペ敷地外： 1箇所建築・院落	①デザインコンペにより地区内外の人々が接触でき、様々な人々と繋がる。 ②デザインコンペの展開により、白塔寺地区内の人々の参加程度が深くなる。 ③デザインコンペにより地区において複数の建築・院落や公開空地などがよく利用される。 ④デザインコンペは白塔寺地区の建築・院落更新などのハード面事業を支えることができる。

以上のことから、白塔寺DWとデザインコンペの人的関係と空間への影響は①白塔寺DWとデザインコンペにより、地区内外の人々が接触でき、多様な人々と繋がる、②白塔寺DWとデザインコンペの展開により、白塔寺地区内の人々の参加程度が深くなる、③白塔寺DWとデザインコンペにより地区において複数の建築・院落や公開空地などがよく利用される、④白塔寺DWは地区空間に与える影響が短期的で、持続性がなく、デザインコンペは白塔寺地区の建築・院落更新などのハード面事業を支えることができるため、デザインコンペは白塔寺DWより地区の空間に与える影響が深い、の4つであることがわかった。

参考文献：

1. <http://www.bjdw.org/bjdws/bjdwsAboutBJDW.html> 2018「北京国際設計週」のホームページ（最終閲覧日 2018 年 11 月 1 日）
2. <http://2017.bjdw.org/bjdws/bjdwsAboutBJDW.html> 2017「北京国際設計週」のホームページ（最終閲覧日 2018 年 11 月 1 日）
3. <http://www.bjdw.org/bjdws/bjdwsTourDesign.html> 2018「北京国際設計週」のホームページ（最終閲覧日 2018 年 11 月 30 日）
4. <https://www.gooood.cn/tubular-baitasi-by-pao.htm>（最終閲覧日 2018 年 12 月 2 日）
5. <http://www.treemode.com/competition/26>（最終閲覧日 2018 年 12 月 5 日）
6. <http://www.uuuud.com/2017/07/21672.html>（最終閲覧日 2018 年 12 月 5 日）
7. <http://btsremade.com/zh> 「白塔寺再生計画」のホームページ（最終閲覧日 2018 年 12 月 19 日）
8. 2017「西城区背街小巷環境整治提升三年專項行動計劃」

第5章 社区文化活動空間における地区住民イベント

5-1 本章の目的と調査概要

5-2 社区文化活動空間

5-2-1 青塔胡同「青塔胡同41号書香社区文化活動空間」

5-2-2 東岔胡同「白塔寺会客厅」

5-2-3 趙登禹路「活力社区マラソン計劃」

5-3 社区文化活動空間における地区住民イベント

5-3-1 社区文化活動空間の運営主体について

5-3-2 社区文化活動空間における日常的なイベント

5-3-3 社区文化活動空間における一時的なイベント

5-4 地区住民イベントに関わる人的関係

5-5 地区住民イベントに関わる空間

5-6 人的関係と空間への影響

5-7 小括

第5章 社区文化活動空間における地区住民イベント

5-1 本章の目的と調査概要

本章では、地区イベントの地区住民イベントが人的関係と空間に与える影響を明らかにすることを目的とする。地区住民イベントの開催のため、白塔寺地区における総計8箇所の社区活動空間が建設される。その中で、社区文化活動空間は①住民娯楽活動、②子ども活動、③公益活動、④交流活動、の4種類の地区住民イベントが開催されているため、社区文化活動空間を抽出し、3箇所の社区文化活動空間の実態を把握する。8箇所の内訳は、3箇所は社区居民委員会活動室、3箇所は社区文化活動空間、2箇所は社区図書室である。社区活動空間の運営主体については、3箇所の社区居民委員会活動室の運営主体は社区居民委員会、2箇所の社区図書室と1箇所の社区文化活動空間の運営主体は社会組織、1箇所の社区文化活動空間は民間企業である。また、1箇所の社区文化活動空間は工事中のため、開所されてなく、運営主体が未定である。8箇所の社区活動空間の分布を、図5-1に示す。3箇所の社区文化活動空間の2箇所は開所されており、運営主体があり、その2箇所の社区文化活動空間の運営主体に対してヒアリング調査を行い、社区文化活動空間の運営実態を把握し、地区住民イベントの実態を明らかにする。ヒアリング調査の概要を表5-1に示す。

表5-1 ヒアリング調査概要

調査対象	L氏	W氏
調査対象属性	「青塔胡同41号書香社区文化活動空間」運営団体	「白塔寺会客厅」運営団体
調査実施日	2018年10月16日	
質問項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 団体属性 2. 運営開始時期と背景 3. 運営内容 4. 運営資金の出所 5. 運営空間におけるイベントの制限 6. 運営空間におけるイベントが地区の建築・院落更新に与える影響 7. 運営空間におけるイベントが地区の環境改善に与える影響 8. 運営空間におけるイベントによる地区住民の変化 	

社区活動空間の分布

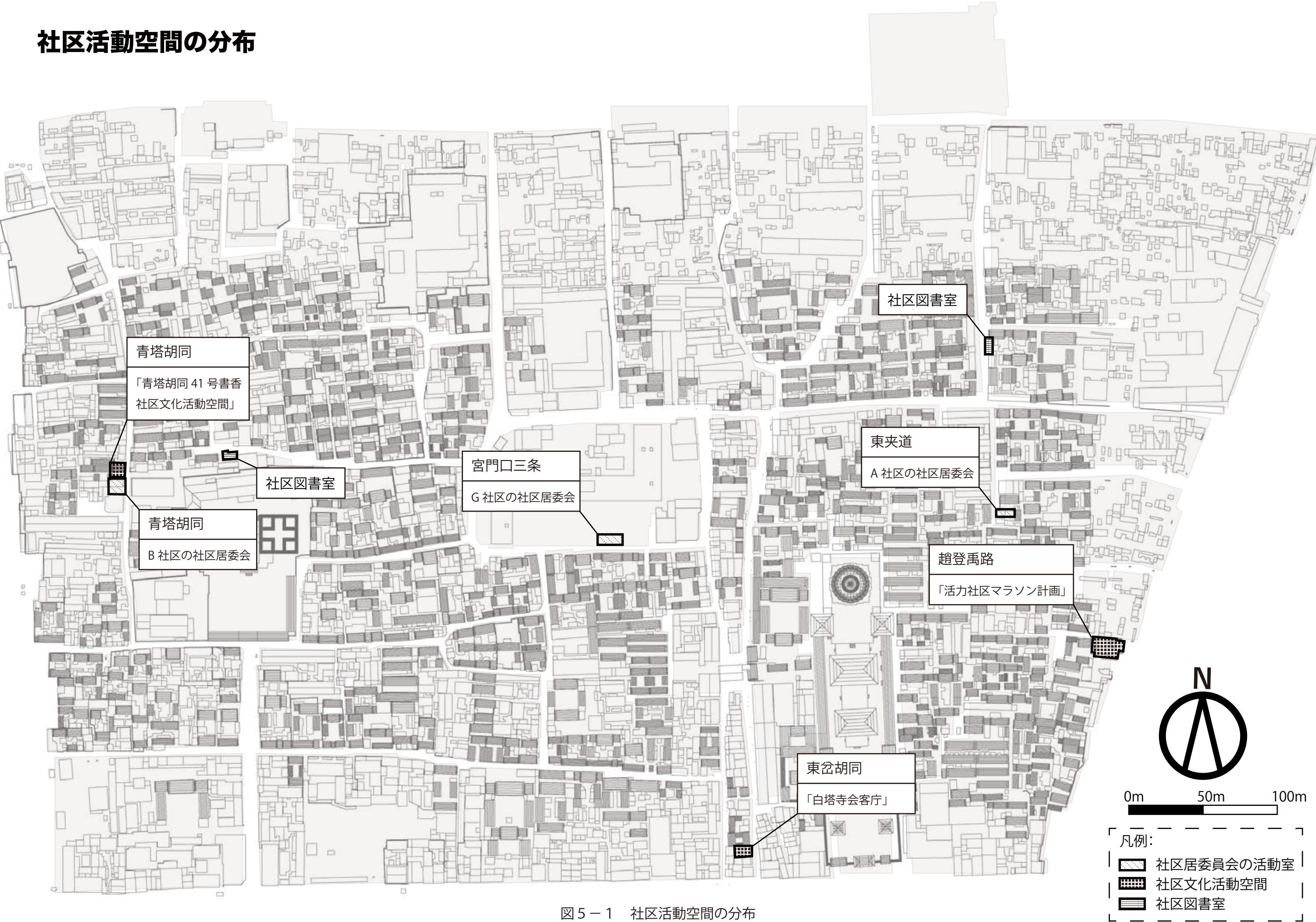


図 5 - 1 社区活動空間の分布

5-2 社区文化活動空間

白塔寺地区の社区文化活動空間の整備は 2015 年から始まり、2018 年 10 月までは 3 箇所の社区文化活動空間が計画された。その中で、2 箇所の社区文化活動空間が開所されており、1 箇所の社区文化活動空間が工事されている。社区文化活動空間は白塔寺地区の地区住民、特に社区住民に対する公共空間であり、（住民）娯楽活動、勉強会、子供向けのイベントに限らず、地区外の市民との交流を図るイベントも開催される空間である。

5-2-1 青塔胡同「青塔胡同 41 号書香社区文化活動空間」

「青塔胡同 41 号書香社区文化活動空間」（以降青塔 41）の立地は白塔寺地区の青塔胡同である（図 5-1）。青塔 41 は白塔寺地区初の社区文化活動空間であり、青塔 41 の概要を表 5-2 に示す。青塔 41 の更新は白塔寺地区における建築設計事務所が設計を担当した。当年度に建設され、2015 年の白塔寺 DW により利用され、2015 年 11 月 4 日に社区文化活動空間として開所された。青塔 41 の更新前後の建物の範囲を図 5-2 に示す。更新前の青塔 41 は居住用として利用されていた。しかし 100 平米の敷地で 3 戸（3 世帯）が定住していたことが原因で、増築についての問題が深刻になり、青塔 41 の住民は建物をますます建て、院落内の公開空地を減少させてしまった。当時、地区で「騰退」事業が実施されていた。青塔 41 の住民は株式会社 H と「騰退」についての契約を結んだきっかけで、他の地域に移転した。株式会社 H は青塔 41 の使用权を持ち、白塔寺地区内の老朽化した建築・院落が更新されるモデルケースを作るために青塔 41 の更新を計画した。建築設計事務所は増築された建物を取り壊し、現代的な生活条件に合わせる設備を整え、青塔 41 を更新した。

表 5-2 青塔 41 の概要

所在地	北京市西城区青塔胡同	
更新経緯	設計：2015 年、施工：2015 年	
敷地面積	100m ²	
更新主体	株式会社 H	
更新前	用途	居住用（戸籍戸数：3）
	所有権	公有
更新後	用途	社区文化活動空間（集会所）
	運営団体	団体 N
	ターゲット	主に B 地区の住民
	開所時間	2015 年 11 月 4 日

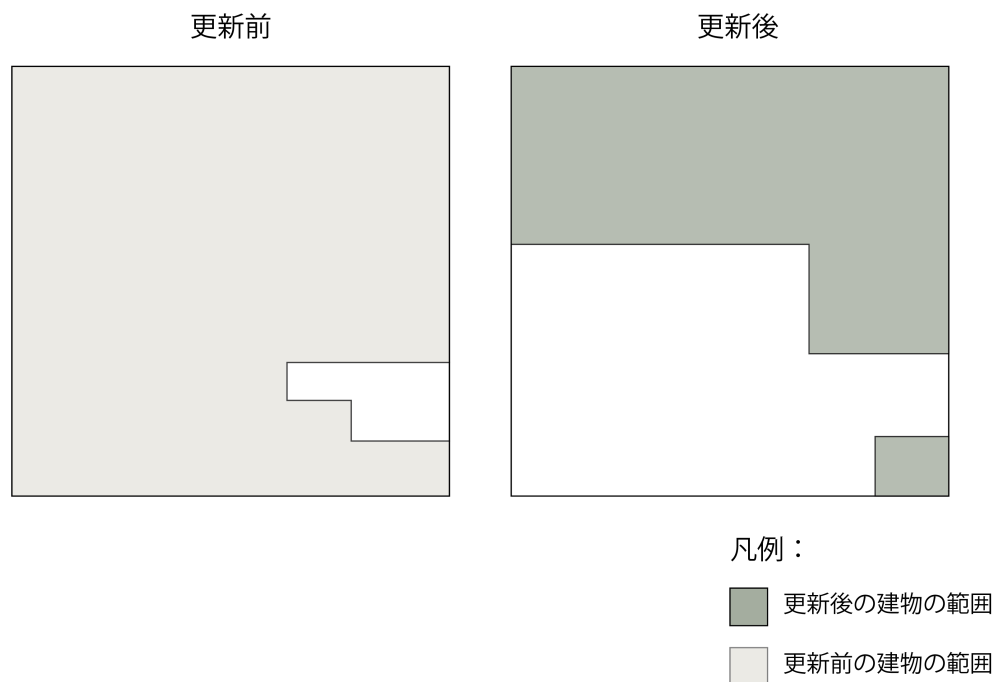


図5-2 更新前後の建物の範囲

図5-3に更新後の青塔41の施設構成を示す。現地の条件による更新後の青塔41の空間は伝統的な四合院の空間と異なり、二つの中庭が整備され、院落内にトイレも設置された。更新後の青塔41は長期的な地区住民に対して開放される空間であり、毎週の月曜日から土曜日までに多様な活動が開催されている。青塔41の運営主体は団体Nという社会組織（以降団体N）である。

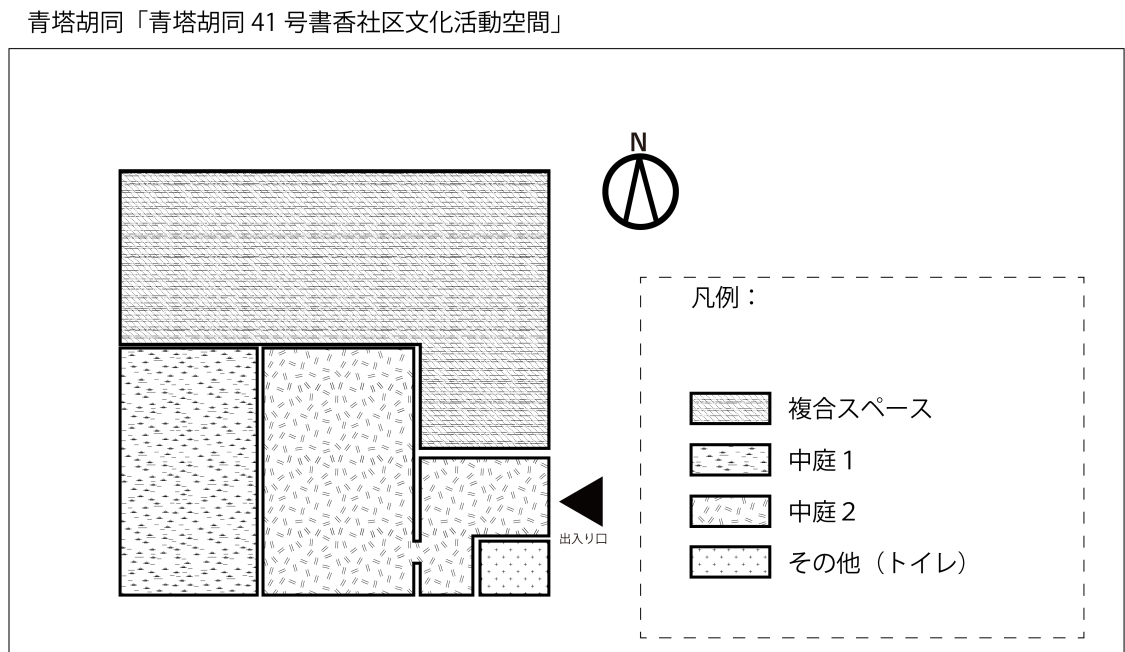


図5-3 青塔41施設構成平面図

A-複合スペース

機能1：住民向けの娯楽活動や勉強会、子供のイベントなどが開催される活動空間である。

機能2：住民活動で住民が作った作品や子供の作品などが展示されるスペースである。

機能3：多様な書籍があり、子供は学校が休みの日に学習できる空間である。

機能4：運営主体の事務室である。

ほかの団体が複合スペースを利用する場合、運営主体に申し込みをする必要がある。青塔41におけるイベントは必ず地区住民に向けた、地区住民と関係があるイベントである。

B-中庭1

中庭1は複合スペースを通り、青塔41の一番奥にある。それが原因で、中庭1の利用率がほかの空間より低下している。運営主体は花や草を植える場合、運営主体だけが管理することになってしまった。その後、青塔41の住民団体は運営主体の要望で住民シェア畑を提案し、実施したが、中庭1の管理問題を解決してない。

C-中庭2

中庭2は青塔41の玄関に繋がり、滞在できるスペースである。中庭2には中庭1と同様に管理問題がある。

D-その他

トイレとシャワー室は青塔41の出入り口付近にあり、複合スペースとは独立した空間であり、管理は運営主体である。しかし、その立地や狭さから利用されておらず、シャワー室は物置き場になっている。

5-2-2 東岔胡同「白塔寺会客厅」

「白塔寺会客厅」（以降会客厅）の立地は白塔寺地区の東岔胡同である（図5-1）。会客厅は二階建ての建築面積が約120平米の建築物が利用される社区文化活動空間であり、会客厅の概要を表5-3に示す。会客厅の運営主体は民間企業Mである。会客厅は東岔胡同における商業用の建築物を活用することで計画された。活用される前の住民は青塔41と同様に他の地区に移転し、株式会社Hが使用权を持ち、民間企業Mを白塔寺地区に誘致し、会客厅という社区文化活動空間を計画した。株式会社Hも民間企業Mも建築の更新を行わず、民間企業Mは会客厅の運営主体として建築内の設備配置を計画し、2017年9月末に会客厅を開所した。

表5-3 会客厅の概要

所在地	北京市西城区東岔胡同	
開所経緯	計画：2017年5月－2017年9月	
敷地面積	約60m ²	
計画主体	株式会社H、街道弁事処	
更新前	用途	商業用
	所有権	私有
更新後	用途	社区文化活動空間（集会所）
	運営団体	民間企業M
	ターゲット	主に白塔寺地区住民、特にA社区の住民
	開所時間	2017年9月

図5-4に会客厅の施設構成を示す。会客厅は青塔41と同様に、長期的に地区住民に対して開放される文化活動空間であり、毎週火曜日から土曜日までに多様なイベントを開催されている。会客厅の1階は開所時間によっては地区住民に限らず、地区外の市民も入れる。2階は開放されておらず、会客厅の住民団体と運営団体のメンバーしか入れない。

東岔胡同「白塔寺会客厅」

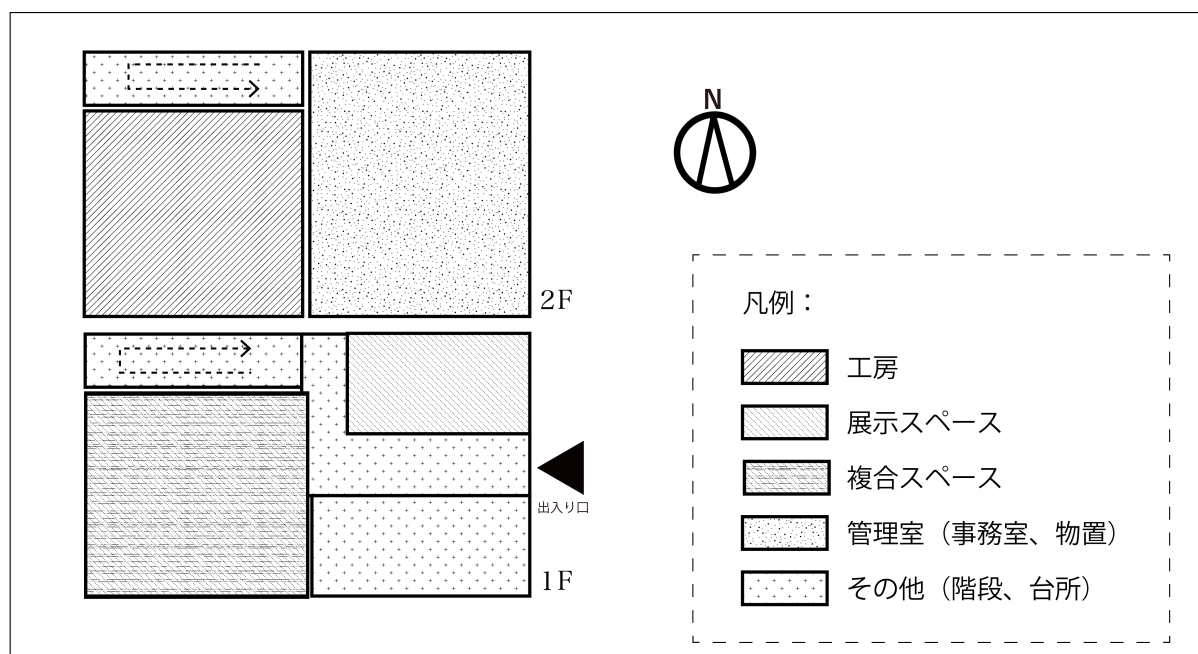


図5-4 会客厅施設構成平面図

A-工房

工房は会客厅における地区住民団体の一つの団体が利用する空間であり、団体は木工の作業場所としてその場所を活用している。民間企業Mは利用者の安全問題を考え、工房の利用者をその団体のメンバーに限定している。

B-展示スペース

展示スペースは以前のスーパーの様子で年代物が展示される空間である。

C-複合スペース

機能1：住民向けの娯楽活動や勉強会などが開催される活動空間である。

機能2：住民活動で住民の作品や古家具（椅子、棚など）が展示されるスペースである。

機能3：地区住民の集会所として地区住民が集まり、日常会話をする場所である。

D-その他

会客厅の特徴の一つはキッチンが配置されていることである。住民団体と運営団体は開所期間、日常的に料理を作り、皆が一緒に食事をする。

5-2-3 趙登禹路「活力社区マラソン計劃」

「活力社区マラソン計劃」（以降活力社区）の立地は白塔寺地区の趙登禹路である（図5-1）。活力社区は白塔寺地区の周縁における大通りと繋がる社区文化活動空間であり、活力社区の概要を表5-4に示す。株式会社Hと大使館Fが連携し、外国のデザイナーが活力社区を設計した。外国のデザイナーは白塔寺地区の住民の生活を理解したうえで、地区に合わせる社区文化活動空間を設計するため、活力社区を設計する前に白塔寺地区の住民と会議を開催し、住民の提議と意見を収集した。活力社区は白塔寺地区における建築・院落の更新に関して初めて実施される住民参加事例である。

表5-4 活力社区の概要

所在地	北京市西城区趙登禹路	
更新経緯	設計：2017年、施工：2018年10月まで未完成	
敷地面積	177m ²	
更新主体	株式会社H、大使館F	
更新前	用途	不明
	所有権	私有
更新後	用途	社区文化活動空間（集会所）
	運営団体	未定
	ターゲット	主に白塔寺地区住民
	開所時間	未定

図5-5に活力社区の計画的な施設構成を示す。活力社区は青塔41と同様に現地の条件による空間と伝統的な四合院の空間に違いがあり、中庭が整備され、院落内にトイレも設置された。活力社区は、①白塔寺地区のマクロ的な、開放的な公共空間とする、②白塔寺地区の住民に対する文化施設とする、この二つの機能を整える。

趙登禹路「活力社区マラソン計画」

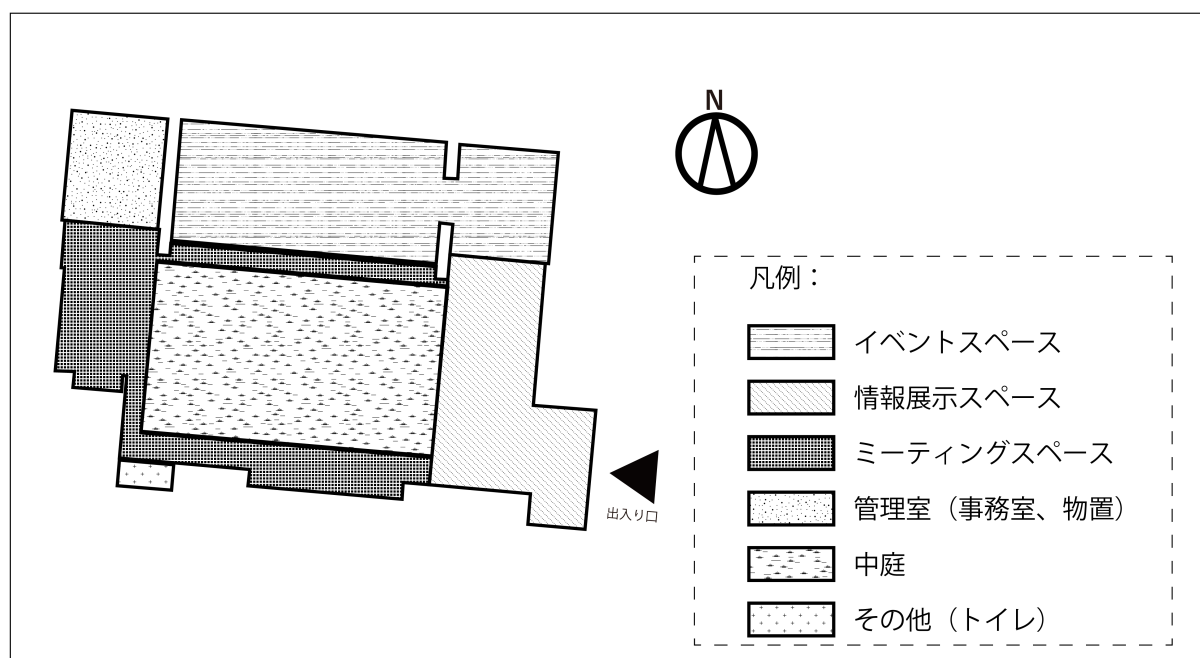


図5-5 活力社区施設構成平面図

A-イベントスペース

イベントスペースは活動が開催される空間と展覧空間である。

B-情報展示スペース

情報展示スペースは都市の歴史の保護に関する情報と活力社区の更新についての情報を展示し、胡同地区と伝統的な建築の更新に関する資料センターとする空間である。

C-ミーティングスペース

ミーティングスペースは社区の情報を共有するミーティング空間である。

D-中庭

中庭は環境に優しいシステムが利用される地区の公共空間である。

5-3 社区文化活動空間における地区住民イベント

5-3-1 社区文化活動空間の運営主体について

社区文化活動空間において運営主体の概要を表5-5に示す。団体Nは2015年の「政府購買行為」が原因で、青塔41の運営主体として白塔寺地区に入った。「政府購買行為」とは、街道弁事処（以降街道）が社会組織や企業などの服務（サービス）を購入することである。団体Nの運営内容は①青塔41の空間を管理する、②社区營造プロジェクトを計画する、③社区社会組織（地区住民グループ）を育成する、の三つがある。社区營造プロジェクトを計画することは、団体Nが住民娛樂活動などただ楽しいイベントに限らず、社区の建設に関するイベントを計画する。社区社会組織を育成することは、同様の興味を持つ地区住民がイベントに参加するため、仲間同士になり、同様の興味を持つ地区住民の集まりが一つ一つの地区住民グループになる。専門ネットで登録した社区社会組織は、毎年イベントの開催などの資金を政府に申請することができる。

民間企業Mは2014年年末、株式会社Hから声をかけられ、白塔寺地区の「白塔寺再生計劃」プロジェクトの策略顧問になった。実際には、2017年に同様の背景により、会客厅の運営主体として白塔寺地区に入った。民間企業Mの運営内容は①会客厅空間を管理する、②社区營造プロジェクトを計画する、③社区社会組織（地区住民グループ）を育成する、④地区で複数のプロジェクトを実施する、の四つがある。社区營造プロジェクトを計画すると社区社会組織を育成することは青塔41と同様である。地区で複数のプロジェクトを実施することは、会客厅の空間における民間企業Mが計画したプロジェクトやイベントなどに限らず、地区全体における会客厅に関係のあるプロジェクトやイベントなども実施する。

表5-5 運営主体概要

運営団体	団体N	民間企業M
団体属性	社会組織（NGO 団体）	民間企業
運営開始時期	2015 年	2017 年
運営開始背景	政府購買行為	政府購買行為
運営資金の出所	街道弁事処（行政）	街道弁事処（行政）
運営内容	①空間を管理する	①空間を管理する
	②社区營造プロジェクトを計画する	②社区營造プロジェクトを計画する
	③社区社会組織を育成する	③社区社会組織を育成する
		④地区で複数のプロジェクトを実施する

5-3-2 社区文化活動空間における日常的なイベント

表5-6に社区文化活動空間のイベント計画表を示す。青塔41の開所期間は毎週の月曜日から土曜日まで9:00-17:00である。青塔41開所の3年間で、地区住民の間に交流が増え、団体Nは9社区社会組織（以降住民グループ）を育成した。1年目は3住民グループ、2年目4住民グループ、3年目2住民グループができた。団体Nと住民グループの住民はグループのイベントを計画し、団体Nが頼んだ地区外のイベント協力者は毎週に白塔寺地区に訪問し、地区住民と一緒にイベントを開催する。青塔41における地区住民イベントの種類は当初の娯楽活動ばかりから公益活動に変化している。地区住民の意識が少しずつ変化しており、娯楽活動の参加者から公益活動のボランティアになった。2018年10月ヒアリング調査までに青塔41における団体Nが育成した公益活動ボランティアは150人～170人いる。最近の公益活動は、地区住民が自分の手作り物を売った資金で社区のお年寄りを慰問するという内容になっている。

会客庁の開所期間は毎週の火曜日から土曜日までである。会客庁開所の1年間で、民間企業Mは6住民グループを育成した。民間企業Mと住民グループの住民はグループのイベントを計画し、開催する。会客庁における特徴的な住民グループは二つある。一つは料理に関わる住民グループであり、会客庁のキッチンを利用しており、地区住民が毎週水曜日に集まり、家庭料理を作る。しかし、計画に限らず、開所時間の毎日で会客庁の地区住民は会客庁で一緒にご飯を食べている。もう一つの特徴的な住民グループは旧物の改修に関わるグループである。会客庁2階の作業室を利用しており、毎週木曜日にそこで地区住民の旧物を修理する。そのグループは「旧物改造示範」という社区营造プロジェクトの重要な実施団体である。「旧物改造示範」のプロジェクトは地区内で木工に関する能力があり、旧物改修に興味のある地区住民が集まり、ほかの地区住民の旧物を改修する。あるいは、グループのメンバーが廃置された木材を利用して、物を作る。例えば、木材のロボットや昔の様子のアイスクリーム箱などが作られ、ロボットは会客庁前の階段の空地で植物と置いており、アイスクリーム箱は毎回の地区内の高齢者にご飯を送る時に使っている。

表5-6 社区文化活動空間における日常（平日）活動計画表

青塔胡同「青塔胡同41号書香社区文化活動空間」							
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
9:00-11:00		◎	◎	◎	◎	◎	
12:00-13:00		◎		◎			
14:00-16:00	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

東岔胡同「白塔寺会客庁」							
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
AM		◎	◎	◎	●	●	
PM			◎	◎		◎	

◎ 地区住民イベント ● 集会

5-3-3 社区文化活動空間における一時的なイベント

社区文化活動空間では地区住民向けのイベントに限らず、一時的な地区外の市民との交流を図るイベントも開催される。

青塔 41 は白塔寺 DW の会場として4度白塔寺 DW 時にイベントが開催された。2016 年から 2018 年の3回は団体 N が青塔 41 の運営主体として白塔寺 DW 時に青塔 41 のイベントを計画した。会客庁は白塔寺 DW の会場として 2017 年と 2018 年の2回、白塔寺 DW 時に活動が開催された。民間企業 M は団体 N が会客庁の運営主体として白塔寺 DW 時に会客庁のイベントを計画した。2箇所の社区文化活動空間で白塔寺 DW 時に開催されたイベントは空間の展示と空間の住民グループの作品の展示である。青塔 41 の住民グループの作品の展示はグループメンバーが日常的なイベントで作った物を現場で置いており、解説者が来場者に説明する。団体 N と青塔 41 の住民グループは青塔 41 の公益活動の資金を稼ぐため、白塔寺 DW 時に住民グループの作品を来場者に売る。

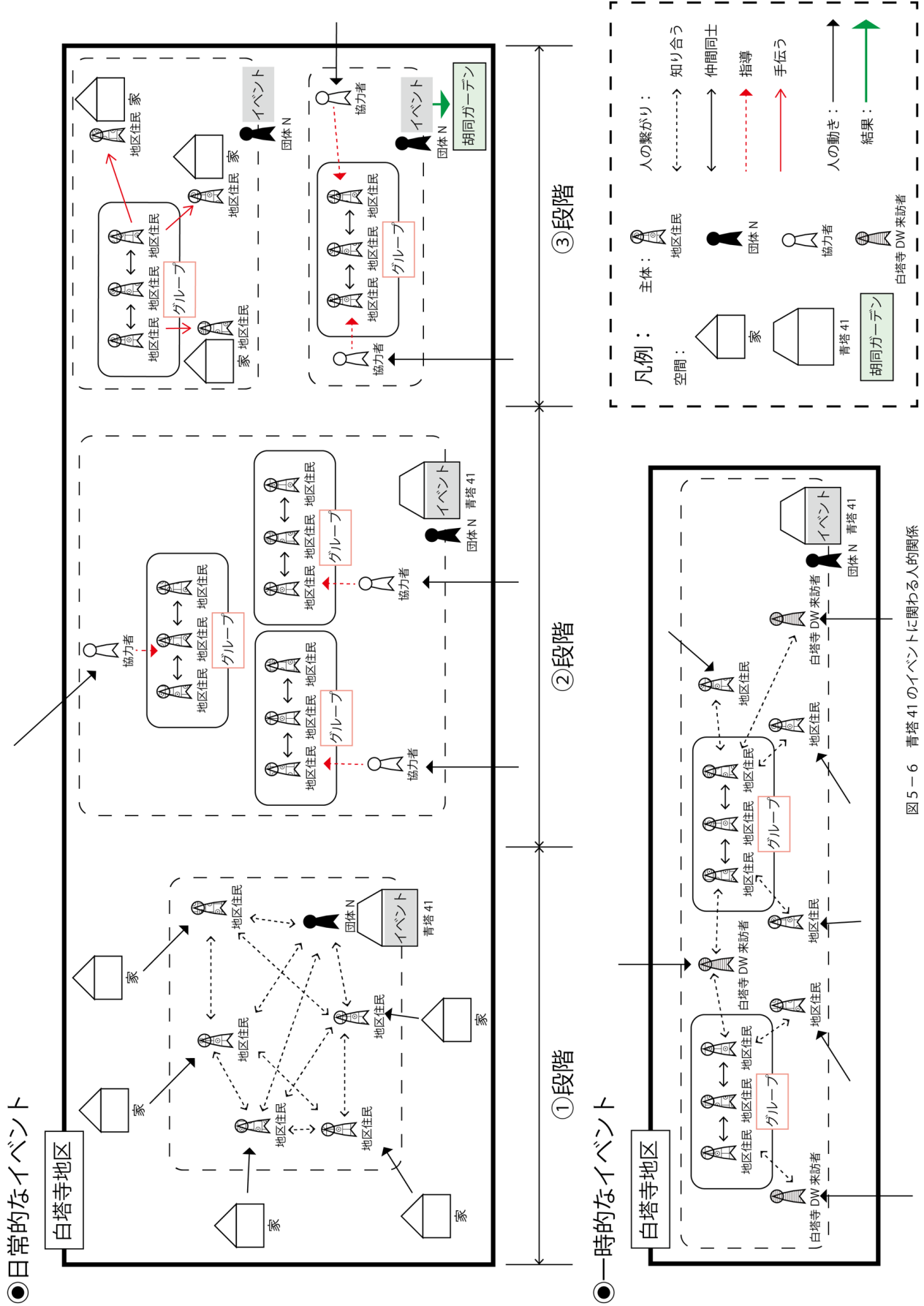
会客庁で 2018 年 2 月の旧正月前に「白塔寺廟会」イベントが開催された。「白塔寺廟会」は社区住民から提案し、民間企業 M と社区住民が 1 ヶ月前からイベントを準備し、8 日間でイベントを開催した。「白塔寺廟会」は白塔寺地区の伝統的な年末年始のイベントであり、イベントの時に白塔寺地区における複数の臨時屋台が設置され、子供の玩具や食べ物などの臨時屋台が多く、地区の住民や周辺の住民が白塔寺地区に来て、白塔寺地区が賑やかになった。近年の「白塔寺廟会」はなくなり、民間企業 M と社区住民が伝統的な「白塔寺廟会」イベントを開催した。しかし、イベント開催場所は白塔寺地区全体ではなく、ほぼ会客庁で開催された。最近、民間企業 M と社区住民は 2019 年の「白塔寺廟会」イベントを計画している。

2018 年白塔寺 DW の時、会客庁の民間企業 M と住民は会客庁の活動に限らず、地区外の団体と連携し、別の空間でイベントを計画し、実施した。2018 年白塔寺 DW 期間の毎日、開催され、地区内の住民と地区外の市民がそれを高く評価した。

5-4 地区住民イベントに関わる人的関係

青塔 41 が開所された3年間で、住民の間に交流が増え、9住民グループが作られた。団体 N が白塔寺地区に入った時、白塔寺地区の北順社区で住民イベントが少なく、住民の社区社会組織（住民グループ）もなかった。青塔 41 でイベントの計画は娯楽活動から公益活動に変化しており、イベントの種類が多様になった。住民の役割は娯楽活動の参加者から公益活動のボランティアに変化している。団体 N に対するヒアリング調査により、青塔 41 における地区住民グループの育成は3段階がある。1段階は、住民が各自の家を出て、社区文化活動空間の地区住民イベントに参加し、ほかの住民と知り合う。2段階は、住民の間の繋がりが深くなり、地区住民グループが形成され、仲間同士となる。イベント開催の時、地区外の協力者が地区に来て、住民グループを指導する。3段階は、住民グループは社区文化活動空間内のイベントに限らず、お年寄りなどを手伝うイベントや地区の環境を改善するイベントを開催する。1段階で、住民がイベントに参加する意識を形成させることは最も難しく、この段階にかかる時間が長い。しかし、毎回到新しい住民グループを作る際に、1段階は最も重要である。2段階は、住民グループが形成され、住民の興味に基づき、地区外の協力者が住民を指導し、イベントを開催する。住民グループの中で、住民が仲間同士になる。3段階は、地区住民が娯楽活動などに参加する意識から社区によい影響を与える意識に変化しつつ、社区文化活動空間内のイベントに限らず、ほかの空間でイベントを開催する。

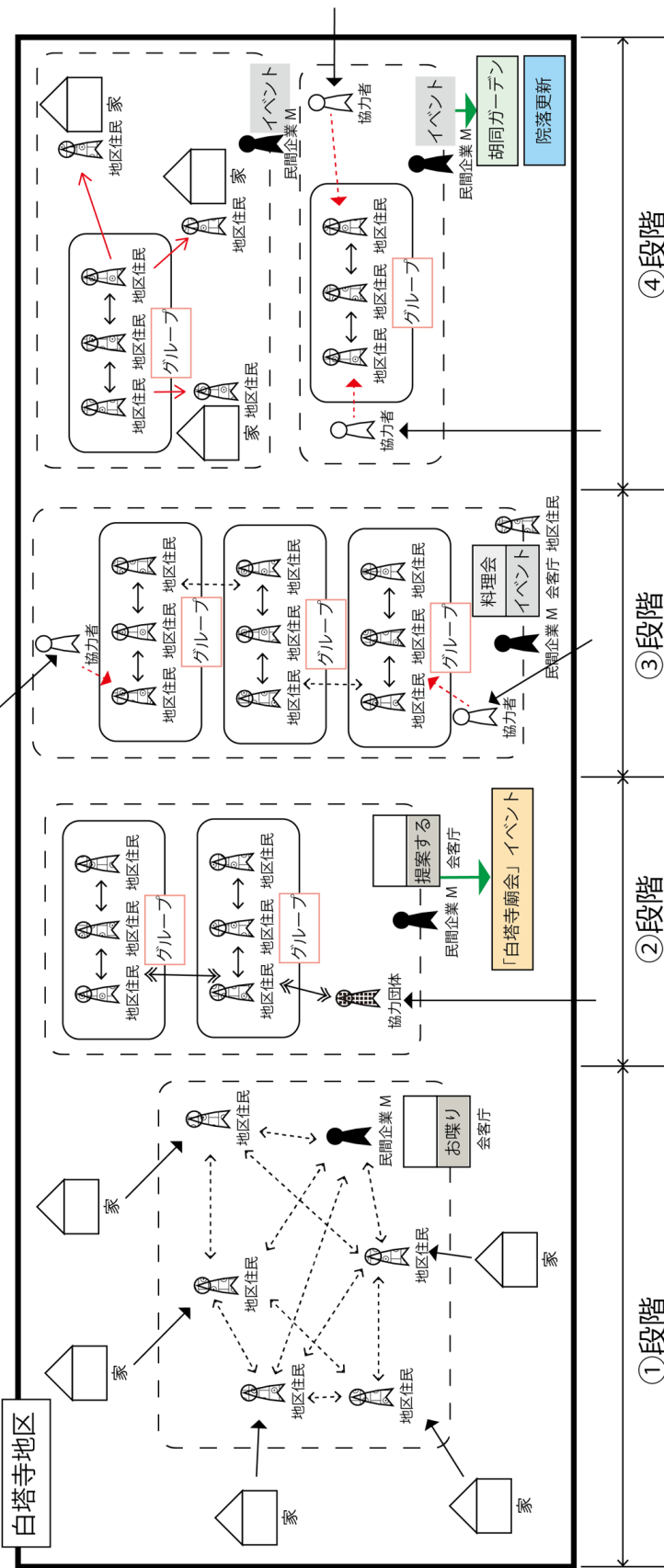
図 5-6 に、青塔 41 の地区住民イベントに関わる人的関係を示す。日常的なイベントに関わる人は、①地区住民、②運営団体（団体 N）、③協力者、の3つ集団があり、一時的なイベントに関わる人は、①地区住民、②運営団体（団体 N）、③白塔寺 DW の来場者、の3つ集団がある。人の繋がりは、①知り合う、②仲間同士、③指導、④手伝う、の4つがある。



会客庁は一年間だけ開所しており、6 住民グループができた。民間企業 M に対するヒアリング調査により、会客庁における地区住民グループの育成は4 段階がある。1 段階は、会客庁を開き、地区住民が会客庁に入ったら、地区住民と喋る。2 段階は、住民の間の繋がりが深くなり、地区住民グループが形成され、仲間同士となる。イベント開催を提案する。2 段階の結果としては、民間企業 M と地区住民グループと協力団体が連携し、「白塔寺廟会」イベントを開催した。3 段階は、イベント開催の時、地区外の協力者が地区に来て、住民グループを指導する。また、会客庁で料理ができるため、料理会を実施し、住民グループの間の繋がりができる。4 段階は、住民グループは社区文化活動空間内のイベントに限らず、お年寄りなどを手伝うイベントや地区の環境を改善するイベントなどを開催する。

図 5-7 に、会客庁の地区住民イベントに関わる人的関係を示す。日常的なイベントに関わる人は、①地区住民、②運営団体（民間企業 M）、③協力者、④協力団体、の4 つ集団があり、一時的なイベントに関わる人は、①地区住民、②運営団体（民間企業 M）、③協力団体、④来訪者、の4 つ集団がある。人の繋がりは、①知り合う、②仲間同士、③指導、④手伝う、⑤連携、の5 つがある。

●日常的なイベント



●一時的なイベント

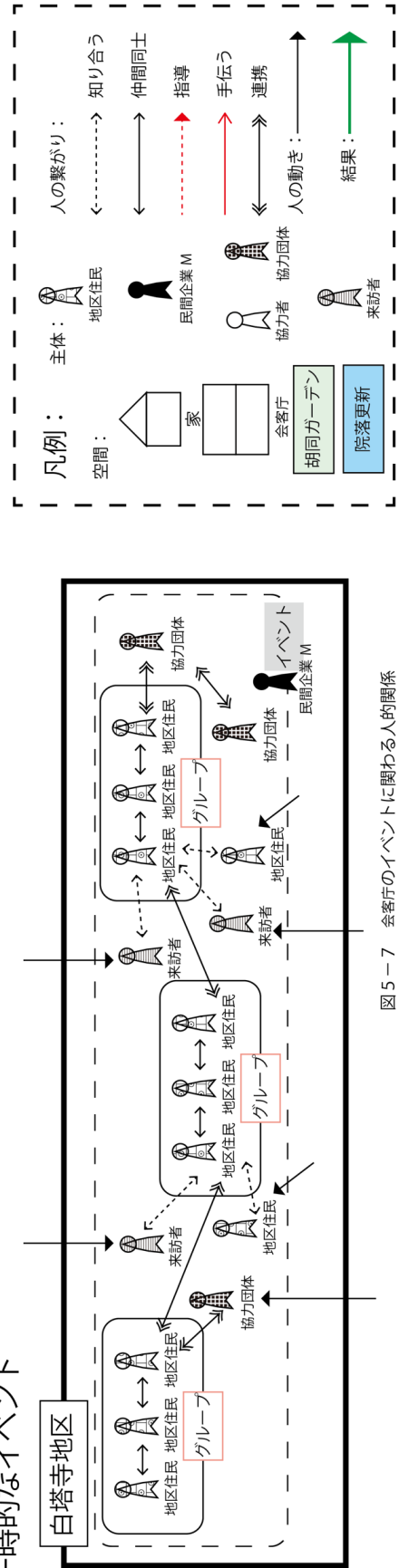


図5-7 会客庁のイベントに関わる人的関係

5-5 地区住民イベントに関わる空間

青塔 41 が 3 年を経て、会客庁が 1 年を経て、青塔 41 と会客庁における住民グループの関心は娯楽活動の楽しさから社区建設に変わった。表 5-7 に社区活動空間の運営団体と住民グループが実施した地区の建築・院落更新事例と胡同の環境改善事例を示す。

表 5-7 社区文化活動空間による地区変化一覧（×：ない、○：ある）

	青塔 41	会客庁
建築・院落更新事例	×	○
胡同の環境改善事例	○	○

青塔 41 は更新された空間を活動空間として皆が利用しており、地区住民は青塔 41 の中で空間利用に関わるデザインすることができ、青塔 41 以外の建築・院落更新事例を起こったことがない。2018 年 7 月から青塔 41 は「胡同ガーデン」プロジェクトを始めた。「胡同ガーデン」は、地区胡同の中で、狭い場所を利用し、花などを飾り、良い景観を作る。2018 年 10 月までは一つの事例ができた。青塔 41 の住民グループは街角の細い空き地（図 5-8）を利用し、美しい景観を作った。

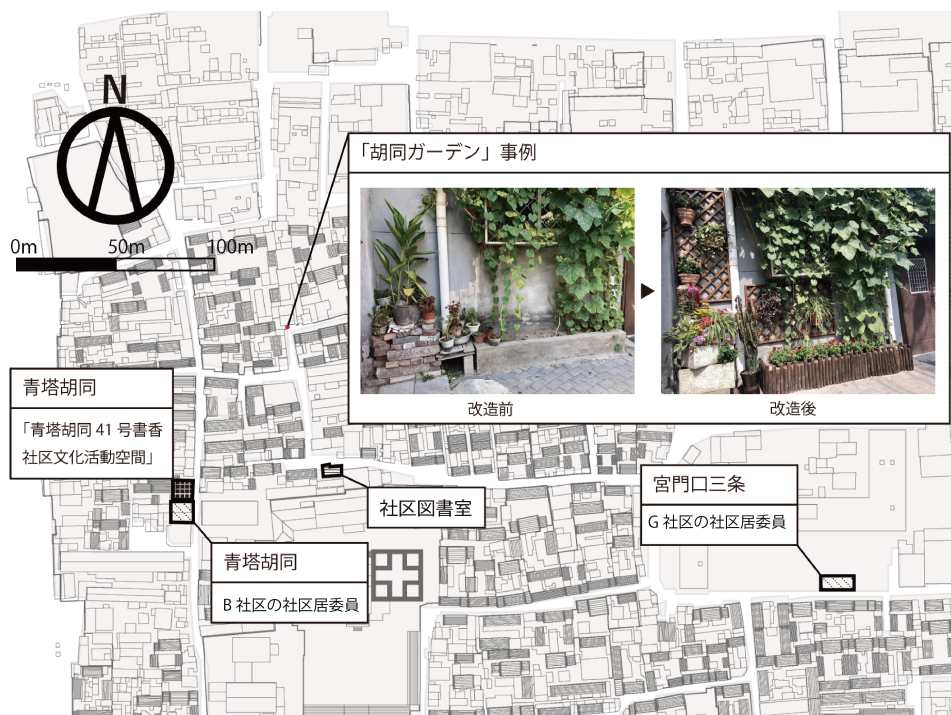


図 5-8 「胡同ガーデン」事例の立地（改造前後の写真の出典：

<https://mp.weixin.qq.com/s/n7SEX8zG11h9VyfKp2HRjw>（最終閲覧日 2018 年 11 月 20 日））

図5-9に会客庁の建築・院落更新事例と地区環境改善事例の分布を示す。会客庁は建築・院落更新事例が二つあり、すべて会客庁で地区住民イベントに参加している地区住民から提案されたものである。一つは地区住民グループが院落の舗装を更新して、環境を改善した。一つは地区住民P氏が居住空間の設計アイデアを提出し、株式会社Hが特定建築の内装工事を実施している。地区の環境改善事例には一例があり、青塔41の「胡同ガーデン」プロジェクトと同様に会客庁の住民グループが胡同空間を利用し、街区ガーデンが作られた。

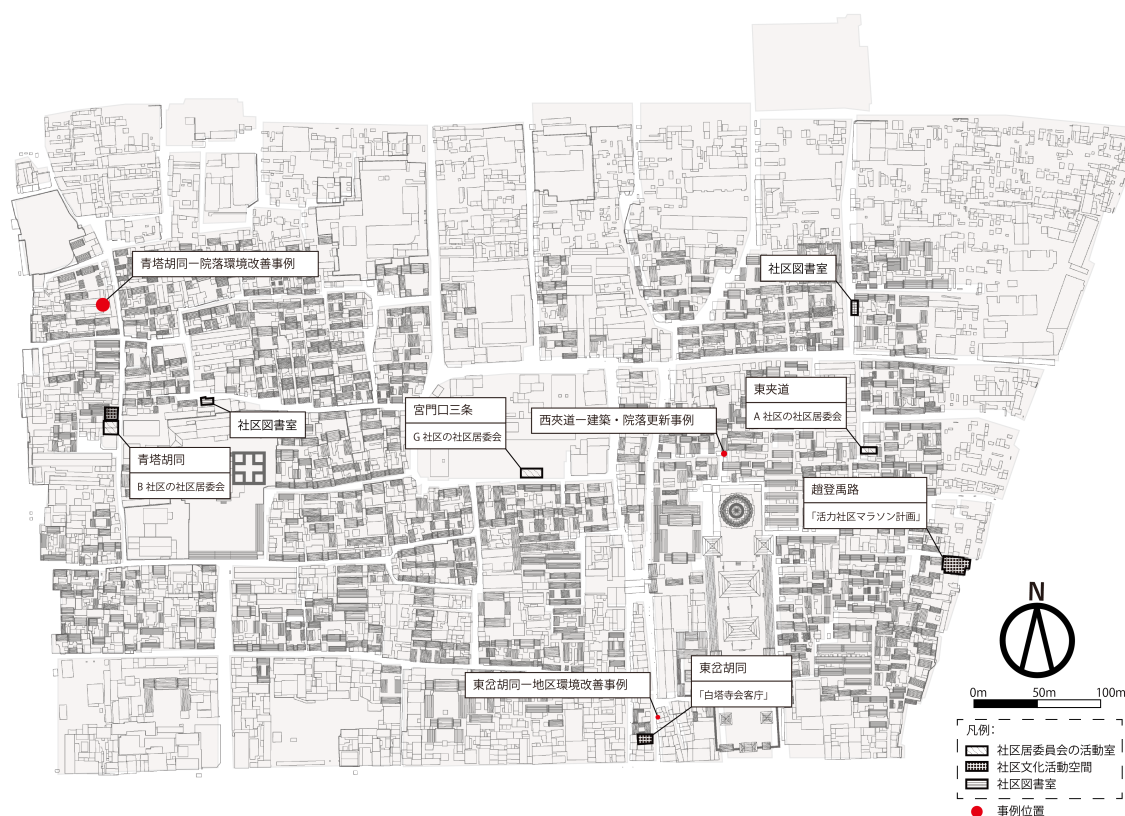


図5-9 会客庁の建築・院落更新事例と地区環境改善事例の分布

5-6 人的関係と空間への影響

社区文化活動空間の実態調査に基づき、社区文化活動空間で開催されたイベントが人的関係と空間に与える影響を考察した。（図5-10）

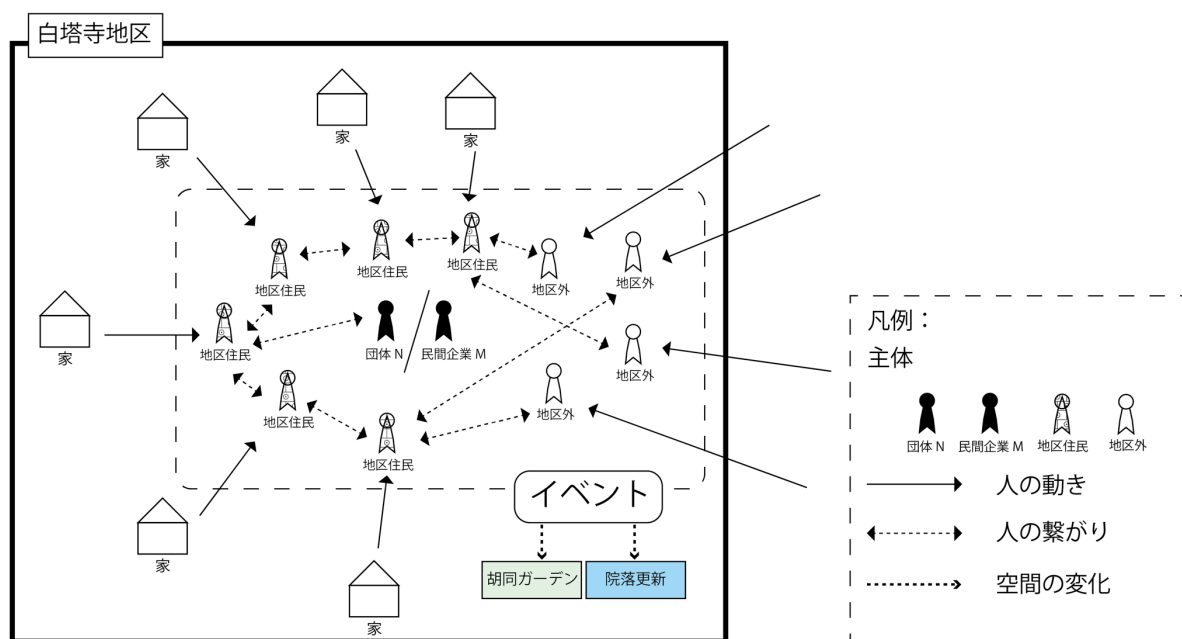


図5-10 地区住民イベントによる人的関係と空間への影響

影響1：社区文化活動空間において地区住民イベントにより、地区住民が地区内外の人々と①知り合う、②仲間同士、③指導、④手伝う、⑤連携、の5種類の繋がりを持つ。

青塔41の日常的なイベントに関わる人は、①地区住民、②運営団体—団体N、③協力者、の3つ集団があり、一時的なイベントに関わる人は、①地区住民、②運営団体—団体N、③白塔寺DWの来場者、の3つ集団がある。人の繋がり、①知り合う、②仲間同士、③指導、④手伝う、の4つがある。以上のことから、青塔41の地区住民イベントにより、地区住民が地区内外の人々と①知り合う、②仲間同士、③指導、④手伝う、の4つの繋がりを持つと言える。

会客庁の日常的なイベントに関わる人は、①地区住民、②運営団体—民間企業M、③協力者、④協力団体、の4つ集団があり、一時的なイベントに関わる人は、①地区住民、②運営団体—民間企業M、③協力団体、④来訪者、の4つ集団がある。人の繋がり、①知り合う、②仲間同士、③指導、④手伝う、⑤連携、の5つがある。以上のことから、会客庁の地区住民イベントにより、地区住民が地区内外の人々と①知り合う、②仲間同士、③指導、④手伝う、⑤連携、の5つの繋がりを持つと言える。

影響2：社区文化活動空間において地区住民イベントが空間に与える影響は2種類に分けられ、①建築・院落の更新、②環境の改善である。

青塔41で開所された3年間の間に、1件の胡同環境改善事例が起こった。青塔41の地区住民イベントにより、環境改善に与える影響があると言える。

会客厅で開所された1年間の間に、2件の建築・院落更新事例と1件の胡同環境改善事例が起こった。会客厅の地区住民イベントにより、建築・院落の更新と環境改善に与える影響があると言える。

5-7 小括

本章では、地区イベントの地区住民イベントが人的関係と空間に与える影響を考察するため、社区文化活動空間を対象に、社区文化活動空間の運営団体に対してヒアリング調査を行った。ヒアリング調査から、社区文化活動空間における地区住民イベントの実態を明らかにした。地区住民イベントは①日常的なイベント、②一時的なイベント、の二つの種類があり、また、イベントに関わる人々は複数の集団があることがわかった。社区文化活動空間における地区住民イベントにより、地区において2件の建築・院落更新事例と2件の胡同環境改善事例が起きたことがわかった。

地区住民イベントの実態の分析を行い、地区住民イベントが人的関係と空間に与える影響は①社区文化活動空間において地区住民イベントにより、地区住民が地区内外の人々と、A-知り合う、B-仲間同士、C-指導、D-手伝う、E-連携、の5種類の繋がりを持つ、②社区文化活動空間において地区住民イベントが空間に与える影響は2種類に分けられ、A-建築・院落の更新、B-環境の改善、の二つが言える。

青塔胡同「青塔胡同 41 号書香社区文化活動空間」



写真1 複合スペース (2018年9月6日撮影)



写真2 中庭2 (2018年10月1日撮影)

東岔胡同「白塔寺会客厅」



写真1 工房（2018年8月14日撮影）



写真2 複合スペース（2018年8月8日撮影）



写真3 台所（2018年8月8日撮影）



写真4 会客厅（2018年9月29日撮影）



写真5 展示スペース（2018年9月29日撮影）

第6章 建築・院落更新事例と地区イベントの関係

6-1 本章の目的と調査概要

6-2 建築・院落更新事例と地区イベントの関係

第6章 建築・院落更新事例と地区イベントの関係









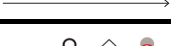

6-1 本章の目的と調査概要

本章では、第3章の建築・院落更新事例の情報、また、第4章と第5章の地区イベント情報を整理したうえで、建築・院落更新事例と地区イベントの関係を明らかにする。

6-2 建築・院落更新事例と地区イベントの関係

第3章では、34件建築・院落更新事例を調査した。34件建築・院落更新事例の情報を、図6-1に示す。2017年に建築・院落更新事例が最も多く、14件あった。2013年に2件あり、2015年に2件、2016年に5件、2018年に11件があった。表6-1に、更新団体と運営団体の組み合わせの分類を示す。10種類があり、更新団体と運営団体全てが企業・自営業者の事例は最も多く、14件であった。

表6-1 更新団体と運営団体の組み合わせの分類

更新団体	運営団体	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
		1			4	6	3
				1		2	
					1	4	
						1	
						1	
				1			
							1
		1					
							6
							1

凡例: 空間:  更新前  更新後
 主体: 更新-  株式会社 H  社会団体  企業・自営業者  団体・住民  市民 (行政)
 運営-  株式会社 H  社会団体  企業・自営業者  団体・住民  市民 (行政)

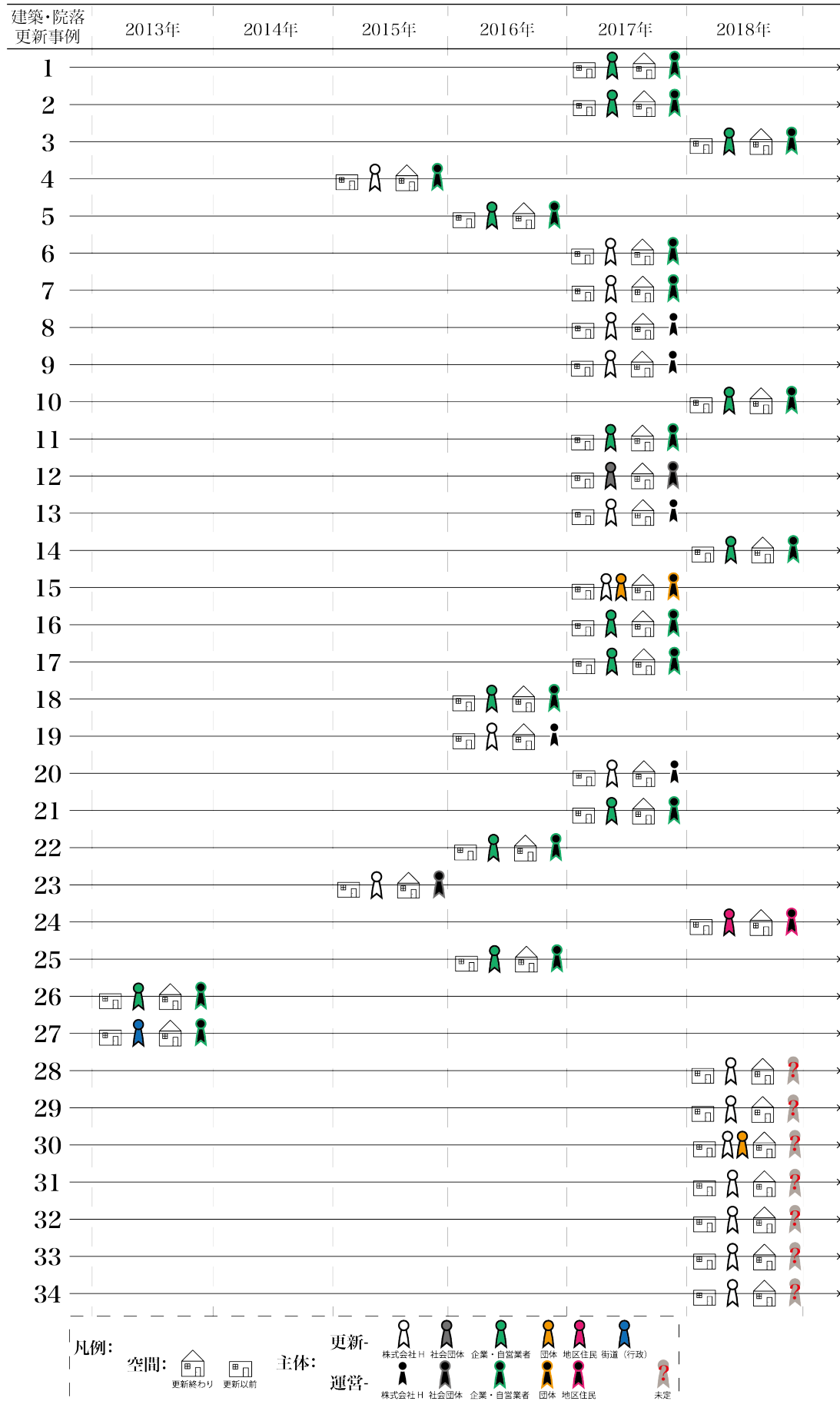


図 6-1 建築・院落更新事例更新情報まとめ

第4章と第5章では、地区イベントの中の地区全体イベント（白塔寺DW）とデザインコンペ（2016 コンペ、2017 コンペ）を調査した。イベントの開催期間を、図6-2に示す。

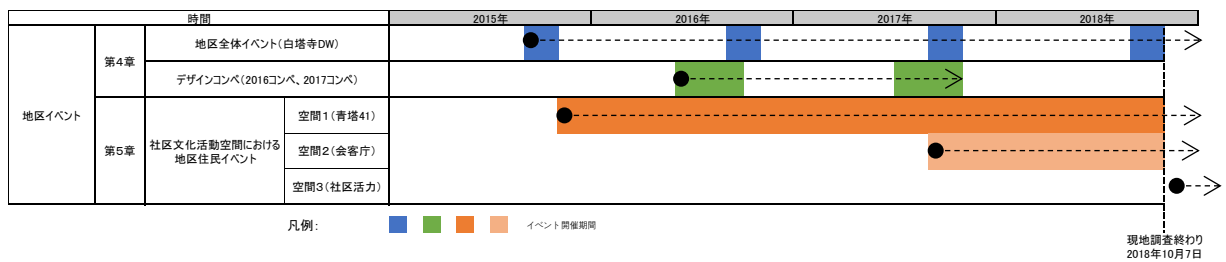
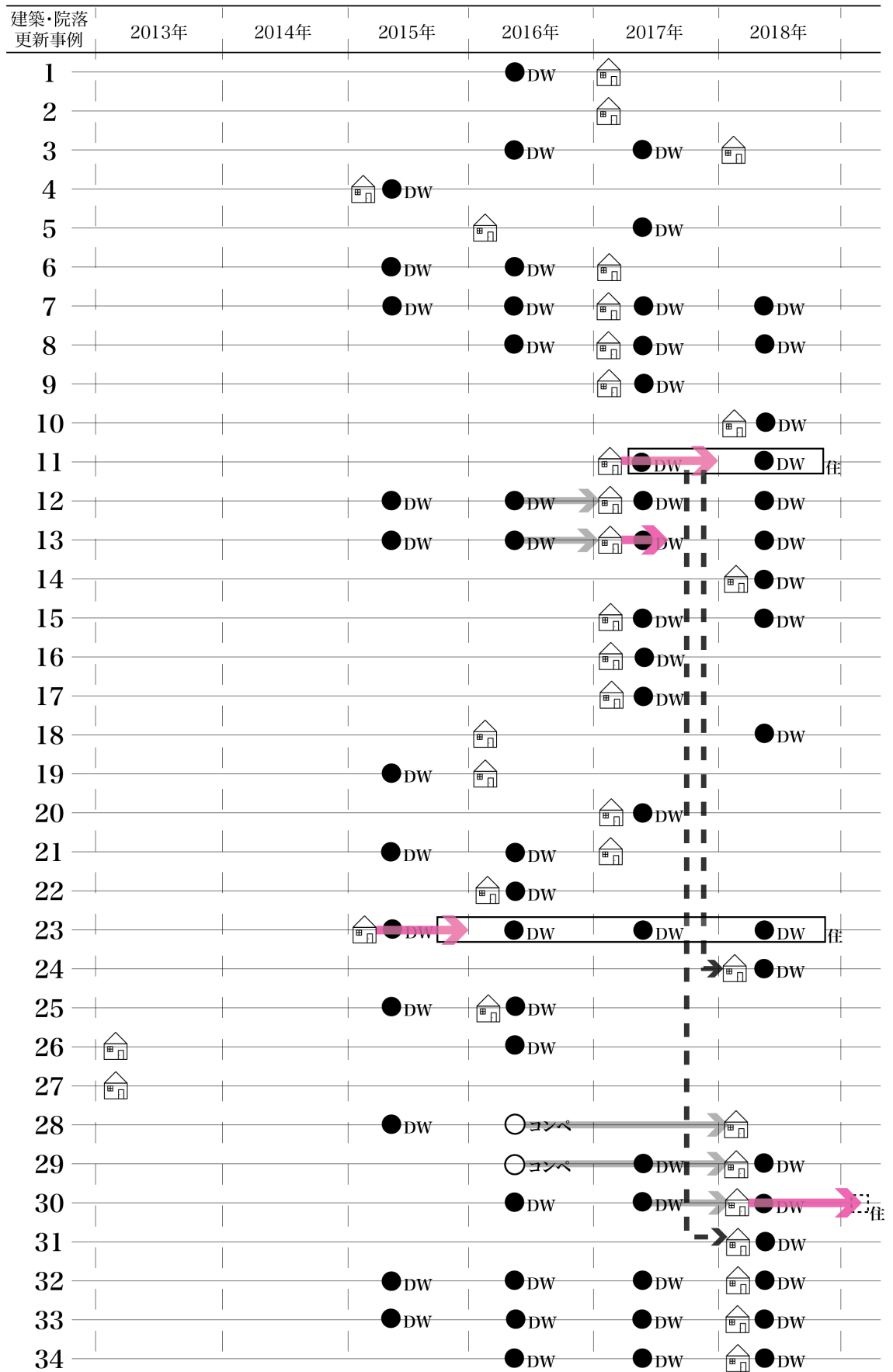


図6-2 イベント開催情報まとめ

3、4、5章で調査した更新事例と地区イベントについては、更新事例における地区イベントの開催情報を、図6-3に示す。建築・院落更新事例は34件あり、2件のみ地区イベントにより利用されたことがない。建築・院落更新については、地区イベントの開催と関係のある更新事例は9件であった。



凡例: 住:更新年度 ●DW:白塔寺DW開催 ○コンペ:2016コンペ敷地 □住:地区住民イベント開催
 →:イベントの影響を受け更新 - ->:他場所のイベントの影響を受け更新 →:イベント開催のため更新

図6-3 建築・院落更新事例別の地区イベント開催情報まとめ

イベント開催のため更新が実施された事例は2件あり、事例11と事例23は地区住民イベント開催のため、社区文化活動空間を建設した。それらの2件の事例は更新以前にイベントが開催されたことがなく、更新後に地区住民イベントと白塔寺DWが開催されている。

イベントの影響を受けて更新が実施される事例は3件であった。2件(事例28、事例29)は2016コンペの敷地で、コンペが実施された後に更新が行われた。1件(事例12)は白塔寺DWが開催された後、空間の運営団体が転入し、建築・院落の更新を行った。

開催されたイベントの影響を受けて、また、次のイベントの開催のために建築・院落の更新が実施された事例は2件あり、事例13と事例30であった。事例13は白塔寺DWが開催された後、次の白塔寺DW開催のために更新が行われた。事例30は白塔寺DWが開催された後、その空間において地区住民イベント開催計画が作成された。

別の場所においてイベントの影響を受けて、更新が実施された事例は2件あり、事例24と事例31であった。2件の事例は更新以前にイベントが開催されたことがなく、事例11の地区住民イベントの影響を受けて、建築・院落の更新が実施された。

以上のことから、建築・更新事例の中には、イベント空間を作り、イベント開催のため、更新が行われた事例があった。また、建築・院落でイベントが開催された後、イベントの影響を受けて、更新が行われた事例があったことが把握された。地区イベントの展開により、建築・院落更新事例を起こす可能性があり、地区イベントは建築・院落更新を促進すると言える。

第7章 まとめ

7-1 各章のまとめ

7-2 明らかにしたこと

7-2 今後の課題

第7章 まとめ

本章では、2章から6章まで調査内容と明らかになったことを総括する。また、今後の課題を示す。

7-1 各章のまとめ

第2章では、対象地区となる白塔寺地区の概要と北京市歴史文化保護区の計画、及び「白塔寺再生計画」プロジェクトの概要を述べた。

第3章では、27件更新された事例と7件更新中事例、統計34件の建築・院落更新事例を①建築・院落の使用権による、②更新主体による、の2段階で7パターンに分類した。更新事例に関わる人的関係を明確し、施設用途に着目し、パターンの分析を行った。最後に、建築・院落更新事例が人的関係と空間に与える影響を考察した。

第4章では、白塔寺地区における地区イベントを調べたうえで、地区イベントの中で地区全体イベントの白塔寺DWとデザインコンペの院落コンペと2017コンペを対象に、調査した。白塔寺DWに関わる人的関係を明確し、実施団体に対するヒアリング調査、協力開催団体と来場者に対するアンケート調査を行い、また、白塔寺DWに関わる空間を明確し、イベント開催場所の分析を行い、白塔寺DWが人的関係と空間に与える影響を考察した。次に、デザインコンペに関わる人的関係と空間を分析し、デザインコンペが人的関係と空間に与える影響を考察した。最後に、白塔寺DWとデザインコンペが人的関係と空間に与える影響を明らかにした。

第5章では、白塔寺地区の総計8箇所の社区活動空間において3箇所の社区文化活動空間を抽出し、空間の実態を述べた。開所された2箇所の社区文化活動空間の運営団体に対してヒアリング調査を行い、地区住民イベントに関わる人的関係と空間を明確した。最後に、社区文化活動空間における地区住民イベントが人的関係と空間に与える影響を考察した。

第6章では、第3章、第4章、第5章から得た情報をまとめて、建築・院落更新事例と地区イベントの関係を明らかにした。

第7章では、各章のまとめと明らかにしたこと、及び今後の課題を示した。

7-2 明らかにしたこと

本研究で明らかになったことは以下の通りである。

建築・院落更新事例が人的関係と空間に与える影響は、①白塔寺地区の地区住民が減少し、人々の構成が徐々に変化する、②企業・自営業者や社会団体などの多様な主体が白塔寺地区に転入する、③地区の施設の用途が増加し、白塔寺地区が居住エリアから多様な用途が混在したエリアへ変化する、④地区文化や住民の生活により影響を及ぼす施設が増え、地区文化空間や生活空間などの範囲が広がる、の4つであった。

地区イベントが人的関係に与える影響は、①地区内外の人々が接触でき、多様な人々と繋がる、②イベントの展開により、白塔寺地区内の人々の参加程度が深くなる、③地区住民イベントにより、地区住民が地区内外の人々と、A-知り合う、B-仲間同士、C-指導、D-手伝う、E-連携、の5種類の繋がりを持つ、の3つであった。

地区イベントが空間に与える影響は、①地区において複数の建築・院落や公開空地などがよく利用される、②地区の環境が改善される、③建築・院落の更新が実施される、④活動空間が増加する、の4つであった。

7-3 今後の課題

白塔寺地区において2013年より建築・院落更新によるハード面事業と2015年より地区イベント展開によるソフト面事業が始まったばかりのため、未だ事例が少ない。また、事例の継続性と発展性に関する調査を行っていないため、人的関係と空間への影響の全てを明らかにすることはできなかった。今後の研究で更なる調査が必要である。

謝 辞

本研究を進めるにあたり、多くの方々にご協力して頂いたことに感謝致します。

指導教員である饗庭先生をはじめ、都市システム科学域の先生方から多くのご支援とご指導を頂き、深く感謝しております。また、都市システム科学域の先輩、同級生、後輩からも沢山のアドバイスを頂き、特に同じ研究室の皆様に研究内容や日本語の修正等について相談することが多くありました、重ねて感謝致します。

また、本研究の調査に協力をしてくださった北京市白塔寺地区の株式会社 H、社区文化活動空間の運営団体（団体 N と民間企業 M）、白塔寺分会場北京国際設計週の実施団体雑誌出版社 WA、白塔寺分会場北京国際設計週の協力開催団体等の皆様にはお忙しい中、丁寧に対応して頂きまして誠にありがとうございました。

最後に、大学院まで通わせてくれた両親に感謝致します。日本の東京に留学することを許して頂き、いつも心配しながらも暖かく見守ってくれたことに心から感謝致します。

皆様に心から感謝を申し上げます。

2019 年 2 月 12 日

劉夢晗

資料編

資料1 歴史文化名城一覧		
番号	名称	公開年度
1	北京	1982年2月8日
2	承德	
3	大同	
4	南京	
5	苏州	
6	扬州	
7	杭州	
8	绍兴	
9	泉州	
10	景德镇	
11	曲阜	
12	洛阳	
13	开封	
14	江陵	
15	长沙	
16	广州	
17	桂林	
18	成都	
19	遵义	
20	昆明	
21	大理	
22	拉萨	
23	西安	
24	延安	
25	上海	
26	天津	
27	沈阳	
28	武汉	
29	南昌	
30	重庆	
31	保定	
32	平遥	
33	呼和浩特	
34	镇江	
35	常熟	
36	徐州	
37	淮安	
38	宁波	

39	歙县	1986年12月8日
40	寿县	
41	亳州	
42	福州	
43	漳州	
44	济南	
45	安阳	
46	南阳	
47	商丘(县)	
48	襄阳	
49	潮州	
50	闽中	
51	宜宾	
52	自贡	
53	镇远	
54	丽江	
55	日喀则	
56	韩城	
57	榆林	
58	武威	
59	张掖	
60	敦煌	
61	银川	
62	喀什	
63	正定	
64	邯郸	
65	新绛	
66	代县	
67	祁县	
68	哈尔滨	
69	吉林	
70	集安	
71	衢州	
72	临海	
73	长汀	
74	赣州	
75	青岛	
76	聊城	
77	邹城	
78	临淄	

79	郑州	1994年1月4日
80	浚县	
81	随州	
82	钟祥	
83	岳阳	
84	肇庆	
85	佛山	
86	梅州	
87	海康	
88	柳州	
89	琼山	
90	乐山	
91	都江堰	
92	泸州	
93	建水	
94	巍山	
95	江孜	
96	咸阳	
97	汉中	
98	天水	
99	同仁	
100	山海关区	2001年8月10日
101	凤阳县	2001年12月17日
102	襄阳市	2004年10月1日
103	安庆市	2005年4月14日
104	泰安市	2007年3月9日
105	海口市	2007年3月13日
106	金华市	2007年3月18日
107	绩溪县	2007年3月18日
108	吐鲁番市	2007年4月27日
109	特克斯县	2007年5月6日
110	无锡市	2007年9月15日
111	南通市	2009年1月2日
112	北海市	2010年11月9日
113	宜兴市	2011年1月24日
114	嘉兴市	2011年1月24日
115	中山市	2011年3月12日
116	太原市	2011年3月14日
117	蓬莱市	2011年5月1日
118	会理县	2011年11月2日

119	库车县	2012年3月15日
120	伊宁市	2012年6月28日
121	泰州市	2013年2月10日
122	会泽县	2013年5月18日
123	烟台市	2013年7月28日
124	青州市	2013年11月18日
125	湖州市	2014年7月14日
126	齐齐哈尔市	2014年8月6日
127	常州市	2015年6月1日
128	瑞金市	2015年8月11日
129	惠州市	2015年10月3日
130	温州市	2016年4月22日
131	高邮市	2016年11月22日
132	永州市	2016年12月16日
133	龙泉市	2017年7月16日
134	长春市	2017年10月15日
135	蔚县	2018年5月2日
出典： http://www.wenbao.net/html/whyichan/lsmc/lsmc.htm 、 https://zh.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%BD%E5%AE%B6%E5%8E%86%E5%8F%B2%E6%96%87%E5%8C%96%E5%90%8D%E5%9F%8E （最終閲覧日2018年12月16日）		

資料2	第一次指定	第一次指定（修正）	第二次指定（追加）	第三次指定（追加）
資料2 北京市における歴史文化保護区リスト	1990年	1999年	2002年	2005年
	南池子大街	南长街	皇城历史文化保护区	新太仓历史文化保护区
	南锣鼓巷街	北长街	北锣鼓巷历史文化保护区	东四南大街历史文化保护区
	北池子大街	西华门大街	张自忠路北历史文化保护区	南闹市口历史文化保护区
	西四北一至八条街区	南池子	张自忠路南历史文化保护区	
	南长街	北池子	法源寺历史文化保护区	
	北长街	东华门大街	西郊清代皇家园林历史文化保护区	
	什刹海地区	文津街	卢沟桥宛平城历史文化保护区	
	地安门大街	景山前街	模式口历史文化保护区	
	景山前街	景山东街	三家店历史文化保护区	
	琉璃厂东街	景山西街	爨底下村历史文化保护区	
	景山后街	景山后街	榆林堡历史文化保护区	
	琉璃厂西街	地安门内大街	岔道城历史文化保护区	
	景山东街	陟山门街	古北口老城历史文化保护区	
	大柵栏街	五四大街	遥桥峪城堡、小口城堡历史文化保护区	
	景山西街	什刹海地区	焦庄户历史文化保护区	
	牛街	南锣鼓巷		
	东华门大街	国子监地区		
	五四大街	阜成门内大街		
	西华门大街	西四北头条至八条		
	文津街	东四三条至八条		
	陟山门街	东交民巷		
	东交民巷	大柵栏		
	国子监街	东琉璃厂街		
	阜成门内大街	西琉璃厂街		
	颐和园至圆明园街区	鲜鱼口地区		
出典： https://zh.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%97%E4%BA%AC%E5%8E%86%E5%8F%B2%E6%96%87%E5%8C%96%E4%BF%9D%E6%8A%A4%E5%8C%BA （最終閲覧日2018年12月16日）				